

教 育 課 程

2026年度

金 城 学 院 中 学 校
金 城 学 院 高 等 学 校



目

次



聖書科	1
国語科	10
社会科・地理歴史科・公民科	35
数学科	66
理科	97
保健体育科	124
芸術科	150
技術家庭科	160
外国語科	176
情報科	197
Dignity	210
Study Skills	221

教科名		聖書科	科目名	聖書入門
対象学年		中学1年	コース・選択等	——
単位数		1単位	教科書 (出版社)	聖書・「聖書」 (日本キリスト教団出版局)
使用教材		「聖書資料集」(日本キリスト教団出版局)		
学習のねらい		聖書・礼拝・祈り・主の祈り・賛美について基礎的なことを学び、身に着けると共に、旧約聖書から新約聖書を概観し、神様が共にいて導いてくださっていることと神の愛について学ぶ		
学習 内容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	聖 書
	1学期	1. オリエンテーション 2. 礼拝堂で礼拝しよう 3. 聖書について 4. 祈りについて 5. 主の祈り① 6. 主の祈り② 7. 金城学院とキリスト教 8. 賛美について	金城学院がキリスト教の学校であることを知ると共に、学校生活に関わる聖書・礼拝・祈り・主の祈り・賛美について学ぶ	箴言 1:7 マタイ 6:9-15 ルカ 11:2-4 など
	2学期	1. 旧約聖書を学ぼう① 2. 旧約聖書を学ぼう② 3. 旧約聖書を学ぼう③ 4. 旧約聖書を学ぼう④ 5. 新約聖書を学ぼう① 6. 新約聖書を学ぼう② 7. 新約聖書を学ぼう③ 8. 新約聖書を学ぼう④	①旧約聖書から新約聖書への歴史の流れを概観し、旧約聖書から新約聖書へとつながる神様の導き、愛について学ぶ。 ②クリスマスの出来事について詳しく学ぶ	①創世記、出エジプト記、ルツ記、サムエル記、列王記など抜粋して読む。 ②マタイ 1:1-2:12、ルカ 1:5-2:21
	3学期	1. キリスト教の暦 2. 新約聖書を学ぼう⑤ 3. 新約聖書を学ぼう⑥ 4. 新約聖書を学ぼう⑦ 5. 新約聖書を学ぼう⑧	キリスト教の暦を通して、十字架・復活・聖霊降臨について概観する。	マルコ 11:1-16:8の抜粋と、使徒言行録 2:1-13
学習の留意点・評価など		聖書に親しみ、神様によって導かれ、愛されていることを知るよう導く。 評価：知識・技能（定期試験）、思考・判断表現（定期試験）、主体的に取り組む態度（ミニテスト・レポートなど）		

教科名		聖書科	科目名	旧約聖書
対象学年		中学2年	コース・選択等	——
単位数		1単位	教科書 (出版社)	聖書・「聖書」 (日本キリスト教団出版局)
使用教材		「聖書資料集」(日本キリスト教団出版局)		
学習のねらい		時代にそって旧約聖書の概要を掴み、新約聖書へとつながる神様の導きを知る。 また、登場人物の生き方・在り方を知り、自分自身の成長の一助とする。		
学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単元	ねらい	聖書
	1学期	1. オリエンテーション 2. 旧約聖書を学ぶ、天地創造 3. 人間の創造、アダムとエバ 4. カインとアベル、バベルの塔 5. アブラハム 6. イサク 7. 絵本づくり ヤコブ① 8. 絵本づくり ヤコブ② 9. 絵本づくり ヤコブ③	①旧約聖書を概観し背景を学ぶ ②天地創造物語と族長物語を通して神の愛と人の在り方を学ぶ	創世記
	2学期	10. 絵本づくり ヤコブ④ 11. 絵本づくり ヤコブ⑤ 12. 絵本づくり ヤコブ⑥ 13. 絵本づくり ヤコブ⑦ 14. ヨセフ 15. モーセ 16. 王国の建設①(士師～サウル) 17. 王国の建設②(ダビデ)	エジプト脱出から王国建設の歴史の流れを概観し、共同体の形成について学ぶ	創世記 出エジプト記 ヨシュア記 サムエル記上・下 など
	3学期	18. 王国の建設③(ソロモン～王国分裂) 19. 預言者①エリヤ 20. 預言者②イザヤ 21. バビロン捕囚と解放、主イエスの誕生まで 22. 文学書	「預言者」の働きとメシア待望に至る流れを学ぶ	列王記上 イザヤ書 詩編 など
学習の留意点・評価など		旧約聖書の物語性に親しみ、登場人物に自分を照合しつつ読む。共同体形成の過程(歴史)に貫かれる救いを把握させる。ノート作成・論述の力を養う機会を設ける。 評価: 知識・技能(定期試験)、思考・判断表現(定期試験)、主体的に取り組む態度(レポートなど)。		

教科名		聖 書 科	科 目 名	新約聖書
対象学年		中学 3 年	コース・選択等	――
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	聖書・「新約聖書の教え」 (キリスト教学校教育同盟編) 創元社
使用教材		「聖書資料集」(日本キリスト教団出版局)		
学習の ねらい		新約聖書のマタイによる福音書を中心に、イエス・キリストの歩みを学び、イエス・キリストにおいて実現された神の愛を知ること、神に愛されていること、隣人を愛することを学ぶ。また、受難から教会の誕生・パウロについて学ぶことで、今の自分たちに聖書が繋がっていることを知る。		
学習 内容と 流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	聖 書
	1 学期	1. ガイダンス 2. 旧約聖書からのつながり 3. 洗礼を受ける 4. 誘惑を受ける 5. 弟子を招く 6. 教え①②山上の説教 7. たとえ話①タラントン 8. たとえ話②ぶどう園 9. 奇跡①百人隊長のしもべを癒す	旧約聖書からのつながりを復習し、イエス・キリストの歩みを特に教え・たとえ話を中心に学ぶ	マタイ 1:1-18 マタイ 3:1-17 マタイ 4:1-17 マタイ 4:18-22 マタイ 5-7章 マタイ 25:1-13、14-30 マタイ 9:18-26
	2 学期	10. 奇跡②5千人に食べ物を与える 11. 盲人のいやし 12. エルサレム入城、宮きよめ 13. ベタニアで香油を注がれる 14. 過越しの食事・洗足 15. ゲツセマネの祈り・逮捕 16. 最高法院・ピラトの裁判 17. 十字架の死 18. まとめ	奇跡物語と受難物語を中心に学ぶ	マタイ 20:29-34 マタイ 14:13-20 受難物語は、マタイによる福音書21:1-28:20の該当箇所
	3 学期	19. 復活 20. ペンテコステ 21. パウロの生涯①パウロの回心 22. パウロの生涯②伝道旅行 23. パウロの生涯③手紙 24. まとめ		マタイ 28:1-20 使 1:3-26 使 2:1-47、4:32-37 使徒言行録の該当箇所 手紙など
学習の 留意点・ 評価など		新約聖書を通して神の愛を実感すると共に、自分に語りかけられている神の言葉として聞くことができるよう導く。 評価：知識・技能（定期試験）、思考・判断表現（定期試験）、主体的に取り組む態度		

教科名		聖書科	科目名	聖書
対象学年		高校1年	コース・選択等	必修
単位数		1単位	教科書（出版社）	『聖書』
使用教材		教材プリント、ファイル、課題図書		
学習のねらい		新約の福音書、使徒言行録、書簡を読み、イエス・キリストに出会った人たちを通して、自分の生き方を捉え直す。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	1. オリエンテーション	挨拶、授業の進め方、金城学院の創設、金城学院の歴史	
		2. 聖書の神様を「信じる」	「願いを聞き入れる神様」、「心の奥底で出会う神様」の理解と適応	ルカ 1:26-56
	5月	3. 神様の「とき」を知る	「とき満ちる神様の業」、「人生に見る神様のしるし」の理解と適応	ルカ 2:1-38
		4. 神様に「守られる」	「神様と言う家」、「神様の家に住み続ける」の理解と適応	ルカ 2:41-4:20
		5. 「新しく」される人	「平和を作りだす人」、「自ら進んで救す人」の理解と適応	ルカ 6:27-49
	6月	6. 神様からの「愛」	「目に見えない愛」、「神様の愛に生きる」の理解と適応	ルカ 10:21-42
		7. 神様以外を「恐れない」	「私を知る神様」、「行く道を照らす神様」の理解と適応	ルカ 12:1-40
		8. 愛される命を「生きる」	「人間の愛」、「父なる神様と子なる主イエスの愛」、の理解と適応	ルカ 15:1-32
	7月	9. 主イエスと「私たち」	「十字架の愛」、「復活の力」、「主イエスの愛に出会う」の理解と適応	ルカ 23:44-24:32
	9月	10. 神様への「祈り」	「私たちの祈り」、「私たちの心」、「私たちの希望」の理解と適応	ルカ 11:1-36
		11. 神様からの「恵み」	「目が見える」、「罪の木から降りる」、「愛を信じる」の理解と適応	ルカ 18:35-19:27
		12. 広がり行く「神の国」	「神の国はどこに」、「永遠と有限」の理解と適応	使徒 1:1-26

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	10 月	13. 「聖霊」と共にある	「聖霊に満たされる」、「聖霊を信じること」の理解と適応	使徒 2:1-47
		14. 私たちの「罪」	「目で犯す罪」、「神様の愛に生き得ない罪」の理解と適応	使徒 3:1-4:14
		15. 神様に「従う」人	「自由と支配」、「聖書の基準」の理解と適応	使徒 5:12-42
	11 月	16. 神様の「御言葉」	「神様の言葉」、「神様の赦し」、「神様の愛」の理解と適応	使徒 6:1-8:35
		17. 神様による「選び」	「この世の光と闇」、「神様の御心」、「洗礼」の理解と適応	使徒 9:1-26
		18. 人生の中での「経験」	「経験の意味」、「聖書から知る経験の意味」の理解と適応	使徒 10:9-10:35
		19. 私たちの「属するところ」	「属する場所」、「身に着けているもの」の理解と適応	使徒 11:19-12:19
	12 月	20. 私たちの「あるべき関係」	「神様のと人の関係」、「人と人の関係」の理解と適応	使徒 16:16-40
		21. 私という「存在」	「違いと役割」、「選びと使命」の理解と適応	使徒 17:16-33
	1 月	22. 私たちの「力」	「人間の力」、「神様の力」の理解と適応	使徒 18:4-20:21
23. 神様に「委ねる」人生		「人生の計画」、「人生を委ねる」の理解と適応	使徒 20:13-20:28	
24. 神様の「真実」		「真実と偽り」、「真実による力」の理解と適応	使徒 22:30-23:22	
25. 神様の「道」		「行き留まる道」、「逃れの道」の理解と適応	使徒 27:13-44	
2 月		26. 狭い「門」から入る	「自由な選び」、「目標を目指す」の理解と適応	コリ I 1,3,9
		27. キリストの「体」	「部分と全体」、「弱さの意味」の理解と適応	コリ I 12,13
		28. まとめ	1 年間の学びを文章でまとめる	
学習の 留意点・ 評価など	・ 聖書の物語や、書簡などに書かれている言葉を正しく理解する。 ・ さらに、その聖書理解を踏まえたうえで、今の自分の生き方を捉え直してゆかせる。 ・ 定期考査の成績に加え、提出物や課題に取り組む姿勢によって評価する。			
備 考	・ 中学ですでに履修しているところは、さらに深い学習内容と授業展開を行う。 ・ 高1は、高校での聖書科の授業の基礎作りであるから、聖書の授業への姿勢も育てる。 ・ 高1は、自らの進路を考え始める時期であるから、そのことに配慮した授業とする。			

教科名		聖書科	科目名	聖書
対象学年		高校2年	コース・選択	必修
単位数		1単位	教科書 (出版社)	『聖書』 『聖書と人間』(新教出版)
使用教材		教材プリント、課題図書		
学習のねらい		旧約の物語を読み進めて、神に出会った人たちを通して、これからの自分の生き方を決定してゆけるようにする。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月	1. 天地創造	「人生」、「闇と光」、「夕べと朝」、「良し」の理解と適応	創世記 1:1-5
		2. 神のかたち	「古さと新しさ」、「支配」、「労働」の理解と適応	創世記 1:26-2:4
		3. エデンの園	「創造の物語」、「助け合う」、「自然とのかかわり」の理解と適応	創世記 2:4-25
	5月	4. 楽園喪失	「善悪を知る」、「破れ」、「呪い」の理解と適応	創世記 3:-24
		5. カインとアベル	「神の公平」、「アベルの血」、「しるし」の理解と適応	創世記 4:1-16
		6. ノアの洪水	「無垢な人」、「箱舟」、「鳩と虹」の理解と適応	創世記 6:1-9:
	6月	7. バベルの塔	「言語」、「塔のある町」、「降られる神」の理解と適応	創世記 11:1-9
		8. 旅人アブラハム	「歴史と伝説」、「旅人」、「故郷」、「行く先」の理解と適応	創世記 12:1-9
		9. とりなしの人アブラハム	「財産」、「土地」、「神の前に立つ」、「滅亡」の理解と適応	創世記 18:16-19:26
	7月	10. 信仰の父アブラハム	「約束」、「笑い」、「ここにいる」、「主の備え」の理解と適応	創世記 22:1-14
		11. エサウとヤコブ	「双子」、「石の枕」、「イスラエルという呼び名」の理解と適応	創世記 25-33
	9月	12. ヨセフ	「夢」、「共にある」、「再会と告白」の理解と適応	創世記 37-50
		13. 引き上げられたモーセ	「引き上げられる」、「現れる神」、「自分は何者」の理解と適応	出エジ 1-4
		14. エジプト脱出	「かたくな」、「過ぎ越しの羊」、「紅海」の理解と適応	出エジ 5-15

	学期・月等	単元	ねらい	留意点
学習内容と流れ	10月	15. 荒れ野の旅	「40年の放浪」、「マナ」、「岩から水」の理解と適応	出エジ 16-18
		16. 十戒	「聖なる民」、「神への義務」、「人への義務」の理解と適応	出エジ 20:1-17
		17. サムソン	「士師」、「恋」、「大力と秘密」の理解と適応	士師 13-16
	11月	18. ルツ	「姑と嫁」、「落ち穂拾い」、「永遠の喜び」の理解と適応	ルツ
		19. サムエル	「時代の転換」、「僕は聞く」、「油そそぎ」の理解と適応	サム I 1-15
		20. ダビデ	「美少年」、「流浪と滅亡」、「偉大な王国」の理解と適応	サム I 16-サム II 12
	12月	21. ソロモン	「聞き分ける心」、「栄華」、「神殿の建造」の理解と適応	列王 I 1-11
		22. エリヤ	「危機」、「養い」、「ささやく声」の理解と適応	列王 I 17-19
	1月	23. アモスとホセア	「預言者」、「正直で親切」、「恐れ」、「勇気」の理解と適応	アモス、ホセア
		24. イザヤ	「派遣」、「立ち帰る」、「救い」、「平和」の理解と適応	イザヤ 1-39
		25. エレミヤ	「建てる」、「虚しい言葉」、「呪い」、「新しい契約」の理解と適応	エレミヤ
	2月	26. 第2イザヤ	「第2イザヤ」、「苦難の僕」、「慰め」の理解と適応	イザヤ 40-50
		27. ヨブ	「苦難」、「皮膚病」、「嘆き」、「因果」の理解と適応	ヨブ
		28. ヨナ	「神の言葉」、「魚の腹の中」、「悔い改め」、「神の愛」の理解と適応	ヨナ
	3月	29. 信仰の生き方（論述）	旧約の登場人物の生き方と信仰を振り返り、自分の生き方と比較省察	
学習の留意点・評価など		・聖書の物語や、書簡などに書かれている言葉を正しく理解する。 ・さらに、その聖書理解を踏まえたうえで、これからの自分の生き方を決定してゆかせる。 ・定期考査の成績に加え、提出物や課題に取り組む姿勢によって評価する。		
備考		・中学ですでに履修しているところは、さらに深い学習内容と授業展開を行う。 ・高2は、旧約を人物に焦点を当てて読み、聖書を生き方としての視点をもって理解する。 ・高2は、自らの進路を決定してゆく時期であるから、そのことに配慮した授業とする。		

教科名		聖書科		科目名	聖書
対象学年		高校3年		コース・選択	必修
単位数		1単位		教科書 (出版社)	『聖書』
使用教材		教材プリント、ファイル、課題図書			
学習のねらい		これまで学んできた新旧約をプロテスタントのカテキズム（教理）に従って精読し、自分の選んだ生き方を積極的に歩んでゆくために、聖書の言葉を心に刻む。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	テーマ		聖書（小題）
	4月	1. オリエンテーション	1. 学習のねらいの把握		授業の進め方、年間の単元の説明、6年間の聖書の学び
		2. 天地の創造	信仰	2. 新しい命の輝き	創世記1（「はじめにある神」、「世の秩序」、「6日間の創造」）
		3. 人間の創造		3. 人として生きるため	創世記2（「土からの創造」、「パートナー」、「土へ帰る者」）
	5月	4. ノアの方舟		4. 与えられている命	創世記2（「虹（神様の祝福）」、「約束」、「方舟（家族）」）
		5. モーセの出生		5. 生きるための視点	出エジ1（「エジプトの状況」、「イスラエルの捕囚」、「モーセの誕生」）
		6. モーセの罪		6. 人生の分岐点	出エジ2（「モーセの罪」、「モーセの決意」、「神様の契約」）
	6月	7. モーセの召命		7. 信じることの強さ	出エジ4（「モーセの召命」、「神様のしるし」、「助ける者」）
		8. 十戒（序、1－3戒）		8. 生きるための戒めⅠ	出エジ20（「唯一の神」、「偶像を退け」、「神に誓うこと」）
		9. 十戒（4－7戒）		9. 生きるための戒めⅡ	出エジ20（「安息の日」、「家族」、「命の重さ」、「結婚、出産」）
	7月	10. 十戒（8－10戒、結）		10. 生きるための戒めⅢ	出エジ20（「盗むこと、分かち合うこと」、「偽りと真実」、「貪りと感謝」）
		11. 神の試練		11. 壁を越えて行こう	出エジ14（「エジプト脱出」、「イスラエルの罪」、「海を分ける奇跡」）
		12. 神の選び		12. 努めて得られるもの	申命記6-7（「与えられているもの」、「宝の民」、「今を生きる」）
	9月	13. 福音の初め	救い	13. 自らのミッション	マルコ1（「プロローグ」、「弟子のミッション」、「主イエスの評判」）
		14. 福音の宣教		14. 心を高く上げて	マルコ2（「中風の癒し」、「罪人の招き」、「新しい革袋」）
		15. 弟子の任命		15. 人生に期待する	マルコ2-3（「12弟子の任命」、「理解者と無理解者」）

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	テ ー マ		聖 書 (小題)
	10 月	16. 種まきのたとえ		16. 豊かに成長する	マルコ 4:5 (「道端の地」、「石地」、 「茨の地」、「そのままの地」)
		17. 奇跡物語		17. 隣人との交わり	マルコ 6 (「神の愛」、「神の奇跡」、「す べての満足」)
		18. この世の力		18. 新しい自分と出会う	マルコ 7:9 (「悪しき習慣」、「新しい 自分」、「生きる基準」)
	11 月	19. エルサレム入場	救い	19. 本物の愛	マルコ 10:12 (「愛の戒め」、「神への 愛」、「隣人への愛」)
		20. 最後の晩餐		20. 理想と現実のはざま	マルコ 13:14 (「運命」、「人の限界」、 「罪と死」、「欲望」)
		21. キリストの十字架		21. 罪から解かれる道	マルコ 14:15 (「人間的な愛」、「誓い」、 「裁き」、「罪と赦し」)
	12 月	22. キリストの復活		22. 死を見つめて	マルコ 16 (「復活の日」、「週の始ま り」、「礼拝の日」)
		23. Whiteline	23. 6年間のまとめ		6年間の「礼拝」、「聖書の授業」、「宗 教行事」を自ら振り返る
	1 月	24. 神の知恵		24. 知恵を求めて	ローマ 1:6 (「見えないもの」、「尽き ない恵み」、「まことの希望」)
		25. 神の愛		25. すべてがプラス	ローマ 7:9 (「望んでいる自分」、「神 の愛」、「土の器の創り主」)
		26. 神の義		26. 人を動かす力	ローマ 10:13 (「神の言葉」、「神への 信仰」、「光の武具」)
2 月	27. 神の賜物	感謝	27. 宝を探し出す	コリ II (「土の器」、「内なる人と外な る人」、「受けている賜物」)	
	28. 神の恵み		28. 今日が救いの日	エフェ (「秘められた計画」、「光の 子」、「神の武具」)	
	29. まとめ		29. 聖句を振り返る		区切りのときに語られた聖書の言葉、 及び、年間聖句
学習の 留意点・ 評価など		・ 聖書の物語や、書簡などに書かれている言葉を正しく理解する。 ・ さらに、その聖書理解を踏まえたうえで、今の自分の生き方を捉え直してゆかせる。 ・ 定期考査の成績に加え、提出物や課題に取り組む姿勢によって評価する。			
備 考		・ 中学や高校ですでに履修しているところは、さらに深い学習内容と授業展開を行う。 ・ 高3は、卒業修養会と卒業礼拝があるので、それらの行事と関連させた授業とする。 ・ 高3は、決定した進路を歩み始める時期であるから、そのことに配慮した授業とする。			

教科名		国 語 科	科 目 名	講 読
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	——
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	伝え合う言葉 中学国語 1 (教育出版)
使用教材		「国語の学習 1」(浜島書店)、「愛知県版国語便覧」(浜島書店)、「ステップ別常用漢字」(浜島書店)、「夏期テキスト」(文理)		
学習のねらい		文学的文章や説明的文章、詩歌などの様々な表現について、その内容を正確に読み取り、鑑賞する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月 5 月	・ふしぎ (詩) ・弁論作文 ・聞くということ (随筆) ・昔話と古典 一箱に入った桃太郎 (古文)	・言葉をとおして自分と相手を理解する。 ・古典にはさまざまな作品があることを知り、古典の仮名遣いにふれる。	・詩のリズムを味わい、表現技法の種類を確認する。
	6 月 7 月	・自分の脳を知っていますか (説明文) ・蜘蛛の糸 (物語) ・「エシカル」に生きよう (説明文)	・意見と根拠などの関係について理解する。文章の中心的部分や付加的な部分、事実と意見との関係を捉え、要旨を把握する。 ・わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。 ・持続可能な社会の実現に向けて、自分の課題を発見する。	・物語文、説明文の特徴をとらえて読む。
	9 月 10 月	・森には魔法つかいがいる (説明文) ・物語の始まり 一竹取物語 (古文) ・蓬萊の玉の枝と偽りの苦心談 一竹取物語 (古文)	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして考える。 ・仮名遣いに注意しながら音読し、古典に親しむ。登場人物の関係や心情に注意して、内容を理解する。	・時代による文化の違いを比較検討する視点を持つ。 ・平安時代の人々の生活、考え方にふれる。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	11月 12月	・ 子どもの権利（説明文） ・ デューク（物語）	・ 専門的な事柄を表す語句の意味をおさえ、文章内容を捉える。反論を用いた文章の構成や展開に着目し、筆者の主張を読む。 ・ 他者とのふれあいによって変化していく主人公の心情に着目して読む。	・ 人物の心情を深く掘り下げて読む。
	1 月	・ 故事成語 一中国の名言（漢文）	・ 漢文訓読の仕方を理解し、音読して、漢文に慣れる。 いろいろな故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する。	・ 日本文化における漢文の位置づけを知る。
	2 月 3 月	・ 少年の日の思い出（物語）	・ 行動や心情を表す言葉や語句の文脈上の意味に注意して読み、語彙を豊かにする。 語り手に着目して作品を読み、交流をとおして自分の考えを確かなものにする。	・ 工夫された表現を味わい、人間の心の深い部分を読み取る。
学習の 留意点・ 評価など		・ 主題を正確にとらえ、一つの理解に対して文章中にその根拠を持って説明できるような力を養い、確認する。 ・ 説明文、文学的文章ともに、さらに深めた読み取りをめざす。 ・ 古文・漢文の表現、日本文化における意義を理解する。		
備 考				

教科名		国語科	科目名	文法
対象学年		中学1年	コース・選択等	――
単位数		1単位	教科書 (出版社)	
使用教材		「中学国文法のドリル」(吉野教育図書)・「ロジカル国語表現Ⅰ」(好学出版)		
学習の ねらい		これまで学習してきた日本語の断片的な知識を整理し、正しく理解する。また、文章を正確に読み取り、わかりやすい文章を書かせるなど、正しい言葉遣いを身につける。 論理的思考力と創造的表現力を育てるため、「ロジカル国語表現Ⅰ」を用いて、論理の仕組みを基本から学ぶ。		
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単元	ねらい	留 意 点
	4月	〔口語文法〕 1. 言葉の単位 2. 文の組み立て	・ 文節、単語などの言葉の基本的な単位を理解する。 ・ 文節と文節の関係やその働きを理解する。 ・ 単語がその性質や働きによって品詞に分けられることを知る。	・ 日常生活の中で、何気なく使っている言葉が、一定の決まりに従って用いられているものであることを、観察や反省を通じて発見し、理解する。
	5月	3. 単語の種類		
	6月	〔ロジカル国語表現Ⅰ〕 4. 単元1～3	・ 言葉の使い方、文の組み立てを学び、書くことの基礎を身につける。	
	7月	〔口語文法〕 5. 副詞 6. 接続詞	・ 各品詞の特徴、特に活用について理解する。	
	9月	〔口語文法〕 7. 用言		
	10月			
	11月			
	12月			
	1月			
	2月	〔ロジカル国語表現Ⅰ〕 8. 単元4～7	・ 接続語、因果関係、具体と抽象、対比、文章の構成から論理のしくみを学ぶ。	
	3月			
学習の 留意点・ 評価など		「読む」「書く」「聞く」「話す」などの日常生活の上で文法（ことばのきまり）を理解し、論理的な文章を書く力をつけることができたか。		
備 考				

教科名		国 語 科	科 目 名	講 読
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		3 単位	教科書 (出版社)	伝え合う言葉 中学国語 2 (教育出版)
使用教材		「国語の学習 2」(浜島書店) 「ステップ別常用漢字」(浜島書店) 「愛知県版国語便覧」(浜島書店) 「夏期テキスト」(文理)		
学習の ねらい		一年時に学習した知識をもとに、文章に対する理解を深める。習得した語句、文章の構成などをもとに自分の考えを適切に表現できるようにする。日本文化その他さまざまな事象に対して書かれた文章を正しく読み取り、それについて自分の考えを表現できるようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月 5 月 6 月 7 月	「虹の足」(詩) 「タオル」(小説) 弁論作文 「字のない葉書」(随筆) 「枕草子・徒然草」(古文) 「日本の花火の楽しみ」 (説明文)	・ 詩の主題を掘り下げる。 ・ 登場人物の心情の流れ を理解する。 ・ 古典文学を味わう。 ・ 筆者の主張を読み取る。	・ 1 年時の学習をさらに 進めた理解・表現がで きるようにする。
	9 月 10 月 11 月 12 月	「走れメロス」(小説) 「孔子の言葉」(漢文) 「ガイアの知性」(説明文) 「短歌の味わい」(短歌)	・ 「信じる」ことの意味 について考える。 ・ 古人の思想に触れる。 ・ 人間を取り巻く自然の 奥深さを理解する。 ・ 表現方法に注目して短 歌を味わう。	・ 長く読み継がれている 名作を味わう。 ・ 人間の生き方について 考える。 ・ 人間も地球環境の一部 であることを理解する。 ・ 伝統的な日本の短詩文 学を味わう。
	1 月 2 月 3 月	「敦盛の最期」(古文) 「扇の的」(古文) 「夏の葬列」(小説)	・ 平家物語を通して、武 士という生き方につい て考える。 ・ 戦争が民間の人々に残 した爪痕の痛みを読み 取る。	・ 独特の古文表現を理解 する。 ・ 戦争の歴史の上に今の 平和があることを自覚 する。
	学習の 留意点・ 評価など		・ それぞれのジャンルの特徴をふまえて、それに応じた読解のしかたを工夫して教える。	
	備 考			

教科名		国語科	科目名	書写・文法
対象学年		中学2年	コース・選択等	―――
単位数		1単位	教科書 (出版社)	中学書写（教育出版）
使用教材		「中学国文法のドリル」（吉野教育図書）・「ロジカル国語表現Ⅰ」（好学出版）		
学習のねらい		・ 正確な理解と的確な表現力を身につけるために、断片的な文法の知識を系統的に学習し、それぞれの品詞の働きと意味について理解する。（文法） ・ 文字を正しく整えて書くことができるように行書の練習をするとともに、文字感覚の育成と書写能力を日常的に役立てることを目指す。（書写） ・ 論理的思考力と創造的表現力を育てるためにテキストを用いて、論理を利用し実践的な文章を読んだり、書いたりできるようにする。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	4月 5月	〔口語文法〕 1年生の復習 品詞の分類・用言・その他	品詞の分類や用言の活用を復習し、理解を深める。	・ 現代文法における品詞の種類、助動詞や敬語の意味や用法を正しく理解し、日常の中でも適切に使用できるようにする。 ・ 中3で学習予定の古典文法の学びにつなげる。 ・ 正しい姿勢で丁寧に文字を書く、文字の配置や大きさを考えて書くなど、日常生活においても役立てられるようにする。
	6月 7月	〔口語文法〕 助詞 (試験後) ロジカル国語表現（対比）	助詞について理解し、適切に用いることができるようにする。 対比を学び、講読の学習に繋げる。	
	9月 10月	〔口語文法〕 助動詞	助動詞について意味や用法を理解し、適切に用いられるようにする。	
	11月 12月	〔口語文法〕 助動詞 敬語の用法 紛らわしい品詞の見分け方 (試験後) 〔書写〕 1. 行書の学習 行書の筆づかいと字形 点画の連続、点画の変化と省略（硬筆）	助動詞について意味や用法を理解し、適切に用いられるようにする。 敬語の意味や用法を正しく理解する。 紛らわしい品詞について理解し、区別できるようにする。 正しい姿勢で集中し、文字を丁寧に書く。	
	1月 2月 3月	〔書写〕 2.いろは歌（毛筆） 3.ちらし書き（毛筆） 〔口語文法〕 単文、複文、重文 動詞の復習 ロジカル国語表現 (文章の構成)	筆づかい、行書特有の書き順に触れ、書写に親しむ。 文字の配置や大きさを考える。 書写が日常生活の中で役立てられるようにする。 複雑な文の構造を理解する。 中3で学習予定の古典文法の学びにつなげる。	
学習の留意点・評価など		1年生時に学んだ文法（ことばのきまり）を復習・理解し、定着させることができるか。 敬語などの用法を正しく理解し、日常生活においての使用ができるか。 姿勢や書き順など、文字自体の美しさにとらわれず整えて書くことができるか。		

教科名		国語科	科目名	講読
対象学年		中学3年	コース・選択等	——
単位数		3単位	教科書 (出版社)	伝え合う言葉 中学国語3 (教育出版)
使用教材		「国語の学習3」(浜島書店)、「愛知県版国語便覧」(浜島書店)、 「ステップ別常用漢字」(浜島書店)、「夏期テキスト」(文理)		
学習のねらい		文学的文章や説明的文章、詩歌などの様々な表現について、その内容を正確に読み取り、鑑賞する。 また、言語活動を通して自覚的に「国語(言葉)」と向き合う。		
学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単元	ねらい	留意点
	4月 5月	・春に(詩) ・なぜ物語が必要なのか(随筆) ・メディア・リテラシーはなぜ必要か?(論説) ・漢字の広場2 熟字訓	・詩の表現が持つ特徴や効果を理解し、語感を磨く。作品と共感的に出会う。 ・文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・筆者の主張を捉え、批評する。 ・熟字訓についての理解を深める。	・詩の理解や表現に必要な語感を磨き、語彙を増やす。 ・随筆や論説文の特徴について理解を深め、構成や展開を捉える。
	6月 7月	・生命とは何か(論説) ・AIは哲学できるのか(論説) ・俳句の味わい(説明文) ・俳句十五句(俳句) (期末テスト後) ・語り継ぐもの(読書) ・漢字の広場3 異字同訓	・生命について考えを深める。 ・科学技術と人間のあり方を考える。 ・俳句の中の言葉の使い方注意到し語感を磨き、語彙を豊かにする。 ・戦争体験を伝えることの意義を理解する。 ・異字同訓についての理解を深める。	・生物としての人間を考察する。 ・科学の持つ様々な側面を知る。 ・俳句の表現特性に注目しながら鑑賞する。 ・平和教育の大切さを知る。

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単元	ねらい	留意点
	9月 10月	・ 薔薇のボタン（随筆） ・ 初恋（詩） ・ 漢字の広場 4 四字熟語	・ 修学旅行前に「戦争」や「原爆」について考えを深め、当時の人々の日常生活と現代を生きる自分たちとのつながりを感じる。 ・ 平和を願い、語り継ぐことの大切さを受け止める。 ・ 日本近代詩の代表的な叙情詩として知られる本作品の文体の特徴を理解し、詩の構成や展開、表現の仕方などを味わう。 ・ 四字熟語についての理解を深める。	・ 作品を通して知識を広げ、自分の考えを深める。 ・ 原爆詩の朗読を通して平和の尊さを感じる。 ・ 文語定型詩について、文体の持つ特徴に気づき、詩の魅力を味わう。 ・ 四字熟語の構成や成り立ちに触れ、興味・関心を高めつつ語彙の獲得につなげる。
	11月 12月	・ 問いかける言葉（論説） ・ 青春の歌 ― 無名性の光（短歌の鑑賞文）	・ 筆者の主張とその根拠を関連づけて読み、筆者の立場やものの見方、考え方を捉える。 ・ 青春にまつわる複数の短歌とその解説を読み比べ、筆者の考えやその根拠を知りつつ短歌の世界を味わう。	・ 構成や展開、表現の仕方を捉え、社会や他者との関わりについて考える。 ・ 無名性に着目しながら読み、短歌に描かれた青春というものに対する自分の考えを持つ。
	1月 2月 3月	・ 故郷（小説） ・ async ― 同期しないこと（論説） ・ やわらかな想い（詩）	・ 作者の心情を読み取るとともに、小説の時代背景について理解する。 ・ 筆者の主張とその根拠を関連づけて読み、筆者の立場やものの見方、考え方を捉える。 ・ 詩の中で語られ、問われる「言葉」と「想い」との関係について自分の考えを持つ。	・ 語彙を豊かにし、文学を読み味わう。人間・社会・自然についての自分の意見を持つ。 ・ 構成や展開、表現の仕方を捉え、社会や他者との関わりについて考える。 ・ 「言葉」と「想い」について自ら考え続ける。
学習の留意点・評価など		・ 漢字・語句・文法などの基礎的事項の定着を促し、語彙を豊かにする。 ・ 文章の種類と特徴を考え、中心となる主張や心情を捉えられるようにする。 ・ 補助教材や写真、映像などを用い、教材を実感に近づけるようにする。		
備考				

教科名		国語科	科目名	古典
対象学年		中学3年	コース・選択等	――
単位数		1 単位	教科書 (出版社)	伝え合う言葉 中学国語3 (教育出版)
使用教材		「古典文法クリアノート」(尚文出版)・ 「国語の学習3」(浜島書店)、「愛知県版国語便覧」(浜島書店)		
学習の ねらい		・ 古典文学の世界を知り、古典に親しむ態度を養う。 ・ 文語文法の入り口に触れ、古典読解理解への足がかりとする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月 5 月	・ 五十音図といろは歌 ・ 歴史的かなづかい ・ 動詞 (四段活用)	・ 歴史的かなづかい、品詞、活用形の確認 ・ 動詞の学習 (四段活用・上一段活用・下一段活用・上 二段活用・下二段活用・カ変・サ変・ナ変・ラ変) ・ 係り結びの法則	
	6 月 7 月	・ 動詞 (その他の活用) 徒然草 (仁和寺にある法師) 演習		
	9 月 10 月	・ 万葉・古今・新古今	・ 動詞の復習・定着 ・ 和歌の技法理解・鑑賞	
	11 月 12 月	・ 万葉・古今・新古今 (続き) ・ 漢詩 「春望」・「黄鶴楼」	・ 和歌の技法理解・鑑賞 ・ 漢文訓読の確認と漢詩の鑑賞	
	1 月 2 月 3 月	・ おくのはそ道 旅立ち・平泉・立石寺	・ 古典文学作品の理解・鑑賞 ・ 古語動詞の復習 ・ 形容詞・形容動詞の学習 ・ 用言の復習・定着	
学習の 留意点・ 評価など		文語文法の習得を基盤に据え、古典文学作品の読解に無理なく関わらせていく。 また、文法習得のための練習問題を適宜用意し、利用することで高校への学びにつなげる。		
備 考				

教科名		国語科	科目名	現代の国語
対象学年		高校1年	コース・選択等	必修
単位数		2単位	教科書 (出版社)	精選現代の国語（第一学習社）
使用教材		入試漢字と現代文重要語 キーワード漢字2700（浜島書店） プレミアム国語便覧（数研出版）		
学習のねらい		・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像する力を伸ばす。 ・他者とのかかわりの中で、表現する力及び協働性を高めるとともに、自分の考えを広げ、深めることが出来るようにする。 ・実用文（図表を含む）など様々な分葉を読み慣れると共に、複数のテキストを関連させて理解する力を養う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	
	4月	「『本当の自分』 幻想」 平野啓一郎 【自己と他者】	①内容や構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ②筆者の主張する「個人」とはどのようなものかおさえる。	
	5月	『砂に埋もれたル・コルビュジエ』 原田マハ	①現在と過去の交錯を、段落ごとの関係から読み取り、内容を的確に把握する。 ②登場人物の心情を把握する。 ③戦時中の状況について理解を深める。	
	6月	「水の東西」 山崎正和 【比較文化論】	①対比されている東西文化の違いについて読み取る。 ②文化論への関心を持つ。	
		「間の感覚」 高階秀爾 【日本文化論】	①二項対立及び、例を的確に読み取り、筆者の主張へと集約させる読解方法を習得する。 ②日本人の意識構造や、日本の伝統について認識を深める契機とする。	
	7月	実用的文章	表やグラフなどを含む実用的文章の読み取りの方法を学ぶ。	
	9月 10月	『羅生門』 芥川龍之介	①登場人物の性格・心理・行動を、場面の展開に即して読み取る。 ②典拠となった『今昔物語集』の説話を読み、比較をする。	
	11月	生と死が創るもの【生命倫理】	①三つのまとまりの関係性を捉えて内容を把握し、生命科学の観点から提示される「死」について考えを深める。 ②筆者の経歴や、歌人として発表しているものを調べ、生と死について考える。	
	12月	実用的文章	表やグラフなどを含む実用的文章の読み取りの方法を学ぶ。	
	1月 2月	『城の崎にて』 志賀直哉	①作者が体験した心境小説であることを踏まえ、独自の死生観を読み深める。 ②作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。	
学習の留意点・評価など	3月	「現代の『世論操作』」 林香里 【情報・メディア】	①内容や構成・論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ②情報操作の具体例を通して、筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きるものとしての問題意識を持つ。	
	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 適宜、演習問題を行い実践的な力を養う。			

教科名		国 語 科	科 目 名	言 語 文 化
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	精選言語文化（第一学習社）
使用教材		基礎学習システム必修古文（数研出版） 基礎学習システム必修古文演習ノート（数研出版） 基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート（桐原書店） 解析古典文法（桐原書店） 読んで見て覚える古文単語315（桐原書店） プレミアム国語便覧（数研出版）		
学習の ねらい		・ 上代から近現代につながる作品への理解を深め、親しむと共に、自身の考えを深める。 ・ 文法事項を土台とすると同時に、古典文化の背景をもとにしながら、作品を読解する力を育成していく。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月	【古文】 「兄のそら寝」『宇治拾遺物語』	古文に親しみ、読解の方法をおさえる。 動詞・形容詞・形容動詞 助動詞「ず」「けり」「き」/助詞「ど」「もぞ」「なーそ」/類出語	
	5 月	【漢文】 漢文入門	漢文の基本的な構造を理解する。 書き下し文・置き字・再読文字	
	6 月	【古文】 「東下り」『伊勢物語』	歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 和歌の修辞法 助動詞「つ」「ぬ」「たり」「なり」「り」「む」「むず」	
	7 月	【漢文】 「漁夫の利」『戦国策』	故事成語を理解する。 句型理解→再読文字／否定 重要語の確認→「臣」「方」「不肯」など	
	9 月	【古文】 「九月二十日のころ」『徒然草』	随筆として、作者の価値観を捉える。 →助動詞「まし」「べし」「なり」「る・らる」「す・さす・しむ」 助詞「の」「ば」／「いかでーか」 敬語の基礎を理解する 動作の主体を明らかにして本文を読解する	
	10月	【漢文】 「狐借虎威」『戦国策』	故事成語を理解する。 句型理解→使役/否定/禁止/反語 重要語の確認	
	11月 12月	【古文】 「木曾の最期」『平家物語』	軍記物語の特色を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 助動詞の総復習 音便/敬語（敬意の方向）の理解	
	1 月	【漢文】 「先従隗始」『十八史略』	史伝の特徴を理解し、たとえ話における論理をおさえる。 句型理解→使役/抑揚/比較/反語 重要語の確認	
	2 月	【古文】 「門出」『土佐日記』	記録としての日記とは異なる表現方法と随筆意図を読み解く。 用言・助動詞の総復習/紛らわしい語の識別（「ぬ」「なり」）	
	3 月	【漢文】 『論語』	句型理解 →再読文字等の復習 孔子の思想の特色や考えを理解する	
学習の 留意点・ 評価など		「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 適宜、演習問題を行い実践的な力を養う。		

教科名		国 語 科	科 目 名	論 理 国 語
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠⅡⅢ
単位数		2単位	教科書 (出版社)	標準論理国語（第一学習社）
使用教材		・プレミアムカラー国語便覧（数研出版） ・入試漢字と現代文重要語キーワード漢字2700（浜島書店） ・ちくま文学講読上級編（筑摩書店） ・ことばはちからダ！現代文キーワード(河合出版）＊コースⅡ・Ⅲのみ使用		
学習の ねらい		・文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを筋道だてて表現する力を育成する。 ・他者とのかかわりの中で、表現する力及び協働性を高めるとともに、自分の考えを広げ、深めることが出来るようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4月	（評論）稲垣栄洋 進化が導き出した答え 【価値観・生命環境】	生物の進化における多様性について理解し、それを人間の生き方に照らして考えを深める。	
	5月	（評論）高階秀爾 名所絵はがきの東西 【比較文化論】	絵はがきを例に筆者が東西の自然観をどのように捉えているか把握し、自分の考えを深める。	
	5月 6月	（小説）中島敦 『山月記』	表に現れたものでは知り得ない、人間存在の内奥について考え、小説の構造をなす事項（時・場・人物・事件設定）や人物の心理を的確に読み取る。	
	7月	（評論）長谷川眞理子 「ヒトはなぜヒトになったか」 【人間と文化】	因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握し、ヒトの進化の過程を理解する。	
	9月 10月 11月	（小説）夏目漱石 『こころ』	登場人物の心理的变化を正確に読み取り、明治という時代の制度や理念などを調べ、登場人物の行動を読み取る中から、人間の精神のあり方について考える。	
	12月 1月	（評論）榎本博明 鏡としての他者 【自己と他者】	文章構造をもとに、筆者の主張を読み取り、他者が自己に与える影響を考える。	
	2月	（詩歌）宮澤賢治 「永訣の朝」	リズムや語感を味わいながら詩を読み、言語感覚を磨く。比喩の効果を理解し、想像力を育成する。近代詩が与えた影響と、詩人の生き方を考える。	
学習の 留意点・ 評価など		・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をする。 ・【コースⅡ・コースⅢ】適宜、演習問題を行い実践的な力を養う。		

教科名	国語科	科目名	古典探究
対象学年	高校2年	コース・選択等	コースⅠ・Ⅲ
単位数	2単位	教科書 (出版社)	古典探究古文編（第一学習社） 古典探究漢文編（第一学習社）
使用教材	解析古典文法 四訂版（桐原書店） プレミアム国語便覧（数研出版） 基礎学習システム 必修古典（数研出版） 基礎学習システム 必修古典演習ノート（数研出版） 基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート（桐原書店） 読んでみて覚える重要古文単語315（桐原書店）		
学習のねらい	・上代から近現代につながる作品への理解を深め、親しむと共に、自身の考えを深める。 ・文法事項を土台としながら、作品を読解する力を育成していく。 ・3年生に向け実践的な力を養う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい
	4月	【古文】説話 「歌ゆゑに命を失ふ事」『沙石集』	・著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えようとした歌人のありようについて考えを深める。 ・助動詞及び敬語の総復習をする。
	5月	【漢文】 「四面楚歌」『史記』	・追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ・「仮定」「反語」「疑問」 ・漢詩の基礎知識
	6月	【古文】日記 「門出」『更級日記』	・晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。 ・文法事項及び重要古語をおさえる。
	7月	【漢文】 「呉越同舟」	・現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・「使役」「疑問」
	9月 10月	【古文】物語 「若紫」『源氏物語』	・源氏物語について知る。 ・内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を理解する（敬語・敬意の方向）。 ・文法事項及び重要古語をおさえる。
	11月	【漢文】 「売鬼」『搜神記』	・一般的なイメージとは異なる幽霊についての話を読み、古代中国の人々の超自然的な存在に対する見方に触れる。 ・「疑問」「否定」「限定」「禁止」
	12月 1月	【古文】物語 「弓争ひ」『大鏡』	・『大鏡』の特徴を理解する。 ・敬語表現及び文法事項の総復習をする。
	2月	【漢文】 句形の演習	・これまで学んで来た句形について総復習をする ・演習問題を解く
学習の留意点・評価など	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 適宜、演習問題を行い実践的な力を養う。		

教科名		国 語 科	科 目 名	古 典 探 究
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅡ
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	古典探究古文編 (第一学習社) 古典探究漢文編 (第一学習社)
使用教材		解析古典文法四訂版 (桐原書店) プレミアム国語便覧 (数研出版) 基礎学習システム 必修古典 (数研出版) 基礎学習システム 必修古典演習ノート (数研出版) 基礎から解釈へ 漢文必携 (桐原書店) 基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート (桐原書店) 読んでみて覚える重要古文単語315 (桐原書店)		
学習のねらい		・ 上代から近現代につながる作品への理解を深め、親しむと共に、自身の考えを深める。 ・ 文法事項を土台としながら、作品を読解する力を育成していく。 ・ 3 年生に向け実践的な力を養い、受験への備えをする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月	【古文】 説話 「歌ゆゑに命を失ふ事」『沙石集』	・ 著名な和歌にまつわる話を読み、説話として語り伝えようとした歌人のありようについて考えを深める。 ・ 助動詞及び敬語の総復習をする。	
	5 月	【漢文】 「四面楚歌」『史記』	・ 追い詰められていく項王の心境を読み取り、人間の生き方についての考えを深める。 ・ 「仮定」「反語」「疑問」 ・ 漢詩の基礎知識	
	5 月	演習問題	・ 入試や模試に向けた演習を行う	
	6 月	【古文】 日記 「門出」『更級日記』	・ 晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。 ・ 文法事項及び重要古語をおさえる。	
	7 月	【漢文】 「呉越同舟」	・ 現在使われている言葉の由来となった漢文を読み、漢文が日本語に与えた影響について理解を深める。 ・ 「使役」「疑問」	
	9 月 10 月	【古文】 物語 「若紫」『源氏物語』	・ 源氏物語について知る。 ・ 内容を的確に捉えるために、作品の中で使われる敬語表現を理解する (敬語・敬意の方向)。 ・ 文法事項及び重要古語をおさえる。	
	10 月	演習問題	・ 入試や模試に向けた演習を行う	
	11 月	【漢文】 「売鬼」『搜神記』	・ 一般的なイメージとは異なる幽霊についての話を読み、古代中国の人々の超自然的な存在に対する見方に触れる。 ・ 「疑問」「否定」「限定」「禁止」	

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	12月 1 月	【古文】 物語 「弓争ひ」『大鏡』	・『大鏡』の特徴を理解する。 ・敬語表現及び文法事項の総復習をする。
	2 月	【古文】【漢文】 演習問題	・入試や模試に向けた演習を行う
学習の 留意点・ 評価など		「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 単語や文法事項などの基本的な知識を総復習し、適宜、小テストや演習問題を行い、受験に向けての実践的な力を養う。	

教科名	国語科	科目名	論理国語
対象学年	高校3年	コース・選択等	コースⅠ
単位数	2単位	教科書 (出版社)	標準論理国語（第一学習社）
使用教材	・プレミアムカラー国語便覧（数研出版） ・入試漢字と現代文重要語キーワード漢字2700（浜島書店） ・ちくま文学講読上級編（筑摩書店）		
学習のねらい	・文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを筋道だてて表現する力を育成する。 ・他者とのかかわりの中で、表現する力及び協働性を高めるとともに、自分の考えを広げ、深めることが出来るようにする。		
学習内容 と流れ	学期・ 月等	単元	ねらい
	4月	（評論）平田オリザ コミュニケーションの文化 【人間と社会】	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、国や民族によるコミュニケーション文化の違いについて論点を明確にしなが重要を把握する。
	5月 6月	（評論）谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」 【日本文化論】	美意識を見つめ直した古典的な日本文化論から、現代日本人の生活において、陰翳のあり方がどのように変容しているかを考える。
	7月 9月 10月 11月	（小説）森鷗外 『舞姫』	・時代背景に注意しながら、主人公の心の葛藤を読み取り、人間の生き方について考える。 ・ものの見方・感じ方・考え方を広げたり、深めたり、特に近代日本と個人の生き方との関係について考える。
	12月 1月	（小説）恩田陸 『オデュッセイア』	擬人化された主人公の旅が、人類史という壮大なスケールの中で描かれていることを理解し、地球滅亡、新しいコミュニティを創出させる過程を読みとる。
学習の留意点・評価など	・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 ・小テスト等を行うこともある。		

教科名	国語科	科目名	論理国語
対象学年	高校3年	コース・選択等	コースⅡ
単位数	3単位	教科書 (出版社)	標準論理国語（第一学習社）
使用教材	・プレミアムカラー国語便覧（数研出版） ・入試漢字と現代文重要語キーワード漢字2700（浜島書店） ・ちくま文学講読上級編（筑摩書店）		
学習のねらい	・文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを筋道だてて表現する力を育成する。 ・他者とのかかわりの中で、表現する力及び協働性を高めるとともに、自分の考えを広げ、深めることが出来るようにする。		
学習内容 と流れ	学期・ 月等	単元	ねらい
	4月	（評論）平田オリザ コミュニケーションの文化 【人間と社会】	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、国や民族によるコミュニケーション文化の違いについて論点を明確にしながる要旨を把握する。
	5月 6月	（評論）谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」 【日本文化論】	美意識を見つめ直した古典的な日本文化論から、現代日本人の生活において、陰翳のあり方がどのように変容しているかを考える。
	7月 9月 10月 11月	（小説）森鷗外 『舞姫』	・時代背景に注意しながら、主人公の心の葛藤を読み取り、人間の生き方について考える。 ・ものの見方・感じ方・考え方を広げたり、深めたり、特に近代日本と個人の生き方との関係について考える。
	12月 1月 2月	入試対策・演習	演習問題を行い、実践的な力を養う。
学習の留意点・評価など	・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 ・通常の授業に加え、適宜演習問題を行い、実践的な力を養う。		

教科名		国 語 科	科 目 名	論 理 国 語
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅢ
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	標準論理国語（第一学習社）
使用教材		・プレミアムカラー国語便覧（数研出版） ・入試漢字と現代文重要語キーワード漢字2700（浜島書店） ・ちくま文学講読上級編（筑摩書店）		
学習の ねらい		・文章の構成や展開の仕方を論理的に分析する活動を通して、論理的に考える力を伸ばし、自分の考えを筋道だてて表現する力を育成する。 ・他者とのかかわりの中で、表現する力及び協働性を高めるとともに、自分の考えを広げ、深めることが出来るようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月	（評論）平田オリザ コミュニケーションの文化 【人間と社会】	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、国や民族によるコミュニケーション文化の違いについて論点を明確にしなが重要を把握する。	
	5 月 6 月	（評論）谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」 【日本文化論】	美意識を見つめ直した古典的な日本文化論から、現代日本人の生活において、陰翳のあり方がどのように変容しているかを考える。	
	7 月 9 月 10 月 11 月	（小説）森鷗外 『舞姫』	・時代背景に注意しながら、主人公の心の葛藤を読み取り、人間の生き方について考える。 ・ものの見方・感じ方・考え方を広げたり、深めたり、特に近代日本と個人の生き方との関係について考える。	
	12月 1 月	入試対策・演習	演習問題を行い、実践的な力を養う。	
学習の 留意点・ 評価など		・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 ・通常の授業に加え、適宜演習問題を行い、実践的な力を養う。		

教科名	国語科	科目名	古典探究
対象学年	高校3年	コース・選択等	コースⅠ
単位数	2単位	教科書 (出版社)	古典探究古文編（第一学習社） 古典探究漢文編（第一学習社）
使用教材	プレミアムカラー 国語便覧（数研出版）、基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版（桐原書店）、読んで見て聞いて覚える 重要 古文単語315、チャート式 基礎学習システム 必修 古文（数研出版）、基礎学習システム 必修 古文 演習ノート（数研出版）、基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店）、基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート（桐原書店）		
学習のねらい	古文・漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深める。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい
	4月	（古文） 説話・宇治拾遺物語「袴垂、保昌に合ふ事」	展開や表現に即して袴垂の心理を追い、そこから浮かび上がる保昌の人物像を理解する。
	5月	（漢文） 逸話「不若人有其宝」（新序）	前半の逸話と後半の論説とを読み、人にとって宝とはどういうものかについて理解を深める。
	6月	（古文） 評論・風姿花伝	年齢に応じた稽古のしかたを説いた能楽論から、人の生き方に通じる普遍的な教訓を読み取る。
	7月	（漢文） 諸家の文章「漁夫辞」	漁夫と屈原の問答を対句に留意しながら読み、両者が主張する生き方の違いを把握する。
	9月	（古文） 物語・源氏物語「葵の上の出産」	長編物語としてのストーリーをたどりながら、「源氏物語」の話の展開のしかたや心理描写の巧みさを捉える。
	10月	（漢文） 漢詩「長恨歌」前半部	構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。
	11月	（古文） 物語・大鏡「中納言争ひ」	歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。
	12月	（漢文） 漢詩「長恨歌」後半部	構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。
	1月	（古文） 随筆・枕草子「雪のいと高う降りたるを」	日記的章段を読んで、作者と中宮定子との関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。
学習の留意点・評価など	状況に応じて小テストを設ける場合がある。		

教科名		国 語 科	科 目 名	古 典 探 究
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅡ
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	古典探究古文編（第一学習社） 古典探究漢文編（第一学習社）
使用教材		解析古典文法 三訂版（桐原書店） プレミアム国語便覧（数研出版） 基礎学習システム 必修古典（数研出版） 基礎学習システム 必修古典演習ノート（数研出版） 基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店） 基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート（桐原書店） 読んでみて覚える重要古文単語315（桐原書店）		
学習の ねらい		・ 長く人々が愛読し、鑑賞してきた古典作品の読解を通し、自身のものの見方や考え方を深める。 ・ 古典文法・古典背景を元にした適切な現代語訳をする。 ・ 共通テスト及び各種大学入試を見据えて適宜演習を行い、入試に向けて実力を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月	【古文】 歴史物語 「菅原道真の左遷」『大鏡』	・ 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・ 敬語や助動詞の知識を確認し、解釈にいかす。	
	5 月	【漢文】 「刎頸之交」『史記』	・ 『史記』について理解する。 ・ 句形の復習（限定・抑揚・願望など）	
		【入試演習】	演習問題に触れて実践的な力を養う。	
	6 月	【古文】 日記 「夢よりもはかなき世の中」 『和泉式部日記』	・ 日記を読んで、作者の思想や感情を読み取る。 ・ 助動詞の復習及び敬語事項の確認する。	
	7 月	【漢文】 「買粉児」『幽明録』	・ 人が蘇生する話を読み、古代中国の人々の魂に対する考え方に触れる。 ・ 句形の復習（限定・疑問・反語・仮定など）	
		【入試演習】	演習問題に触れて実践的な力を養う。	
	9 月	【古文】 「葵の上の出産」『源氏物語』	・ 『源氏物語』の世界や表現方法を味わう。 ・ 敬語や助動詞の総復習	
	10月	【漢文】 「漁夫辞」	・ 漁夫と屈原の問答を対句に留意しながら読み、それぞれの主張する生き方を把握する。 ・ 句形の復習（疑問・反語・比較・選択・部分否定など）	
	11月 12月	【古文】【漢文】 入試演習	演習問題に触れて実践的な力を養う。	
学習の 留意点・ 評価など		「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。 適宜、演習問題を行い実践的な力を養う。		

教科名		国 語 科	科 目 名	古 典 探 究
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅢ
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	古典探究古文編（三省堂） 古典探究漢文編（三省堂）
使用教材		プレミアムカラー 国語便覧（数研出版）、基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版（桐原書店）、読んで見て聞いて覚える 重要 古文単語315、チャート式 基礎学習システム 必修 古文（数研出版）、基礎学習システム 必修 古文 演習ノート（数研出版）、基礎から解釈へ 漢文必携（桐原書店）、基礎から解釈へ 漢文必携 チェックノート（桐原書店）、国語 マーク完答 古典（尚文出版）		
学習のねらい		・ 古文・漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深める。 ・ 入試に向けて実践的な演習を行い、受験対策をする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	
	4 月	(古文) 説話・宇治拾遺物語「袴垂、保昌に合ふ事」	展開や表現に即して袴垂の心理を追い、そこから浮かび上がる保昌の人物像を理解する。	
	5 月	(漢文) 逸話「不若人有其宝」（新序）	前半の逸話と後半の論説とを読み、人にとって宝とはどういうものかについて理解を深める。	
	6 月	(古文) 評論・風姿花伝	年齢に応じた稽古のしかたを説いた能楽論から、人の生き方に通じる普遍的な教訓を読み取る。	
	7 月	(漢文) 諸家の文章「漁夫辞」	漁夫と屈原の問答を対句に留意しながら読み、両者が主張する生き方の違いを把握する。	
	9 月	(古文) 物語・源氏物語「葵の上の出産」/演習	・ 長編物語としてのストーリーをたどりながら、「源氏物語」の話の展開のしかたや心理描写の巧みさを捉える。 ・ 入試対策演習を教科書と並行して行う。	
	10月	(漢文) 漢詩「長恨歌」前半部/演習	・ 構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。 ・ 入試対策演習を教科書と並行して行う。	
	11月	(古文) 物語・大鏡「中納言争ひ」/演習	・ 歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。 ・ 入試対策演習を教科書と並行して行う。	
	12月	(漢文) 漢詩「長恨歌」後半部/演習	・ 構成に留意して作品を鑑賞し、詩に表れた作者の思いや、詩に描かれた人物の思いを読み取る。 ・ 入試対策演習を教科書と並行して行う。	
学習の留意点・評価など		1 学期までは古文漢文ともに教科書教材を中心に文法、語句等を徹底的に身につけ、2 学期以降は、演習問題にも取り組み、実践的な受験対策を行う。		

教科名		国語科	科目名	国語表現
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ A4
単位数		2単位	教科書 (出版社)	国語表現Ⅰ（東京書籍）
使用教材		国語表現ナビ（浜島書店）		
学習のねらい		日常生活における言語活動を、語彙・技術の面を含めて豊かにする。 言語・文字を用いない表現や、舞台芸術、日本の伝統芸能にも目を向け、理解を含める。 現代だけでなく、日本古来の優れた表現にも目を向けさせ、興味を持たせる。 実践活動を通して、表現力を確実に身に付け、表現する楽しさを実感する。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	
	1学期 4月	自分を紹介する (原稿作成・スピーチ)	①自分を客観視するために、誰か（あるいは動物、物）になって自分を語る。 ②ふさわしい言葉や場面、適切なたとえを用いて紹介原稿を作成する。準備としてリフレーミング、自己分析を行う。 ③聞きやすい声、豊かな表現、動作で発表する。	
	5月 6月	舞台芸術における表現 (歌舞伎)	①日本の伝統芸能、文化の価値を学び、豊かな人間性を育む。 ②伝統芸能の一つである歌舞伎の歴史等を学び、将来に続く興味を育む。	
	7月	はがきの書き方 (季節の挨拶)	①日本の季節の挨拶を知る。 ②「二十四節気」について学ぶ。 ③手紙の歴史を学び、はがき等の書き方を身につける。 ④暑中見舞いはがきを毛筆で書き、書道に対する興味をもつ。	
	9月 10月	図書紹介	①自己の主張を的確に相手に伝え、相手を説得する表現力を身に付ける。 ②文章を簡潔にまとめるため、引用やキャッチコピーを効果的に活用する。 ③図書製本の各部の名称や、分類記号を学ぶ。 ④図書紹介のポスターを作成する。	
	11月	点字を学ぶ	①言語・文字を用いた表現以外にも表現の方法があることに気付く。 ②その一つである点字を学び、身近にある点字の表現を意識する。 ③点字の歴史を知る。 ④点字を読めるようになる。 ⑤点字器を用いて点字を書く。 ⑥点字を用いたクリスマスカードを作成する。	

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	12月	金城歌留多を作る	①金城学院中学・高校での思い出を振り返る。 ②思い出をウイットに富んだ短い言葉で表現する。 ③卒業生全員の思い出として共有する。
	3学期 1月	手紙の書き方 (恩師に進学先の報告をする)	①手紙(便箋・封筒)の形式を学習し、用途に応じた適切な手紙を書く。 ②時候の挨拶等、季節感を表す表現を身に付ける。 ③正しい敬語の使い方を身に付ける。 ④先生に実際に手紙を書く。
学習の 留意点・ 評価など	文章表現だけではなく、イラストや立体図形を用い、また、実践を多く取り入れて、現実在即した表現力を身に付けさせる。		
備 考	DVD等の映像教材や言語以外の表現を活用する。		

教科名		国 語 科	科 目 名	現代文演習
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅡ B1
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	————
使用教材		論理的に考える LT実践長文読解 (浜島書店)		
学習のねらい		入試に対応できる実践的な力を養う。「長い文章を正確に読み解く力」を身につけ、どのような文章にも対応できる力を養成する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元 と ね ら い	留 意 点	
	1 学期	・ 毎週、評論と小説を交互に取り扱う ・ 文脈の流れ、ポイントとなる語句の対応関係などの内容分析を行う ・ 入試を意識し、要旨や主題、表現の特徴も確認する	・ 選択肢から正答を導き出せるようになるため、解答の根拠を明示して、実際に解く手順を示す。 ・ 読解のキーワードになる用語を適宜確認する。	
	2 学期			
学習の留意点・評価など		定期テストにて実力問題も出題する。また、小テストを行う。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。		

教科名		国 語 科	科 目 名	共テ国語演習
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅡ B3
単位数		2単位	教科書 (出版社)	――
使用教材		新しい共通テスト 国語対策問題集 実戦レベル 合冊版（桐原書店）		
学習の ねらい		共通テストに向けた実践的な演習を行う。 また、基礎部分の復習などを通して確実な力を定着させる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4月	論理的文章『自然を守るしくみ』 生物多様性基本法、 生物多様国家戦略	共通テストに向けた、実践的な演習を行う。 *状況に応じて扱う演習問題を適宜変更する。	
	5月	小説的文章『台所のおと』 実用的文章『やさしい日本語』 古文『俊頼髄脳』『無名抄』 漢文『隋唐嘉話』		
	6月	論理的文章『老いの空白』 小説的文章『波と樹の語ること』 実用的文章『人口減少と地方創生』		
	7月	古文『宇治拾遺物語』 『一条摂政御集』 漢文『臨安春雨初霽』・漢詩歴史		
	9月	論理的文章『音楽の聴き方』 『「わざ」から知る』 小説的文章『ひよこトラック』 実用的文章『伝統芸能』		
	10月	古文『風に紅葉』 漢文『譚海』		
	11月	論理的文章『持続可能な医療』 小説的文章『歴史と文化の旅 奥の細道吟行』 実用的文章『著作権』		
	12月	古文『近代秀歌』 漢文『韓昌黎集』		
学習の 留意点・ 評価など		定期テストにて実力問題も出題する。また、小テストを行う。「知識・技能」「思考・判断・表現」 「主体的に取り組む態度」の観点から総合的に評価をおこなう。		

教科名		国 語 科	科 目 名	古 典 演 習
対象学年		高校 3 年生	コース・選択等	コースⅡ B 4
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	_____
使用教材		完成古典（古文・漢文） 3ステップオリジナル問題集 ステップ3 （尚文出版） 重要古文単語315 （桐原書店） 解析古典文法 （桐原書店）		
学習の ねらい		古文漢文の基礎事項を復習しながら、実際の問題で読解につないで、大学入試に対応できる実力を養成していく。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元 と ね ら い	留 意 点	
	1 学期	・ 一学期では、古文と漢文を取り扱いながら、古文の助動詞と漢文の句形を中心に扱う。 ・ 古文、漢文における重要語句を毎回学習し、定着につなげる。 ・ 二学期からは入試問題を取り扱い、入試本番に近い形での取り組みを行う。 ・ 句形、助動詞を都度復習し、基礎事項の定着を図る。	・ 基礎事項の定着では、完成古典テキストやプリントを用いていく。 ・ 二学期以降は基礎事項の復習と、入試問題を扱う演習形式となる。 ・ 演習において、解答時間を厳守する。	
	2 学期			
学習の 留意点・ 評価など		・ 能動的な学びができているか。 ・ 実力養成のための演習になっているか。 ・ 本文などの根拠をもとに、問いを解くことが出来ているか。		
備 考				

教科名		社 会 科	科 目 名		地 理 歴 史
対象学年		中学 1 年	コース・選択等		—
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)		『中学生の地理』 (帝国書院) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) 『中学社会 歴史』 (教育出版)
使用教材		問題集『地理の学習 1』(浜島書店) 問題集『ウイニング 歴史 I』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)			
学習の ねらい		地理 ・世界の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 ・世界の地域や国々の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 歴史 ・原始・古代から中世に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 ・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元
	4 月 5 月	『中学生の地理』 第 1 部 世界と日本の地域構成 第 2 部 世界のさまざまな地域 第 1 章 人々の生活と環境 第 2 章 世界の諸地域 第 1 節 アジア州		11 月 12 月	『中学社会 歴史』 第 2 章 原始・古代の日本と世界 1 人類の出現と文明のおこり 2 日本の成り立ちと倭の王権 3 大帝国の出現と律令国家の形成
	6 月 7 月	第 2 節 ヨーロッパ州 第 3 節 アフリカ州 第 4 節 北アメリカ州		1 月 2 月 3 月	4 貴族社会の発展 第 3 章 中世の日本と世界 1 武家政治の始まり 2 ユーラシアの動きと武家政治の変化 3 結びつく民衆と下克上の社会
	9 月 10 月	第 4 節 北アメリカ州 第 5 節 南アメリカ州 第 6 節 オセアニア州			
学習の 留意点・ 評価など		・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 ・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史（愛知県など）についても、随時取り上げる。			

教科名		社 会 科		科 目 名		地 理 歴 史	
対象学年		中学 2 年		コース・選択等		――	
単位数		3 単位		教 科 書 (出版社)		『中学生の地理』 (帝国書院) 『中学校社会科地図』 (帝国書院) 『中学社会 歴史』 (教育出版)	
使用教材		問題集『地理の学習 2』(浜島書店) 問題集『ウイニング 歴史Ⅰ・Ⅱ』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)					
学習の ねらい		地理 ・日本の自然、産業などを概観し、私達が生活する現代社会の地理的環境について基礎的な理解を図る。 ・日本の地域の中から、幾つか選んで、自ら調べまとめて発表する能力を身につける。 歴史 ・近世から明治時代に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 ・日本史の背景となる世界史上の出来事についても、可能な限りとりあげ、歴史を同時代の横のつながりの中でとらえられるようにする。					
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元		
	4 月	『中学生の地理』 第 3 部 日本のさまざまな地域 第 3 章 日本の諸地域 1 節 九州地方		10 月	『中学社会 歴史』 第 4 章 近世の日本と世界 1 結びつく世界との出会い		
	5 月	2 節 中国・四国地方		11 月	2 天下統一への歩み		
				12 月	3 幕藩体制の確立と鎖国		
	6 月	3 節 近畿地方 4 節 中部地方		1 月	第 5 章 日本の近代化と国際世界 1 近代世界の確立とアジア		
	7 月	5 節 関東地方		2 月	2 開国と幕府政府の終わり		
	9 月	6 節 東北地方 7 節 北海道地方		3 月			
学習の 留意点・ 評価など		・地理は、地図帳の積極的な活用を心がける。 ・歴史は、学習内容に合わせて、地元の歴史（愛知県など）についても、随時取り上げる。					

教科名		社 会 科	科 目 名		歴史・公民
対象学年		中学 3 年	コース・選択等		――
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)		『中学社会 歴史』(教育出版) 『中学社会 公民』(教育出版)
使用教材		問題集『ウイニング 歴史Ⅱ』(好学出版)、『新ワーク 公民』(好学出版) 資料集『改訂 資料カラー歴史』(浜島書店)、『新しい公民』(浜島書店)			
学習の ねらい		歴史 ・近代から敗戦・戦後に至る日本の歴史を概観し、現代の日本との歴史的なつながりを理解する。 公民 ・現代日本の政治・経済について基礎的な理解を図り、時事的な問題に対しても関心が持てるようにする。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元
	4 月	『中学社会 歴史』 第 5 章 日本の近代化と国際社会 3 明治維新と立憲国家への歩み 4 激動する東アジアと日清・日露戦争		10 月	『中学社会 公民』 第 1 章 私たちの暮らしと現代社会 第 2 章 個人を尊重する日本国憲法 第 3 章 私たちの暮らしと民主政治
	5 月	5 近代の産業と文化の発展 第 6 章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と民族独立の動き		11 月	1 民主政治と日本の政治 2 三権分立のしくみと私たちの政治参加
	6 月	2 大正デモクラシー 3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦		12 月	3 地方自治と住民の参加
	1 月			第 4 章 私たちの暮らしと経済	
	7 月	第 7 章 現代の日本と世界 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本		2 月	第 5 章 安心して豊かに暮らせる社会
	3 月			第 6 章 国際社会に生きる私たち	
学習の 留意点・ 評価など		・歴史分野については、地域の素材も適宜取り上げる。 ・公民分野については、レポートなどを適宜課す。			

教科名		地 歴	科 目 名	歴 史 総 合
対象学年		高校1年	コース・選択等	必 修
単位数		2単位	教科書 (出版社)	明解歴史総合（帝国書院）
使用教材		明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）		
学習のねらい		19世紀以降の世界と日本の歩みを「近代化」「国際秩序の変化や大衆化」「グローバル化」の観点から学び、当時の様子や人々の考えを理解し、現在まで続く課題とその解決について考え提案していく力を修得する。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学 習 内 容	留意点
	4月	2部 近代化と私たち 18世紀までの世界 1章 江戸時代の日本と結び付く世界 ①アジアのなかの江戸幕府 ②成熟する江戸社会 ③清の繁栄と結び付く東アジア ④アジア・アフリカに向かうヨーロッパ	18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解する。 「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察する。 18世紀の世界交易が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	18世紀の日本やアジア、ヨーロッパは、それぞれどのように結びついてきたかに着目する。
	5月	2章 欧米諸国における近代化 ①イギリスの革命とアメリカの独立 ②フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開 ③フランス革命の影響と国民意識の芽生え ④産業革命で変わる社会 ⑤イギリスの繁栄と国際分業体制 〈1学期中間テスト〉	市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について理解する。 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し表現する。 市民革命や産業革命が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	欧米で起こった市民革命・産業革命により、社会はどのように変化したのかに着目する。
	6月	3章 近代化の進展と国民国家形成 ①1848年～近代ヨーロッパの転換点 ②イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ③アメリカの拡大と第2次産業革命 ④帝国主義と世界の一体化 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 ①「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ②南・東南アジアの植民地化 ③ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ④黒船の来航と日本の対応⑤新体制の模索と江戸幕府の滅亡	国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について理解する。 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し表現する。 国民国家や帝国主義が現代社会に与えた影響と課題について考察する。 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解する。 「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し表現する。 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	近代化が進むなかで、欧米諸国はどのような国家形成をしていったかに着目する。 近代化した欧米諸国の進出に、アジア諸国や日本はどのように対応したのかに着目する。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	留意点
	7 月	〈1 学期期末テスト〉 5 章 近代化が進む日本と東アジア ①新政府の誕生 ②近代国家を目指す日本	明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、理解する。 明治維新の歴史的意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し表現する。 明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	日本や東アジア諸国は、近代化を通じてどのように変化していったのかに着目する。
	9 月	③日本と清の近代化と日清戦争 ④列強の中国進出と日露戦争 ⑤日露戦争が与えた影響 3 部 国際秩序の変化や大衆化 1 章 第一次世界大戦と日本 ①ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ②総力戦となった第一次世界大戦 ③ロシア革命と大戦の終結	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。
	10 月	〈2 学期中間テスト〉 2 章 国際協調と大衆社会の広がり ①ヴェルサイユ体制の成立 ②東アジアの民族自決の行方 ③中東・インドの民族自決の影響 ④ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ⑤大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ⑥日本における大衆社会の形成	ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解する。 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、みずからの言葉で表現する。 ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	欧米や日本など、世界各地に広まった大衆化とは、どのようなものかに着目する。
	11 月	3 章 日本の行方と第二次世界大戦 ①世界恐慌が与えた影響 ②ファシズムの台頭と拡大 ③政党政治の断絶と満州事変 ④日中戦争の始まり	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。
	12 月	2 学期期末テスト ⑤第二次世界大戦の展開 ⑥戦局の悪化と被害の拡大 ⑦第二次世界大戦の終結とその惨禍	世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解する。 ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現する。 世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追求する。	大衆は、どのようにして戦争を導いてしまったのかに着目する。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	留意点
	1 月	4 章 再出発する世界と日本 ①戦後の新たな国際秩序 ②冷戦の始まり ③日本撤退後の東アジア ④日本の改革と独立の回復 4 部 グローバル化と私たち 1 章冷戦で揺れる世界と日本 ①アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ②冷戦下における日本の復興 ③第三勢力の形成と脱植民地化 ④中東問題とパレスチナ問題	冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解する。 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現する。 ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	第二次世界大戦を経て、国際秩序はどのように変化したのかに着目する。
	2 月	2 章 多極化する世界 ①揺らぐアメリカと先進各国の変化 ②「経済大国」日本の模索 ③経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ④イスラーム復興と冷戦への影響 3 章 グローバル化の中の世界と日本 ①冷戦の終結と変わる世界構造 ②冷戦の終結が与えた世界への影響 ③超大国アメリカと中東情勢 ④国際環境の変化と日本	冷戦下の 1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解する。 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現する。 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	冷戦が展開されるなかで、日本や世界の国々はどのような経済成長を遂げたかに着目する。
	3 月	⑤グローバル化による国際社会の変容 〈学年末テスト〉	冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解する。 グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現する。 冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。	冷戦が終わり、グローバル化は、世界をどのように変えたかに着目する。
学習の 留意点・ 評価など		写真や歴史的絵画使用等の非連続型テキストを読み取る活動を取り入れ、考える歴史の学習へと導く。また、読み取ったことは、できるだけ文章で表現する機会を設ける。非連続型テキストは、プロジェクターを利用し、スクリーンに投影することで観察しやすくする。		

教科名		地 歴	科 目 名	地 理 総 合
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース I、必修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	新地理総合（帝国書院）
使用教材		新地理総合（帝国書院） 現代地図帳（二宮書店）新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院）		
学習のねらい		世界の諸地域の地形、気候など自然環境の特徴を知る。そして、各地域の人々がどのような工夫をして暮らしやすい社会・文化を形成しているかを知る。単に各地域の特色を知るだけに終わることなく、各地域の特色を比較しながら学ぶことや、地理的事象を生み出す多様な要因の相互関係を考察することを目指す。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	4 月	地図上の位置と時差 現代世界の国家 日本の位置と領域	- 緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。 - 国家の主権や領域について理解する。 - 国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。 - 日本の位置と領域を確認する。	地球の公転をモデルを使って確かめる。 主権については、歴史総合で学んだことと関連づける。
	5 月	変動帯とプレート 地震の種類 大気大循環	- 変動帯とプレートの関係について知る。 3 種類のプレート境界の違いを理解する。 - 日本周辺のプレートを確認する。 - 地震の種類と違いを理解する。 - 大気大循環のしくみを理解する。	動画を活用して、プレートの動きや大気の循環の仕組みの理解を促す。
	6 月 ～ 7 月	世界の気候と人々の生活 ○植生と気候分布 ○熱帯の生活 ○乾燥帯の生活 ○温帯の生活 ○亜寒帯・寒帯の生活	- ケッペンの気候区の特徴をつかみ、理解する。 - 各気候帯の気候の特色と人々の暮らしのあり方を結びつけて考える。 - 気候帯の特色を他の気候帯と比較しながら理解する。 - プロジェクト：「民族模様を探究する」を行う。3 学期に成果発表会を行う。	写真の資料を読み取って、気候と暮らしの特色を考察する。
	9 月	モンスーンの影響を受ける地域での生活 —東南アジア—	- 東南アジアの多様な民族と文化について理解する。 - 東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。東南アジアの国々の共通点と相違点を考える。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	10月 ～ 12月	世界の言語・宗教と人々の生活	・言語と民族の関わり、公用語と人々の生活への影響について理解する。 ・宗教の食生活への影響、宗教と生活の関わりについて理解する。 ・世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。	三大宗教を比較して共通点と相違点を考える。
		イスラームと人々の生活の関わり ―中央アジア・西アジア・北アフリカー ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ―インドー	・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 ・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。 ・「ヴァルナ」「ジャーティ」「カースト」の諸概念の関係を理解する。 ・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教の対立があったことを理解する。 ・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。 ・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。インドの近代化にともなうカースト制の変遷に着目する。
		植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ―サハラ以南アフリカー	・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。	チョコレート生産の仕組みを通してモノカルチャー経済への理解を深める。
	1月 ～ 3月	人々の生活を支える産業とグローバルな結びつき ―アメリカ合衆国―	・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。 ・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。	・時事問題と結びつけながら多民族・多文化社会の課題を考える。
学習の留意点・評価など		映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。 各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。		

教科名		地 歴	科 目 名	地 理 総 合
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅡ・Ⅲ、必修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	新地理総合（帝国書院）
使用教材		新地理総合（帝国書院） 現代地図帳（二宮書店）新詳地理資料COMPLETE2026（帝国書院）		
学習のねらい		地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察させる。また、地理的課題の解決に向け、解決策を構想することや、考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論する資質を育成する。これらの学習を通じて、世界の人々とともに共生することができるグローバルシティズンとしての資質を高める。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	4 月	地図上の位置と時差 地図の役割と種類	- 緯度・経度の仕組みについて学ぶ。緯度や経度の違いが、世界各地の暮らしのあり方に影響を与えていることを理解する。 - 世界地図の図法を学ぶ。 - 国家の領域について理解する。 - 国境にはさまざまな形態や性格があることに気づかせる。	- 各種統計資料を読み取り、社会的事象の因果関係を考察する。 - グローバル化が進み、多くの情報が得られ、日本の文化・習慣が変化している。その中で、日本の文化・慣習がなぜ異なるのか社会背景を理解して、比較考察する。
	5 月	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	- 東西冷戦の終結とともに国家間の結びつきが軍事的結合から経済的結合へと変化したことを理解する。 - 航空交通の発達により、地球規模での国際交流が活発化したことを理解する。 - 貿易の自由化が進められ、地域内の経済的結びつきを強める協定が拡大していることを理解する。 - 日本における観光の国際化について考察する。	交通手段の発達により、世界各国のつながりの変遷を考察する。
	6 月	世界の地形と人々の生活	- 河川、波や氷河がつくる地形の種類や特徴と人々の生活との関係を理解する。 - 気候の特徴と人間生活との関わりについて考察する。 - ケッペンの気候区分と分布の特徴を理解する。 - 各気候区の分布や特徴を理解し、それが人々の暮らしにどのような影響を与えているかを考える。	各気候区の雨温図を読み取り、共通点と相違点を文章で表現する。各気候区の暮らしの特徴を比較する。
	7 月	世界の気候と人々の生活	- 農業の発達と自給的農業・商業的農業について理解する。 - さまざまな製品をつくる工業の発達と種類について理解する。 - 世界の三大宗教をはじめとする主要な宗教の特徴や、それらが信仰されている地域の分布を捉え、宗教と人々の生活との関わりについて考える。	- 農業・工業がどのような背景のもと発展してきたのか考察する。 - 近年の発展途上国の発展による課題を考察する。 - 三大宗教の特色の共通点と相違点を考える。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	考える力
	9 月	世界の言語・宗教と 人々の生活 資源エネルギー問題 人口問題 都市・移住問題	・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。	世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。
	10月	経済成長による 人々の生活の変化 —東アジア— モンスーンの影響を 受ける地域での生活 —東南アジア—	・内陸部と沿海部、北部と南部の違いに注目して、中国の自然環境の地域差を考察する。 ・中国が多民族国家であることや、その民族の分布の特徴を捉える。 ・巨大な人口をもつ中国の人口問題とその解決への取り組みを理解する。 ・中国の現代の農業と工業の現状と課題について考える。 ・韓国の歴史、文化、産業の特色を理解する。 ・東南アジアの多様な民族と文化について理解する。 ・東南アジアの歴史や、植民地支配とモノカルチャー経済との関係について理解する。その上で、モノカルチャー経済から脱却するため、各国でどのような農業・工業政策が進められてきたかを考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。東アジアの国々の共通点と相違点を考える。
	11月	ヒンドゥー教と 人々の生活の関わり —インド— イスラームと 人々の生活の関わり —中央アジア・西アジア・北アフリカ—	・インド世界と呼ばれる南アジアの国々の歴史と、異なる宗教における対立があったことについて理解する。 ・インドの農業の展開を、自然環境や技術革新などから理解する。 ・成長するインドの工業と、経済発展をリードしているIT産業について理解する。 ・イスラームの歴史やイスラームが人々の生活にどのような影響を与えているかを考える。 ・この地域の産油国が、石油資源の開発と利用をどのように進めてきたかを理解する。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。

学習内容の流れ	学期・月等	単元	学習内容	考える力
	12月	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ーサハラ以南 アフリカー 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 ーヨーロッパー	・ヨーロッパ諸国による植民地支配の歴史と、モノカルチャー経済などに代表される、その影響について理解する。 ・ヨーロッパのキリスト教に深く結びついた文化と、宗派や言語の多様性について理解する。地域による自然環境に対応したヨーロッパの農業について理解する。 ・ヨーロッパではどのような工業が盛んなのか、産業の発達 of 歴史と、近年の工業地域の変化とその特徴を理解する。 ・EUの歴史と現在の課題について考える。	統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
		国家体制の変化と人々の生活の関わり ーロシアー	・ロシアの自然環境と人々の暮らしの特徴を考える。 ・ロシア革命、冷戦、冷戦終結という時代の流れの中で、政治体制や経済がどのように変化してきたかを理解し、現在の課題を考える。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
	1月	産業力が世界の生活文化に与える影響 ーアメリカ合衆国ー	・移民の歴史に注目し、多民族・多文化の社会が形成された過程を理解する。 ・アメリカ合衆国の自然環境に適した農業・地域の特徴とその背景について理解する。その上で、現在の課題について考える。 ・アメリカ合衆国における工業の変遷と課題について考える。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
	2月 ～ 3月	移民の歴史と人々の生活の関わり ーラテンアメリカー	・ラテンアメリカの歴史的背景と各国の人種・民族構成の違いについて理解する。 ・先住民とさまざまな地域の文化や伝統が融合した、ラテンアメリカの独特な文化について理解する。	・統計資料や図表を読み取り、文章で表現する。日本との相違点と共通点を整理する。
学習の留意点・評価など		映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。		

教科名		地 歴	科 目 名	日本史探究詳説日本史（山川出版社）
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅡ（社会教科内選択）
単位数		3 単位	教科書 （出版社）	日本史探究詳説日本史（山川出版社）
使用教材		詳説日本史探究（山川出版社）／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史一問一答（東進ブックス）／ゼミナール（浜島書店）		
学習のねらい		原始・古代～中世までにおける日本の歴史について、通史（政治史・外交史を中心に）の理解を深める。中学までに学習した日本史の基礎知識を掘り起こし、かつ前期中等教育では触れることのなかった詳細を正確に認識させる。その上で、大学受験のために必要な基礎知識を定着させ、高3でのさらなる時代の理解につなげられるよう、高2では学習の方法にも意識した授業展開を心がけたい。原始（先土器）から近世（江戸時代）までを履修目標とする。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期 4 月	文化のはじまり 縄文時代、弥生時代	○人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ○大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて弥生文化の形成を考察する。	資料などを基に、各時代の社会背景や流れについて思考させた上で、知識の習得をさせる。各時代の為政者を中心に、政治史を扱う。
	5 月 （中間）	古墳時代、飛鳥時代	○地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ○ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	
	6 月 （期末）	奈良時代（1） 奈良時代（2） 平安時代（1）	○律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察する。 ○律令体制の完成期としての奈良時代について、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ○平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 ○平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	
	7 月	平安時代（2）	○藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ○律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ○地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏を例にとって考察する。	
	2 学期 9 月	平安時代（3）	○院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ○政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平治政権の特性について考察する。	
	10 月 （中間）	鎌倉時代（1） 鎌倉時代（2）	○鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ○承久の乱に伴う公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を考察する。	

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	11月	鎌倉時代（3）	○蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が鎌倉幕府の衰退につながっていくことを理解する。	
	12月 (期末)	室町時代（1） 室町時代（2） 戦国時代	○鎌倉幕府の滅亡、南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ○庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、室町幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。 ○応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連付けて考察する。	
	1 月	織豊政権 江戸幕府の成立 江戸時代中期	○大航海時代とよばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察できる。 ○中世から近世への変化について考察し、時代を通観する間を表現できる。 ○江戸時代前期の特色を平和と秩序の視点から、権力の集中や価値観の変化を踏まえて考察できる。	
	2 月	江戸時代後期① 江戸時代後期②	○幕藩体制が動揺した原因を、国際環境の変化や貨幣経済の浸透を踏まえて多面的・多角的に考察することができる。	
	3 月	(学年末考査)		
	学習の 留意点・ 評価など			
備 考				

教科名		地 歴	科 目 名	世界史探究
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース II
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	世界史探究詳説世界史 B (山川出版)
使用教材		授業用詳説世界史整理ノート世界史探究 (山川出版社) 最新世界史図説タペストリー (帝国書院) 世界史一問一答探究対応版 (Gakken)		
学習のねらい		世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を養い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
	4 月	第 1 章 文明の成立と古代文明の特質	人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気づくと同時に、人類と言語の分化を理解する。西アジア世界の風土、オリエン特文明の盛衰を理解する。	グラフ、図、資料などから、その時代の社会状況を考えさせるように指導する。
	5 月	第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	南アジア・東南アジアの風土と諸民族、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、両世界の形成過程を理解する。東アジアの風土、中国文明の起源と殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。先住民によるアメリカ文明の形成とその特色を理解する。	
	6 月	第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	東アジアにおける北方民族の動向と、魏晉南北朝という中国における分裂と動乱の時代を理解する。隋唐帝国の国家制度と、隣接する東アジア文化圏諸国の動向を理解する。契丹や女真といった遊牧諸勢力の台頭や日本を含めた東アジア諸地域の勢力交替、宋の興亡と社会や文化の特色を理解する。	
	7 月	第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 第 3 章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	内陸アジアの自然と風土、ここに台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解する。内陸アジアにおけるトルコ化とイスラーム化の進展を理解する。	
		第 4 章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第 5 章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第 6 章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	イラン人の活動を理解する。地中海世界の風土、を理解する。 イスラーム成立の背景とその特質を理解する。アラブ人によるイスラーム帝国の発展、イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。	

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点	
	9 月	第 4 章 西アジアと地中海周 辺の国家形成 第 5 章 イスラーム教の成立 とヨーロッパ世界の形成 第 6 章 イスラーム教の伝播 と西アジアの動向	イスラーム文明の特質とその影響、イスラーム都 市を中心としたネットワークの役割を理解する。	コンセプトマッ プなどを利用し て、事項の関連 づけを考える。 またそのマップ を他者に説明す ることによっ て、表現する力 を養う。	
		10月	第 7 章 ヨーロッパ世界の変 容と展開		地中海世界が解体した後、キリスト教を基盤とす るヨーロッパ世界が東西に形成され、変動して いった過程と、両世界それぞれの独自の性格を理 解する。十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変 容と諸国の動向を理解する。教会建築、大学やス コラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理 解する。
	11月		第 8 章 東アジア世界の展開 とモンゴル帝国 第 9 章 大交易・大交流の時 代		モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸 地域世界に与えた影響の大きさを理解する。 ユーラシアの陸と海のネットワークを背景に諸地 域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世 界の形成や再編を促したことを理解する。
			第10章 アジア諸帝国の繁栄		16世紀から18世紀にかけてのアジア諸地域世界の 特質を理解する。明・清帝国と朝鮮や日本の関係、 東南アジア世界の動向を理解する。トルコ・イラ ンからインドに誕生したイスラーム帝国の動向を 理解する。
	12月		第11章 近世ヨーロッパの動 向		大航海時代の到来、ルネサンスと宗教改革といっ たヨーロッパ世界の拡大と変革の動きを理解す る。主権国家体制の特色と、それを形成したヨー ロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。
	1 月	第11章 近世ヨーロッパの動 向	17～18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向を、重 商主義と啓蒙専制主義を柱として理解する。ヨー ロッパ諸国の植民地争奪と大西洋世界の三角貿易 の果たした国際的枠組みを理解する。17～18世 紀におけるヨーロッパ文化の特色を理解する。		
	2 月				
	学習の 留意点・ 評価など	まず通史を、あまり細かい事項にとらわれることなく、流れを中心に学ぶ事を心掛ける。授業で 学んだ事を、お互いに発表し合うことによって、各々の理解度を確認する。			
	備 考				

教科名		地 歴	科 目 名	歴史と地理
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース I （ 2 選 1 ）
単位数		2 単位	教科書 (出版社)	——
使用教材		『明解 歴史総合』（帝国書院） 『明解 歴史総合図説 シンフォニア』（帝国書院） 『新詳地理資料 COMPLETE2024』 プリント・地図・視聴覚教材など		
学習の ねらい		世界の国々の地理的特徴を理解する。理解を深めるために比較の視点を用いる。 榮光館や紅茶などモノから歴史を見ることで歴史を学ぶことへの興味を引き出し、深い学びへと導く。 日本の歴史に関わる内容のうち、特に江戸時代後期以降の日本と周辺地域や諸外国との外交関係や文化交流に着目し、考察する。		
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	4 月	日本の近代化と金城学院の歴史	榮光館でFeel度Walkを実施し身近な歴史的建造物を学びの素材として活用する。これにより歴史学習への興味を引き起こす。	情報収集力・観察力を養う。
	5 月 ～ 7 月	世界の国々と暮らし イギリスの地理 幕末の外交と国際交流	自然環境と人々の暮らしのありかたにどのようなつながりがあるかを考える。 イギリスの歴史を学ぶ前提として地理的な知識を得る。 日本の歴史のうち、幕末の外交と海外との交流について学ぶ。	統計資料やその他の資料、図表を読み取り、課題について考察する。
	9 月 ～ 11 月	長崎の歴史と世界遺産 イギリスの歴史	修学旅行がよりよい学びの機会となるように、長崎の歴史と世界遺産について学習する。 紅茶という身近なモノからイギリスの歴史をみることで、世界システムの視点から歴史を考察する。	統計資料やその他の資料、図表を読み取り、課題について考察する。
	11 月 ～ 2 月	イギリスの歴史 地球市民 明治期の国際関係と国際交流	パーム油に着目し、わたしたちの暮らしと熱帯雨林の関係を考える。 明治時代に入ってから外交・国際関係と国際交流について学ぶ。	ワークショップを行い、対話による学びが思考を深めることを体感させる。
学習の 留意点・ 評価など		評価は学期末試験（年 3 回）・平常点による。 チームで対話をすることで、学習課題の理解を深めるようにする。		
備 考				

教科名		地 歴	科 目 名	世界史探究
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コース I 必修
単位数		2 単位	教科書 (出版社)	世界史探究 高校世界史 (山川出版社)
使用教材		最新世界史図説タペストリー (帝国書院)		
学習のねらい		グローバル化が進む現代社会において、中国等の東アジア世界・文化圏の国々に特に着目し、その歴史が今の日本や日本を取り巻く地域情勢に大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。 また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	東アジア文化圏の形成	・ 隋・唐が形成した国家・社会、国際関係について探究する。 ・ トルコ系やイラン系の人々の活動を考察し、隋・唐の成立や発展に与えた影響を理解する。 ・ 隋・唐の皇帝や貴族による律令政治を考察し、隋・唐の国家・社会の秩序やその文化、国際関係について理解する。	隋・唐が形成した国家・社会、国際関係について探究する。
	5 月	宋とアジア諸地域の自立化	・ 宋とアジア諸地域のつながりや影響を分析し、宋の東アジアにおける影響力について探究する。 ・ 周辺諸地域で政権交代があいついだ状況を考察し、北方諸民族が中国の影響を受けたことを理解する。	唐から宋にかけての支配者層の入れ替わりや周辺所民族の侵入について多面的・多角的に考察し再定義することで、中国社会が周辺諸地域に与えた影響を探究する。
	6 月	モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆	・ モンゴル帝国の拡大と影響について分析し、モンゴル帝国の歴史的意義を探究する。 ・ モンゴル帝国によりユーラシアの統合がおこなわれた状況を考察し、「世界の一体化」の一端が形成されたことや当時の交易への影響を理解する。 ・ モンゴル帝国解体後の朝鮮半島の状況や、明の樹立などの経緯について考察し、各地の交易との共通点や相違点と、中国の朝貢貿易の特色について、理解する。 ・ 明の時代の交易の状況と税制との関わりを考察し、当時の社会への影響や今日への影響、その意義や特色を理解する。	モンゴル帝国の形成により東西交易のネットワークが形成されたことを考察し、大都を軸にアジアを中心とした「世界の一体化」が進められたことを理解する。 明朝の朝貢貿易が展開される中、周辺諸国との関係や異文化の流入など中国へもたらされた変化を多面的・多角的に考察し、再定義する。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	7月 9月	東アジアの激動 アジア諸国の変革と民族運動	・欧米諸国に開国要求に対する清朝・日本・朝鮮各国の対応と、その後の東アジアの国際関係を探究する。 ・明治政府が推進した近代化政策について考察し、朝鮮を開国させるなど対外進出により東アジアの国際秩序を変容させたことを理解する。 ・清朝の改革の失敗と中華民国の建国、インド、東南アジア、西アジアの民族運動の展開を探究する。	清朝が不平等条約を締結する過程とロシアの東進の状況、開国後の日本の対外進出を多面的・多角的に考察し、東アジアの国際秩序の変容を理解する。 列強の進出に抵抗するアジア諸国の民族運動、立憲運動の展開を多面的・多角的に考察し、アジア諸国の変革を理解する。
	10月 11月	アジア・アフリカ地域の民族運動 満州事変と日中戦争 第二次世界大戦	・第一次世界大戦後のアジア・アフリカ諸地域で展開した民族運動を探究する。 ・第一次世界大戦が東アジア各地の社会・経済に与えた影響を考察し、日本の進出に対して中国や朝鮮で起こった抵抗運動を理解する。 ・第二次世界大戦がどのような対立構造を持ち、どのように展開していたのかを分析し、大戦がもたらした意義について探究する。	アジア・アフリカ諸地域の民族運動と列強の対立を多面的・多角的に考察し、第一次世界大戦後の世界を理解する。 第二次世界大戦について多面的・多角的に考察し改めて第二次世界大戦を定義することで、第二次世界大戦の多様性を理解する。
	12月	中華人民共和国の成立と東アジア 中ソ対立と文化大革命	・第二次世界大戦後の国際秩序と、東西冷戦やアジア諸国の独立の過程について共通点や相違点を理解する。 ・現代中国の社会・文化の特色、東西陣営との対立にどのように対応したかを理解する。	新しい国際秩序の形成について多面的・多角的に考察し改めて戦後の新しい国際秩序を定義することで、多様性を理解する。
	1月	第三世界の開発独裁 中国の動向と民主化の広がり 今日の世界/東アジアの動向	・第三世界の開発独裁と東南・南アジアの自立化について冷戦体制の動揺とどのようなかわりがあるのか理解する。 ・冷戦体制の動揺の結果、中国社会がどのような変化や対応したのか理解する。 ・冷戦体制終結後も共産党の一党支配を維持した中国で起こった民族問題を考察し、韓国・北朝鮮・台湾の動向を理解する。	冷戦終結後のアジア各国が向き合う諸問題を多面的・多角的に考察し、グローバリゼーションが進む世界の課題への対応に国際的協力が必要であることを理解する。
学習の 留意点・ 評価など		様々な歴史観に触れ、それらによる視点を養うことも目的の一つとする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。		

教科名		地 歴	科 目 名	日本史探究
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅡ（社会教科内選択）
単位数		4 単位	教科書 (出版社)	詳説日本史 日本史探究（山川出版社）
使用教材		詳説日本史探究（山川出版社）／詳説日本史整理ノート（山川出版社）／新詳日本史（浜島書店）／日本史用語集（山川出版社）／日本史一問一答（東進ブックス）／ゼミナール（浜島書店）		
学習のねらい		近世から現代にかけての日本史の流れを大きく理解する。特に、近現代史では日本と世界の関係を学ぶことによって、現代起こっている諸問題を理解するための能力を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	1 学期 4 月 5 月	第Ⅲ部 近世 第 9 章 幕藩体制の成立と展開 ③幕政の安定 ④経済の発展 ⑤元禄文化 第10章 幕藩体制の動揺 ①幕政の改革 ②宝暦・天明期の文化 ③幕府の衰退と近代への道 ④化政文化 第Ⅳ部 近代・現代 第11章 近世から近代へ ①開国と幕末の動乱 ②幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 ①明治維新と富国強兵 ②立憲国家の成立	幕藩体制が動揺した原因を、国際環境の変化や貨幣経済の浸透を踏まえて多面的・多角的に考察する。明治維新とその後の日本の変容について理解する。	歴史総合の内容も踏まえ、近代化に至る過程に留意する。
	6 月 7 月	第13章 近代国家の展開 ①日清・日露戦争と国際関係 ②第一次世界大戦と日本 ③ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 ①近代産業の発展 ②近代文化の発達 ③市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 ①恐慌の時代 ②軍部の台頭 ③第二次世界大戦	近代国家として歩み出した日本とアジア諸国との関係性の変容や国際的地位の変化について理解する。明治・大正期の経済の動きや文化について理解する。世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について理解する。世界恐慌後の各国の政治的判断と大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響について追及する。	成熟した政権の問題点に留意する。世界史の動きにも留意する。

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	2 学期 9 月 10 月	第16章 占領下の日本 ①占領と改革 ②冷戦の開始と講和 第17章 高度成長の時代 ①55年体制 ②経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 ①経済大国への道 ②冷戦の終結と日本社会の変容	アメリカ占領下の日本及び民主改革、55年体制から平成不況までの流れを把握させる。	戦後改革が現在の日本にどのような影響を与えているかも留意する。
	11 月	テーマ史	「経済史」「外交史」「文化史」等を通史で復習する。	入試問題は、テーマ史を扱うことが多いため、テーマ別の流れを把握できるように留意する。
	12 月	共通テスト演習	共通テスト対策	予想問題を解き、共通テスト前の総仕上げをする。
学習の留意点・評価など	通史としての日本の歴史と、それにともなう歴史的な洞察力を身につけ、社会全体の在り方を考える。その際、単なる用語の暗記に終始しないよう、各時代の流れを理解することを意識し、それぞれの出来事が発生した時代背景や他の事象との因果関係にも着目させる。また、科目や単元（時代）ごとの理解を深め、思考力を養うための探究的な課題を随時取り入れる。授業内容を補完するものとして、時代劇や歴史小説・漫画など、生徒が日本史に興味をもてるようなものについても、適宜紹介していきたい。			
備 考	受験生としての学習への取り組みを、個々の生徒が持てるように普段からの授業には気を配りたい。			

教科名		地 歴	科 目 名	世界史探究
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅡ（教科内選択）
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)	詳説世界史 世界史探究 (山川出版社)
使用教材		最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 詳説世界史探究整理ノート（山川出版社）歴史総合要点チェック（山川出版） 世界史B一問一答完全網羅版（Gakken） 30テーマ世界史問題集（山川出版）		
学習の ねらい		グローバル化が進む現代社会において、近代以降の歴史が大きく影響していることを理解する。その上で、「歴史」が様々な社会的背景や権力関係の中で生まれたこと、あるいはどの立ち位置で「歴史」は語られるのかといった「歴史」への複数のまなざしを考える力を養う。知識としての歴史だけでなく、思考としての歴史を理解することで、自文化を相対化する視点をみにつける。 また、「世界史」や「日本史」という大きな枠組みの歴史だけでなく、現在私たちが生きていることも歴史の一部と考えることで、「歴史」をより日常的なものとして考える視点を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	近世・近代ヨーロッパ 世界の形成・発展 近代国民国家の発展	ヨーロッパにおける近世の国家、そして、環大西洋革命を経て、近代の国民国家がどのように成立したかを考える。国民国家というものが自明なものではなく、「創られるもの」という視点に立ち理解する。	教科書において、なぜこの時代から「国家の歴史」が全面にでているのかを考える。
	5 月 6 月	アジア諸地域の動揺 帝国主義と アジアの民族運動	ヨーロッパの進出により、アジア地域での政治の変化、植民地化に伴う民族主義の芽生えを理解する。また、アジアのナショナリズムの高まりが、ヨーロッパとは異なる展開をみせることを理解する。 列強による帝国主義の中で、植民地獲得が経済的にどのような意味があるのか、また植民地化を可能にしたヨーロッパの思想の背景には何があるのかを理解する。	現在、問題になっている中東の問題、またグローバルな視点から自由貿易協定などの問題と政治的、経済的に関連付けて理解する。
	7 月 2 学期 9 月	二つの世界大戦	帝国主義の覇権争い、バルカン半島における民族問題からはじまった一次世界大戦、世界恐慌に対応するためのブロック経済という経済戦略から起こった第二次世界大戦を学習する。二つの戦争と戦間期における歴史を学習することで、政治、経済、民族、国家というワードが複雑に絡み合いながら戦争に至った理由を探る。また、一次大戦後、ウィルソンが提唱した民族自決の権利が二次世界大戦にもたらした影響や、二次大戦後の国際連合の枠組みなど現在に繋がる論理を理解する。	様々な映像資料、当時の資料、戦後書かれた文字資料を参考にする。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	10月 11月	冷戦と第三世界の自立	戦後、国際社会の中心となったアメリカとソ連の冷戦、アジア・アフリカの自立について学習する。東西陣営を支えた経済的論理と軍備拡大や、一方でアジア・アフリカの自立を促す様々な運動を理解する。 また、いわゆる9.11以降、様々な意味で注目される中東地域であるイスラエルとアラブ諸国の軋轢の歴史的背景やそこに絡む石油などの経済的理由から現代の問題についても考える。	
	12月	現代の世界	ソ連解体、東欧社会主義圏の民主化運動から国家の誕生、一方でヨーロッパ連合の登場による新しい共同体の成立を学習する。アフリカにおいては、独立後むしろ活発化した紛争の背景を理解する。現代社会に直結する問題を歴史的な意義を踏まえて理解する。	現在の私たちが歩んでいる歴史と、「世界史」を考える。
学習の 留意点・ 評価など		近代以降のヨーロッパ中心の歴史観を相対化する視点を養うことを目的とする。また、モノや資料を読み解く力を身につけるとともに、それらの資料がどのような文脈において語られているかを考える。世界史が「歴史」の一分野であることを認識し、様々な視点から「歴史」を考えるヒントを示す。 評価方法としては、歴史用語や知識の暗記力ではなく、それらを論理的に組み合わせ、思考し、文章で表現する力を重視する。		
備 考				

教科名		地歴	科目名	歴史と地理
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（A選1）
単位数		1単位	教科書 （出版社）	――
使用教材		3年Ⅰコース「世界史探究」教科書・資料集 プリント・新聞・地図・視聴覚教材など		
学習の ねらい		○歴史分野と△地理分野の2人の教師がオムニバス方式で担当し、2学年次から継続して、現代の社会のあるべき姿を考えさせていく。 ○近代以降の世界情勢について様々な視点から探究し、あるべき未来像を探る。 △自然環境と社会環境を合わせた地理的環境を通して世界諸地域の独自性と共通性を見い出し、考える。		
学習 内容 と 流 れ	学期・ 月等	単元	ねらい	留意点
	4月	○現在の諸課題について学ぶ① △世界遺産 基礎	○現在、世界では何が起こっているのかを学ぶ。 △世界遺産検定4級の内容を学習。世界遺産の基礎を学ぶ。	
	5月	○現在の諸課題について学ぶ② △世界遺産 日本の遺産1	○その事象にはどのような歴史的背景があるのかを学ぶ。 そのうえで、現在、どのような課題があるのかを理解し、自分事として捉える。 △具体的に、日本の世界遺産の概略を学ぶ。	
	6月	○現在の諸課題について学ぶ② △世界遺産 日本の遺産2	○現在、世界では何が起こっているのかを学ぶ。 △同上	
	7月	○現在の諸課題について学ぶ② △ワークショップ	○その事象にはどのような歴史的背景があるのかを学ぶ。 そのうえで、現在、どのような課題があるのかを理解し、自分事として捉える。 △現在世界遺産に認定されていないものの中で、世界遺産としての登録を勧めたいものを、その理由を含めて発表する。	
学習の 留意点・ 評価など	9月	○現在の諸課題について学ぶ③ △ワークショップ	○現在、世界では何が起こっているのかを学ぶ。 その問題の歴史的背景について理解し、自分事として捉える。 △同上	
	評価は中間試験・1学期期末試験（年2回）・レポート・プレゼンテーション・平常点による。			
備考				

教科名		地歴		科目名		World Studies	
対象学年		高校3年		コース・選択等		コースⅠ（選択）	
単位数		2単位		教科書 （出版社）		なし	
使用教材		各種ワークシート／視聴覚教材／ワークショップ教材					
基本的な問いと学習のねらい		1学期	基本的な問い アメリカ合衆国は、多文化共生を実現するためにどのような歴史をたどってきたのか。そして、現在、どのような課題があるのか。 学習目標 移民の国のアメリカ合衆国のあゆみを知ることで、多文化社会の利点と課題について考える。どうすれば多文化共生社会が実現するかを考える。 英語で自分の考えや意見を伝えることができる。				
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学習内容		英語活動		
	1学期 4月	多文化社会 アメリカ合衆国 地理	北アメリカの地理的基礎知識を習得する。		英文資料を使って、アメリカ合衆国の政治組織について学ぶ。		
		多文化社会 アメリカ合衆国 地理	アメリカのいくつかの州の歴史を学ぶ。		Explore San Diego サンディエゴの歴史・文化・産業を英語で学ぶ。 サンディエゴ出身の先生にサンディエゴを紹介してもらい、質疑応答をする。		
	5月	政治制度 多文化社会 アメリカ合衆国 建国と移民の歴史	アメリカの政治政党を学ぶ。 大統領選挙の仕組みを学ぶ。 植民地時代から独立までの主な歴史事項をおさえる。 ヨーロッパ系移民の流入の歴史に関する要点をおさえる。 ネイティブアメリカンの歴史について学ぶ。				
	6月	多文化社会 アメリカ合衆国 公民権運動	大西洋三角貿易と奴隷解放までの歴史を学ぶ。 「分離すれども平等」の原則が確立されたことを知る。 ローザ・パークス事件から公民権法成立までの主な出来事を学ぶ。 アフアーマティブアクションについて学ぶ。		Little Rock事件の写真を読み取り、英語でキャプションや台詞を考える。 アメリカの文化を英語で学ぶ。		
	7月・9月	多文化社会 アメリカ合衆国			公民権運動に関する英文資料を読み取る。		
金城学院大学に内部推薦で進学する生徒は、金城学院大学の講義に参加（10月以降）							
学習の留意点・評価など		授業は参加型で行い、学習課題に対して積極的に学ぶ態度を育成するよう心掛ける。個人学習と協同学習を組み合わせることで、思考することを促し、知識の定着を図る。社会や文化の多様性に気づかせ、違いから学ぶことを心掛ける。					

教科名		地 歴	科 目 名	地 理 探 究
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	3 年コースⅢ（C2）
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	新詳地理探究（帝国書院）
使用教材		実践攻略大学入学共通テスト2027地理総合・地理探究問題集（実教出版） 新詳地理資料COMPLETE2025（帝国書院） 地理データファイル2026年度（帝国書院）		
学習の ねらい		受験者を対象とし、基礎事項を確認して入試問題等を演習、実力を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月 ～ 10 月	地誌分野 (アジア・ヨーロッパ・ オセアニア・アフリカ)	他地域との差異を明らかにして、 それぞれの地域の自然・文化・産 業の特徴を把握する。	統計資料や図表を読み取り、文章で 表現する。日本をはじめとした他地 域との相違点と共通点を整理する。
	11 月 ～ 12 月	系統地理分野の演習 地形図分野の演習 総合問題演習	既習事項を復習しながら、問題演 習を行う。問い立てに対して、解 答（結論）に至る過程を重要視し、 論理的思考を育み、実践力を身に つける。	各種統計資料・図表を読み取り、社 会的事象の因果関係を考察し、問い に対する解答を模索する。 その際に、既習した知識を統合しな がら、問題の意図を読み取り、論理 的思考を繰り返すことで、解答を導 いていく。
学習の 留意点・ 評価など		映像資料を利用し、世界の文化や暮らしの様子を具体的にイメージしやすいように工夫する。各国 の文化や社会の特色を考えさせる際に、思考ツールを利用させることで比較・分析を容易にする。 問題演習を通じて、論理的思考力を育成し、実践力を育む。		

教科名		公 民 科		科 目 名		公 共	
対象学年		高校 1 年		コース・選択等		必 修	
単位数		2 単位		教 科 書 (出版社)		公共（教育図書）	
使用教材		・ 最新図説公共（浜島書店）					
学習のねらい		学習を通じて、現代社会の諸課題に関する基礎的な知識を習得するとともに、課題解決に向けて主体的に考え、判断する力を育成することを目指す。 社会課題に対する見方・考え方は多様であり、多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自ら考え、対話を通じて課題に向き合う姿勢を養うことで、公共的存在としての資質・能力を育成することに重点を置く。					
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	学習内容		留 意 点		
	1 学期	現代の諸課題 経済	職業選択 現代の企業 市場経済 金融 財政 財政と税 国際経済		現代の経済課題を扱う際には、資料を活用し、複数の視点から課題を検討できるようにする。 経済の学習を通して、社会の課題を自分ごととして捉え、解決に向けて主体的に社会の形成に参画しようとする態度を育てる。		
	2 学期	公共と人	人は 1 人では生きられない 人はどのようにつながるのか 対話から生まれる公共 社会はどのように生まれたのか 自由と正義の実現を目指して 功利主義と義務論		先哲の思想家が示した公共性の理解を手がかりにしながら、生徒同士が対話を通して多様な考えに触れ、より良い社会を探究することができる学習環境を整える。		
		公共の原理	分配方法を考える 民主政治と人類の歴史 世界の政治体制 日本国憲法		現代社会の政治の在り方を多面的に捉え、資料を元に筋道を立てて考えることが出来るようにする。		
		現代の諸課題法	男女平等 多様な契約 消費者の権利と責任 司法と裁判		現代の諸課題と法の意義を関連付けて考え、根拠に基づいて真理を求め、公共の担い手として判断する姿勢を養う。		
	3 学期	現代の諸課題 政治 他	政治参加 社会保障 安全保障 国際社会と日本 持続可能な社会を目指して		主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。		
学習の留意点・評価など		・ 概念や理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いているか。 ・ 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができるか。 ・ 現代の諸課題を多面的・多角的に考察し、根拠に基づいて考えようとする姿勢が見られるか。					

教科名		公 民 科	科 目 名	社 会 問 題
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース I （2 選 1）
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	――
使用教材		・新聞記事 ・自作プリント ・その他		
学習の ねらい		年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	学 習 内 容	留 意 点	
	4 月 5 月	○社会問題とは何か ・いくつかの社会問題について取り上げ、資料をもとに分析して現状を理解する。 ○新聞の読み方 ・新聞記事の構成・概略など ・新聞記事の収集方法など	・映像の中にある社会問題を見つけさせる。 ・現状分析だけでなく、解決に向けて活動している団体や個人を取り上げる。 ・新聞の読み方について、新聞の構成や記事の収集方法について理解するとともに、新聞から情報を収集する場合には、できる限り複数の新聞社の記事を用いる必要があることなどに留意する。	
	6 月 7 月	○テーマ 1 「生命」 ・レクチャー ・情報の収集 ・まとめ・表現 ・課題の設定 ・整理・分析	・「生命」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。	
	8 月	○夏休みを利用して新聞切り抜きレポートの作成	・新聞切り抜きのレポートを作成して、「社会問題」の現状と課題について、より深く考察する。	
	9 月 10 月	○新聞切り抜きレポートの発表 ○テーマ 2 「平和」 ・レクチャー ・情報の収集 ・まとめ・表現 ・課題の設定 ・整理・分析	・要点をまとめて、誰にでもわかるように発表する。 ・「平和」に関する問題の現状と課題について理解し、そこには人がいる（居る・要る）ことを確認する。修学旅行を念頭において学習する。	
	11 月 12 月	○テーマ 3 「福祉」 ・レクチャー ・情報の収集 ・まとめ・表現 ・課題の設定 ・整理・分析 ○外部講師による特別授業	・「福祉」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。	
	1 月 2 月 3 月	○テーマ 4 「孤立・孤独」 ・レクチャー ・情報の収集 ・まとめ・表現 ・課題の設定 ・整理・分析	・「孤立・孤独」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。	
学習の 留意点・ 評価など		・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・「そこには人がいる」として、そこに存在している人に気づき、社会問題を解決しようと行動する人に気づく。 ・映像や新聞記事などを通して「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。		

教科名	公 民 科	科 目 名	社 会 問 題
対象学年	高校 3 年	コース・選択等	コース I (A1)
単位数	2 単位	教 科 書 (出版社)	——
使用教材	・新聞記事 ・自作プリント ・その他		
学習のねらい	年間テーマ「ともに生きる」に基づき、現代のさまざまな「社会問題」について理解するとともに、新聞記事の収集などをおして「社会問題」についてより深く考察しながら、「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	学 習 内 容	留 意 点
	4 月 5 月	○テーマ 1 「貧困」と「環境」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現	・「貧困」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。
	6 月 7 月	○テーマ 2 「ジェンダー」 ・レクチャー ・課題の設定 ・情報の収集 ・整理・分析 ・まとめ・表現 ○外部講師による特別授業	・「ジェンダー」に関する問題の現状と課題について理解するだけでなく、適切なテーマを設定して、よりよい解決の方法について具体的に考察する。 ・外部講師の説明をよく聞いて、積極的に質問する。
	9 月 10 月	○「社会問題」に関する講義 ・レクチャー ・まとめ・表現	・「社会問題」に関する専門的な講義を受け、高校で学んだ内容についての理解を深める。さらに、「ともに生きる」ことができる社会人になるために必要なことを自覚する。
学習の留意点・評価など	・年間テーマ「ともに生きる」に基づいて、現代のさまざまな「社会問題」について理解することができたか。 ・新聞記事などをおして「社会問題」についてより深く考察することができたか。 ・「ともに生きる」ことができるよりよい社会の在り方について探究することができたか。		

教科名		公 民 科		科 目 名	政治・経済
対象学年		高校3年		コース・選択等	コースⅡ（B2）、コースⅢ（C2）
単位数		2単位		教科書 （出版社）	政治・経済（数研出版）
使用教材		最新政治・経済資料集2025（第一学習社） 2026公共、政治・経済実践攻略大学入学共通テスト問題集（実教出版）			
学習の ねらい		政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断するとともに、他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付ける。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	留 意 点	
	4月	1 民主政治の基本 原理と展開	・ 民主政治と基本原理 ・ 民主政治の展開 ・ 政治体制の比較	民主政治がヨーロッパで生まれた経緯や社会契約説、権力分立の思想、議会制民主主義の成立と仕組みについて理解する。	
		2 日本国憲法と基本 的人権	・ 日本国憲法の基本的性格	大日本帝国憲法の性格を学ぶとともに、日本国憲法が制定されるまでの経緯について学習し、日本国憲法の三大原理について理解する。	
			・ 基本的人権の保証	基本的人権と法の支配の意義、自由権から社会権へ向かう人権の歴史的展開、人権保障の国際的な展開について理解する。	
	5月		・ 日本国憲法の平和主義	日本国憲法に定める平和主義の内容を確認し、日本の防衛と自衛隊のかかわり、安全保障に関する日本とアメリカの関係などについて考察する。	
			3 日本の政治機構	・ 国会のしくみと役割	議院内閣制の仕組み、内閣の権限と国の行政組織を理解するとともに、行政の課題について考察する。
			・ 内閣と行政機構	三権の関係について理解し、国会の役割、構成と運営、現状と改革の動きについて考察する。	
				・ 裁判所のしくみと人権保障	訴訟の種類、司法権の独立の意義と内容、日本の裁判制度、「憲法の番人」としての裁判所、裁判員制度などの司法制度改革について理解する。
		・ 地方自治のしくみと住民生活		地方自治の意義を確認すると同時に、地方公共団体の組織と働きなどについて理解し、地方自治と国政との関係、住民の政治参加の意義などについて考察する。	
		6月	4 政治参加と民主政治の課題	・ 戦後政治と政党	民主政治における政党や利益集団の意義と役割、現状と課題について考察する。
	・ 選挙のしくみ			近代選挙の四原則、選挙制度の概要、日本の選挙制度の仕組みについて理解し、「一票の格差」など選挙制度をめぐる課題について考察する。	
	・ 世論と情報化社会			・ 世論の意義を理解し、世論とメディアとの関係、大衆化した社会における政治意識などについて考察する。	

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	留 意 点
	7 月	1 経済活動の意義 と経済体制	・ 資本主義経済の発展と 変容 ・ 経済活動の主体	・ 産業革命などを契機に資本主義経済が成立したこ と、アダム・スミスの考え、資本主義経済の変容 と社会主義やケインズの理論、資本主義の現在に ついて理解する。
		2 現代経済のしく み	・ 市場経済のしくみ	・ 市場の仕組み、寡占市場における価格の形成、独 占禁止政策について理解する。また、価格機構が 十分に働かない市場の失敗について考察する。
			・ 国民所得と経済成長	・ 国の経済の指標であるGDPや国富などについて理 解し、経済成長の意味や景気の変動について学習 する。
			・ 金融のしくみと租税	・ 金融システムの仕組み、資金を融通する方法とし ての金融制度、通貨制度、信用創造について理解 する。
			・ 財政のしくみと租税	・ 市場経済の限界を補う意味を持つ政府の経済的な 活動について理解すると同時に、財政制度、租税 と公債、財政問題について考察する。
	9 月	3 日本経済と福祉 の向上	・ 戦後日本経済のあゆみ	・ 第二次世界大戦後の経済復興にかかわる諸改革や 高度経済成長の経過や背景について理解する。
			・ 中小企業と農業・食料	・ 中小企業の現状と役割、農業の現状と農業に関す る諸政策について理解し、諸課題について考察す る。
			・ 公害防止と環境保全	・ 高度経済成長に起きた公害問題とその後の公害対 策、新しい公害と環境保全について理解し、今後 における持続可能な社会、循環型社会について考 察する。
			・ 消費者問題と消費者保 護	・ 消費者主権の意味や消費者問題の背景、消費者運 動、消費者行政と関連法制の概要を理解し、消費 者の自立に向けた取り組みについて考察する。
	7 月		・ 労使関係と労働市場	・ 労働契約の特性、労働組合、労働運動、労働者の 権利の必要性、労働に関する法制を理解する。
			・ 少子高齢社会と社会保 障	・ 社会保障の意義と制度の歴史、日本の社会保障制 度の概略について理解し、少子高齢社会における 社会保障制度の在り方について考察する。
		国際政治の動向	・ 国際社会と国際法	・ 国家の三要素、主権国家の成立、国家間の諸問題 と外交、国際法の意義と種類などについて理解す る。
			・ 国際社会の組織化	・ 国連の安全保障への取り組みの現状と課題、平和 維持活動の役割、国連の経済的・社会的役割につ いて理解し、国際連合の課題について考察する。 ・ 国際紛争を避けるための勢力均衡と集団安全保障、 国際連盟の特色、国連の仕組みについて理解する。
	9 月		・ 戦後国際政治の展開	・ 第二次世界大戦後の東西の対立、1960年代の緊張 緩和、多極化の動き、その後の冷戦の終結、冷戦 終結後の紛争と対立などについて理解する。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 内 容	留 意 点
		国紗経済の動向	・貿易と国際収支	・貿易の意義、自由貿易と保護貿易の考え方、企業の展開と国際分業の実態について理解する。
			・国際経済のしくみ	・取り引きの決済方法としての外国為替の仕組み、為替レートの変動要因と影響、国際収支の仕組みと黒字や赤字の意味について理解する。
			・地域主義の動き	・1970年代の国際経済の枠組み立て直し、ウルグアイ・ラウンドとWTOの成立、国や地域間の貿易や経済の連携や協定について理解する。 ・ヨーロッパにおけるECやEUの展開、アメリカやアジア太平洋地域における地域統合の動きについて理解し、地域統合の進展の理由などについて考察する。
	10月	国際社会の課題と日本の役割	・核兵器の廃絶と軍縮問題	・米ソの軍備拡張競争と反核運動、国連の軍縮に向けた取り組みと成果について理解し、軍縮に伴う課題、信頼を育てることの重要性について考察する。
			・地域紛争と人種・民族問題	・民族と国家の関係がもたらす民族紛争、独立に伴う紛争、国家を持たないことが原因となる民族紛争、民族対立に伴って引き起こされる難民問題について考察する。
			・地球環境と資源・エネルギー問題	・人口の増加や人口構成の変化などの世界の人口問題、資源の需給にかかわる国際的な問題、食料生産や食料不足などの問題について考察する。
			・発展途上国の経済と経済協力	・南北問題の背景、南南問題などの動き、南北格差の是正を進める取り組みについて理解する。
			・日本の国際的地位と役割	・戦後の日本外交のあらまし、国際平和や経済、環境面で日本が果たす役割、国際貢献について考察する。
	11月	受験対策	共通テスト対策	
12月				
学習の留意点・評価など		他者と共に生きる人間としての在り方生き方について考察する力を身に付けることができたか。 政治・経済のさまざまな課題について主体的に考察し公正に判断することができたか。		

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	——
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)	これからの数学 1 (数研出版) これからの数学 2 (数研出版)
使用教材		体系数学 1 代数編 体系数学 1 幾何編 体系数学 2 代数編 体系問題集 数学 1 代数編・幾何編 体系問題集 数学 2 代数編		
学習のねらい		(1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることの意義および方程式の意味を理解するとともに、数量などの関係や法則を一般的かつ簡潔に表現し、処理できるようにする。 (2) 具体的な事象を調べることを通して、比例・反比例の見方や考え方を深めるとともに、数量の関係を表現し、考察する基礎を培う。 (3) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察する基礎を培う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	体系数学 1 代数編 □ 第 1 章 正の数・負の数 1. 正の数と負の数 2. 加法と減法	11 月	2. 比例とそのグラフ 3. 反比例とそのグラフ 4. 比例、反比例の利用
	5 月	3. 乗法と除法 4. 四則の混じった計算 * 第 2 章 式の計算 1. 文字式 2. 多項式の計算		体系数学 1 幾何編 第 1 章 平面図形 1. 平面図形の基礎 2. 図形の移動 3. 作図 *
	6 月	3. 単項式の乗法と除法 4. 式の値	12 月	4. 面積と長さ 第 2 章 空間図形 1. いろいろな立体
	7 月	5. 文字式の利用 第 3 章 方程式 1. 方程式とその解 2. 1 次方程式の解き方 3. 1 次方程式の利用 *		(基礎学力テスト) □ 2. 空間における平面と直線 3. 立体のいろいろな見方
	9 月	(計算力テスト) □ 第 4 章 不等式 1. 不等式の性質 2. 不等式の解き方	2 月	4. 立体の表面積と体積
	10 月	体系数学 2 代数編 第 5 章 データの活用 1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位範囲 *		体系数学 1 代数編 第 3 章 1 次関数 4. 連立方程式 *
		体系数学 1 代数編 第 5 章 1 次関数 1. 変化と関数	3 月	
				□ —— 学力テスト * —— 定期テスト

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		5 単位	教 科 書 (出版社)	これからの数学 2 (数研出版) これからの数学 3 (数研出版)
使用教材		体系数学 1 代数編 体系数学 1 幾何編 体系数学 2 代数編 体系問題集 数学 1 代数編・幾何編 体系問題集 数学 2 代数編		
学習のねらい		(1) 具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を養う。また、具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培う。 (2) 基本的な平面図形の性質について、観察・操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。 (3) 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層伸ばす。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	体系数学 1 代数編 □ 第 3 章 方程式 4. 連立方程式 5. 連立方程式の利用	11 月	体系数学 2 代数編 第 6 章 確率と標本調査 1. 場合の数 2. 事柄の起こりやすさと確率 3. 確率の計算 4. 標本調査
	5 月	第 5 章 5. 1 次関数とそのグラフ 6. 1 次関数と方程式 * 7. 1 次関数の利用		第 1 章 式の計算 1. 多項式の計算 *
	6 月	体系数学 1 幾何編 第 3 章 図形と合同 1. 平行線と角 2. 多角形の内角と外角 3. 三角形の合同条件 4. 証明のすすめ方 *	12 月	2. 因数分解 3. 式の計算の利用
			1 月	(基礎学力テスト) □ 第 2 章 平方根 1. 平方根 2. 根号を含む式の計算
	7 月	第 4 章 三角形と四角形 1. 二等辺三角形 2. 直角三角形の合同	2 月	3. 有理数と無理数 4. 近似値と有効数字
	9 月	(計算力テスト) □ 3. 平行四辺形	3 月	
	10 月	4. 平行線と面積 5. 三角形の辺と角の大小 *		□ —— 学力テスト * —— 定期テスト

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学
対象学年		中学 3 年	コース・選択等	――
単位数		5 単位	教科書 (出版社)	これからの数学 3（数研出版） 高校 NEXT 数学 I（数研出版）
使用教材		体系数学 2 代数編 体系数学 2 幾何編 体系問題集 数学 2 代数編・幾何編 (高校) CONNECT 数学 I + A		
学習の ねらい		(1) 2 次方程式について理解し、式を効率的に活用できるようにする。 (2) 具体的な事象を調べることを通して、関数 $y=ax^2$ について理解するとともに、関数関係を見出し表現し考察する能力を伸ばす。 (3) 図形の相似や三平方の定理について理解し、それらを図形の性質の考察に用いる能力を伸ばす。 (4) 高校 1 年生の教科書で、数の概念についての理解を一層深める。また、目的に応じて計算したり変形したりする能力を一層伸ばす。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	体系数学 2 代数編 □ 第 3 章 2 次方程式 1. 2 次方程式の解き方 2. 2 次方程式の利用	11 月	5. 接線と弦のつくる角 6. 方べきの定理 7. 2 つの円 第 4 章 三平方の定理 1. 三平方の定理 2. 三平方の定理と平面図形 *
	5 月	第 4 章 関数 $y=ax^2$ 1. 関数 $y=ax^2$ 2. 関数 $y=ax^2$ のグラフ 3. 関数 $y=ax^2$ の値の変化 4. 関数 $y=ax^2$ の利用 *		
	6 月	5. いろいろな関数 体系数学 2 幾何編 第 1 章 図形と相似 1. 相似な図形 2. 三角形の相似条件 3. 平行線と線分の比 *	12 月	3. 三平方の定理と空間図形
	7 月	4. 中点連結定理 5. 相似な図形の面積比、体積比 6. 相似の利用	1 月	(基礎学力テスト) □ 高校 数学 I 第 1 章 数と式 1. 式の計算
	9 月	(計算力テスト) □ 第 2 章 線分の比と計量 1. 三角形の重心 2. 線分の比と面積比		
	10 月	3. チェバの定理 4. メネラウスの定理	2 月	2. 実数 3. 1 次不等式 *
		第 3 章 円 1. 外心と垂心 2. 円周角 3. 円に内接する四角形 4. 円の接線 *	3 月	

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 I
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT数学 I (数研出版) 改訂版NEXT数学 II (数研出版)
使用教材		改訂版CONNECT数学 I + A, 改訂版CONNECT数学 II + B + C [数列,統計的な推測,ベクトル] (数研出版)		
学習の ねらい		数と式、図形と計量、2 次関数、データの分析、いろいろな式、高次方程式について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等		単 元	ね ら い
	1 学期 中間	4 月	数学 I	
			第 3 章 2 次関数	
			第 1 節 2 次関数とグラフ	2 次関数とそのグラフについて理解する。
	1 学期 期末	5 月	第 2 節 2 次関数の値の変化	2 次関数の値の変化について、グラフを用いて考察する。
		6 月	第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式	2 次不等式の解を 2 次関数のグラフを用いて求める。
		7 月	第 4 章 図形と計量	
	2 学期 中間	9 月	第 1 節 三角比	鋭角の三角比の意味と相互関係について理解する。
				三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鈍角の三角比の値を求める。
			第 2 節 三角比への応用	正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 三角比を平面図形や空間図形の計量に活用する。
	2 学期 期末	11 月	第 5 章 データの分析	四分位数、分散および標準偏差など各代表値や箱ひげ図の意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を読み取り説明する。 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて 2 つのデータの相関を把握し説明する。 仮説検定の考え方を身につける。

学期・月等		単 元	ね ら い
学 習 内 容 と 流 れ	学年末 テスト	数学Ⅱ	
	12月	第1章 式と証明 第1節 式と計算	3次の乗法公式および因数分解の公式について理解すること。また、整式の除法や分数式の四則演算について理解すること。
	1月	第2節 等式・不等式の証明	等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。
	2月	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をする。また、2次方程式の解の種類の判別および解と係数の関係について理解する。
学習の 留意点・ 評価など		・定期試験に加え、課題テスト、冬休み明けのテスト、小テストなどを評価に加味する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。	
		＜表現＞ 展開・因数分解・平方完成などの基礎計算が定着し、2次関数や三角比にまつわる基礎問題が解けるようになる。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他者が見て分かるように記述力をつける。 ＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有する。また、ペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を身につける。 ＜科学的思考＞ 中学数学とは異なり、抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅰの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で論理的に考え、自分の言葉で理解することを心がける。また、思考作業を通じて、考える力を身につける。	

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 A
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT数学 I (数研出版) 改訂版NEXT数学 A (数研出版)
使用教材		CONNECT数学 I + A (数研出版)		
学習の ねらい		集合と命題、場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月 5 月	1 学期 中間	数学 I 第 2 章 集合と命題 1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	集合と命題に関する基本的な概念や用語を理解する。 それらを用いて命題を証明できるようにする。 集合や命題の概念を活用して事象を考察できるようにする。
	6 月	1 学期 期末	数学 A 第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	場合の数を求めるための基本的な考え方について理解する。 さまざまな場合の数を求めるための公式について、それを適用するだけにとどまらず、公式が導出される過程についても理解する。 それらをさまざまな場合の数に応用できるような力を培う。
	7 月 9 月	2 学期 中間	第 2 節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	確率の意味とその表し方について理解し、場合の数の求め方を活用するなどして、様々な事象の確率を求められるようにする。 試行の独立について理解を深め、反復試行の確率や条件付き確率を求められるようにする。
	10月 11月	2 学期 期末	9. 期待値 第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形 1. 三角形の角の二等分線と辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理 4. 円に内接する四角形 5. 円と直線	期待値について理解し、それを求められるようにするとともに、日常の事象での様々な判断に用いるような姿勢を養う。 平面図形の様々な性質について、その証明も含めて理解する。 それらをさまざまな事象の考察や新たな性質の証明などに活用できるようにする。

	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
学習内容と流れ	12月 1月 2月	学年末	6. 2つの円 第2節 空間図形 8. 直線と平面 9. 多面体 第3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数 3. 最大公約数・最小公倍数 4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法 6. 1次不定方程式 7. n 進法	様々な空間図形の性質について、平面図形との違いにも注目しながら理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。ユークリッドの互除法の仕組みを理解し、最大公約数を求めたり、不定方程式の整数解を求めたりすることができるようにする。
学習の 留意点・ 評価など	・定期試験に加え、小テストなどを評価に加味する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。			
	＜表現＞ 確率を求めることや、図形の計量などの基礎計算を定着させ、確率や図形にまつわる基礎問題が解けるようにする。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他人が見て分かるように記述力をつける。 ＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるようにする。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢で臨む。 ＜科学的思考＞ 中学数学とは異なり、抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Aの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つようにする。また思考作業を通じて、考える力を養う。			

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 II
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース I 必 修
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT数学 II (数研出版)
使用教材		CONNECT数学 II + B + C (数研出版) Focus Gold 6th Edition 数学 II + B + C (ベクトル) (啓林館)		
学習の ねらい		図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月	1 学期 中間	第 2 章 複素数と方程式 5 高次方程式 第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2 直線の関係 研究 2 直線の交点を通る直線問題	・ 因数定理を用いて、高次方程式を解くことができる。 ・ 数直線上と座標平面上の 2 点間の距離や内分点、外分点の座標を求めることができる。 ・ 方程式で表される図形は、解 x, y の全体の集合であることから、図形と式との関係性を理解することができる。 ・ 与えられた条件をもとにして、垂直・平行な直線の方程式を求めることができる。 ・ 点と直線の距離の定義や公式の導出を理解ができ、点と直線の距離を求めることができる。
	5 月		第 2 節 円 5 円の方程式 6 円と直線	・ 1 年次で学習した平方完成を用いて、円の方程式を変形し、中心と半径を求めることができる。 ・ 与えられた条件をもとにして、円の方程式を決定することができる。 ・ 円と直線の位置関係を判別式と点と直線の距離をもとにして考えることができる。 ・ 円周上の点における接線の方程式が円と直線の関係性をもとにした考え方であることを理解し、円周上の点や外部における接線の方程式を求めることができる。
	6 月	1 学期 期末	7 2 つの円 研究 2 つの円の交点を通る直線問題	・ 2 つの円の位置関係から円の方程式を求めたり、2 つの円の共有点の座標を求めることができる。
			第 3 節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 研究 $y=f(x)$ のグラフを境界とする領域問題 章末問題	・ 与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ・ 軌跡は包含関係の確認が必要であることを理解と確認ができる。 ・ 円と直線、放物線で表された不等式の表す領域を図示することができる。

学 習 内 容 と 流 れ	学 期 ・ 月 等	定 期 テ ス ト	単 元	ね ら い
			第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数の性質	・度数法から弧度法の表記を定着させ、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。 ・1年次で学習した単位円の考え方をを用いて、三角関数の値を求めることができる。 ・グラフの対称性や奇関数と偶関数を理解し、三角関数のいろいろな等式を導くことができる。
	7月		4 三角関数のグラフ 5 三角関数の応用問題	・三角関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ・範囲に着目し、三角方程式・不等式を解くことができる。三角関数を含む最大値・最小値を求めることができる。
	9月	2学期 中間	第2節 加法定理 6 加法定理 研究 加法定理と点の回転 7 加法定理の応用 研究 和と積の公式問題 章末問題	・加法定理の公式を導くことができ、2倍角や半角の公式も導くことができる。また、正接と直線の傾きの関係性に着目し、直線の方程式を求めることができる。 ・加法定理の公式を用いて、三角関数の合成の公式を導くことができる。また、三角関数の合成を用いて、三角関数の最大・最小や三角関数の方程式・不等式の問題を解くことができる。
			第5章 指数関数と対数 第1節 指数関数 1 指数の拡張 研究 負の数の n 乗根	・指数の拡張を理解し、指数法則を用いて計算することができる。
	10月		2 指数関数	・指数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。また、グラフの特徴をもとにして、指数方程式・不等式を解くことができる。
		2学期 期末	第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数 章末問題	・指数と関連付けて対数を定義し、計算することができる。 ・対数関数のグラフがかけ、指数関数のグラフと比較し、対数関数のグラフの特徴が理解できる。また、グラフの特徴をもとにして、指数方程式・不等式を解くことができる。 ・常用対数の有用性を理解し、それを活用して桁数などを求めることができる。
	11月		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 研究 関数 x^n の導関数	・平均変化率が曲線上の2点を結ぶ直線の傾きであることを理解し、それをもとに微分係数の意味を理解して接線の傾きを求めることができる。 ・導関数の意味を理解し、定義に従って微分することができる。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	12月		3 接線の方程式	・グラフ上にある接線の方程式を求めることができる。 ・グラフ上にない点から引いた接線の方程式を求めることができる。
	1 月		第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	・増減表の書き方を理解し、極大値・極小値を求めることで、関数のグラフをかくことができる。 ・3次関数や4次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・方程式とグラフの関係性を見出し、方程式の解の個数を求めることができる。また、不等式の証明をすることができる。
	2 月	学年末	第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 研究 放物線と x 軸で囲まれた部分の面積 研究 $(x+a)^n$ の微分と積分 章末問題	・不定積分の意味を理解し、微分と関連付けて求めることができる。 ・定積分の性質を理解し、利用することができる。 ・定積分を用いて面積を求めることができる。
	3 月			
・定期テストに加え、課題テストなどを評価に加味する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。				
学習の 留意点・ 評価など ＜表現＞ 三角関数・指数関数・対数関数・微分・積分などにおける基礎計算を定着させ、基礎問題が解けるようにする。また、答えにいたるまでの過程を論理的に記述ができるようにする。 ＜協働＞ 生徒個人の疑問を生徒全体に共有・解決できるようにする。ペアワークやグループワークを通して、考え方を共有し、わからないことを教え合う姿勢で臨む。 ＜科学的思考＞ 数学Ⅰに増して、より多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅱの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持ち、考える力を養う。				

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 II
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース II 必 修
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT 数学 II (数研出版)
使用教材		CONNECT 数学 II + B + C (数研出版)		
学習の ねらい		高次方程式・円の方程式・三角関数・指数関数・対数関数・微分・積分について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月	1 学期 中間	数学 II 第 1 章 複素数と方程式 第 2 節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 問題・章末問題	2 次方程式の解の種類の判別および解と係数の関係について理解する。 因数定理を用いて高次方程式を解く手順を理解する。
	5 月		第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2 直線の関係 問題	中学校で学んだ数直線や座標の概念を復習する。また、分点の座標、2 点間の距離の求め方などを理解し、公式が使える。 直線の方程式には様々な形があることを理解する。また、2 直線の平行・垂直条件を理解し、点と直線の距離の公式を導出過程を理解する。
	6 月	1 学期 期末	第 2 節 円と直線 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2 つの円 問題 第 3 節 軌跡と領域 8. 軌跡 9. 不等式の表す領域 問題・章末問題 第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数の性質	円の方程式を理解する。 円と直線の位置関係と 2 次方程式の解の個数の関連について理解し、接線の導出ができるようにする。 接線の公式も学ぶ。 条件を満たす点の軌跡を求める方法を理解する。 不等式の表す領域について理解し、線形計画法を用いて、与えられた領域を定義域とする関数の最大値・最小値を求める方法を理解する。 一般角を理解し、新しい角の概念である弧度法を導入する意義を理解する。 単位円を用いて一般角まで、三角比（三角関数）の定義を拡張し、数学 I で学習した公式が成り立つことを確認する。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	7 月		4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 問題	三角関数のグラフでは、周期などの特徴があることを理解する。 三角関数を含む方程式・不等式は単位円やグラフを利用して解けることを理解する。
	9 月	2 学期 中間	第 2 節 加法定理 6. 三角関数の加法定理 7. 加法定理の応用 問題・章末問題	加法定理は導出過程を理解するとともに公式を繰り返し使って記憶する。 2 倍角・半角の公式は、加法定理から公式を導出する過程を理解する。 三角関数の合成は加法定理に基づいていることを理解し、図を描いて合成できるようにする。
	10 月	2 学期 期末	第 5 章 指数関数と対数関数 第 1 節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 問題	指数を負の数に拡張する意味を理解し、四則演算ができるようにする。 指数関数では底 a が $0 < a < 1$ 、 $1 < a$ の 2 つの場合のグラフの形をしっかりと把握させる。
	11 月		第 2 節 対数関数 1. 対数とその性質 2. 対数関数 3. 常用対数 問題・章末問題	対数と指数の書き換えを理解し、対数が表わすものの意味を理解する。 対数関数と指数関数のグラフは、直線 $y=x$ に関して対称であり、真数が正であることに注意する。常用対数の計算に習熟させる。
	12 月	学年末	第 5 章 微分と積分 第 1 節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算	平均変化率は曲線上の 2 点を結ぶ直線の傾きであることを理解させる。 導関数の定義を理解し、定義に従って微分ができるようにする。また、3 次、4 次関数の微分は公式を用いて計算できるようにする。
	1 月		3. 接線の方程式 問題	微分係数を用いて、曲線に接線が引けることを理解する。曲線上にない点から引く場合には接点を文字で置くことを理解させる。
			第 2 節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 方程式・不等式への応用 問題	増減表を用いて極大値・極小値を求めることで、曲線のグラフが描けることを理解する。 方程式の実数解の個数と曲線のグラフとの関係性を見出して使い分けができるようにする。
	2 月		第 3 節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	微分と積分は逆演算であることを理解し、原始関数は定数の違いだけ無数にあることを理解する。 曲線と x 軸で囲まれた部分の面積と積分が大きくかわっていることを理解し、定積分の必要性を認識する。 定積分の計算では、定積分の性質を利用して計算が容易になる方法を学習する。
	3 月		問題・章末問題	

学習の
留意点・
評価など

- ・定期テストに加え、課題テスト、冬休み明けのテスト、小テストなどを評価に加味する。
- ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。

＜表現＞

高次方程式・円の方程式・三角関数・指数関数・対数関数・微分・積分などにおける基礎計算を定着させ、基礎問題が解けるようにする。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他者が見て分かるように記述力をつける。

＜協働＞

計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。

＜科学的思考＞

数学Ⅰに増して、より多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅱの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。また思考作業を通じて、考える力を養う。

教科名		数 学 科		科 目 名	数 学 II
対象学年		高校 2 年		コース・選択等	コースⅢ 必 修（グレード別）
単位数		4 単位		教 科 書 (出版社)	NEXT数学Ⅱ（数研出版） NEXT数学Ⅲ（数研出版）
使用教材		CONNECT数学Ⅱ + B + C〔数列、統計的な推測、ベクトル〕、CONNECT数学Ⅲ + C（数研出版）			
学習の ねらい		高次方程式・円の方程式・三角関数・指数関数・対数関数・微分・積分・数列や関数の極限について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い ・ 目 標	
	4 月	1 学期 中間	数学Ⅱ 第 2 章 複素数と方程式 第 2 節 高次方程式 5. 高次方程式 問題・章末問題	因数定理を用いて高次方程式を解く手順を理解する。	
	5 月		第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2 直線の関係 問題	分点の座標、2 点間の距離の求め方を理解し、公式が使える。 様々な条件から直線の方程式を求めることができる。	
	6 月	1 学期 期末	第 2 節 円と直線 5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2 つの円 問題 第 3 節 軌跡と領域 8. 軌跡 9. 不等式の表す領域 問題・章末問題	円の方程式を理解する。 円と直線の位置関係について、2 次方程式の解を調べる方法と図形から直接調べる方法で共有点の個数を調べることができる。 円の接線の方程式を求めることができる。	
			第 4 章 三角関数 第 1 節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数の性質 4. 三角関数のグラフ 5. 三角関数の応用 問題	度数法から弧度法に変換でき、三角関数の値を求めることができる。 三角関数の相互関係を用いて、等式の証明や式の値を求めることができる。 三角関数のグラフがかけ、周期を求めることができる。 三角関数を含む方程式・不等式を単位円を用いて、解くことができる。	

学 習 内 容 と 流 れ 学 習 内 容 と 流 れ	学 期 ・ 月 等	定 期 テ ス ト	単 元	ね ら い ・ 目 標
	7 月	2 学期 中 間	第 2 節 加法定理 6. 三角関数の加法定理 7. 加法定理の応用 問題・章末問題	三角関数の加法定理を用いて、2 倍角や 3 倍角、半角の公式を導くことができる。 三角関数の合成を用いて、最大・最小、方程式・不等式を解くことができる。
	9 月		第 5 章 指数関数と対数関数 第 1 節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数 問題 第 2 節 対数関数 1. 対数とその性質 2. 対数関数 3. 常用対数 問題・章末問題	指数法則を理解し、指数を含む式の計算や方程式・不等式を解くことができる。 指数関数のグラフをかくことができる。 対数法則を理解し、対数を含む式の計算や方程式・不等式を解くことができる。 対数関数のグラフをかくことができる。 常用対数を用いて、指数で表された数の桁数を求めることができる。
	10 月	2 学期 期 末	第 6 章 微分と積分 第 1 節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式 問題	微分係数と導関数の定義を学習する。 導関数の公式を用いて、関数を微分することができる。 微分係数が接線の傾きであることを図形を用いて理解する。
	11 月		第 2 節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 方程式・不等式への応用 問題 第 3 節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積 問題・章末問題	関数の増減は、接線の傾きが関係することを理解し、増減表・グラフをかくことができる。また、グラフを用いて、関数の最大・最小を求めることができる。 公式を用いて、関数を積分することができる。 定積分を用いて、関数によって囲まれる図形の面積を求めることができる。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い ・ 目 標
	12月	学年末 テスト	数学Ⅲ 第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 問題・章末問題	定義域や値域に注意して、分数関数や無理関数のグラフをかくことができる。また、グラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。 逆関数の性質を理解し、逆関数を求めることができる。
	1月		第2章 極限 第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 問題	無限大や収束・発散の意味を理解し、数列の極限を求めることができる。 数列の無限和にも収束・発散があることを理解し、和を求めることができる。
	2月		第2節 関数の極限 4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数の極限 7. 関数の連続性 問題・章末問題	不定形の極限を求めることができる。 グラフを用いて、関数の極限の収束・発散について考えることができる。
	3月		第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 問題	積・商の微分や合成関数の微分をすることができる。 三角関数や指数関数・対数関数を微分することができる。
学習の 留意点・ 評価など		・定期テストに加え、課題テスト、冬休み明けのテスト、小テストなどを評価に加味する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。		
		＜表現＞ 高次方程式・円の方程式・三角関数・指数関数・対数関数・微分・積分・数列や関数の極限などにおける基礎計算を定着させ、基礎問題が解けるようにする。また、途中過程を矛盾なく記述できるようにする。 ＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。 ＜科学的思考＞ 数学Ⅰに増して、より多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅱ・Ⅲの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。また思考作業を通じて、考える力を養う。		

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 B
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅡ 必 修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT数学B（数研出版）
使用教材		CONNECT数学Ⅱ+B+C（数研出版）、項目別学習ノート ベクトル（数研出版）		
学習のねらい		ベクトルや数列といった新しい概念を習得する中で、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、他分野との関連性も見い出すとともに数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月	1 学期 中間	第 1 章 数列 第 1 節 等差数列・等比数列 1. 数列とその項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 問題	等差数列の定義を正しく理解し、初項と公差から一般項を導出する仕組みを理解させる。そこから和の公式が容易に導けることを理解させる。 等比数列の定義を正しく理解し、初項と公比から一般項を導出する仕組みを理解させる。また、等比数列の特徴を生かして、和の公式が導出できるその仕組みを理解させる。
	5 月		第 2 節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	記号 Σ の意味を理解させ、 Σ にまつわる公式の導出と利用を理解させる。 階差数列や群数列など、やや複雑な数列・その和について、考え方や解法を理解させる。
	6 月	1 学期 期末	第 3 節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式	初項と漸化式を用いて、数列を帰納的に定義できることを理解させる。また、簡単な漸化式から一般項の導出ができるようにする。
	7 月	2 学期 中間	10. 数学的帰納法 問題・章末問題	数学的帰納法という有用な証明方法を理解させ、それを等式・不等式の証明などに応用させる。
	9 月		第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 1. 確率変数と確率分布	確率変数を導入し、確率分布の意味を理解させる。
	10 月	2 学期 期末	2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積	確率変数の期待値、分散、標準偏差について理解させる。また、その求め方を理解させる。 確率変数の和の期待値や、確率変数が独立な場合の積の期待値、和の分散などについて、性質を理解させる。
	11 月		4. 二項分布 5. 正規分布 問題	確率分布の代表的なものとして、二項分布を取り上げ、期待値、分散、標準偏差を求める方法を理解させる。 確率変数には連続型の場合があり、その分布は確率密度関数 $f(x)$ によって定まる。この概念は、離散型の場合の拡張になっていることを理解させる。 連続型確率変数の代表として、正規分布を導入し、その分布曲線の形と期待値、標準偏差との関係を理解させる。 正規分布の活用では、確率変数の標準化を導入し、標準正規分布に従う確率変数を利用する。

	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
学 習 内 容 と 流 れ	12月	学年末	第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布	標本は、母集団の特徴を反映するように取り出す必要がある。そのための取り出し方や標本の大きさなどについて考える。 標本平均の分散と母集団の特性値との関係を理解させる。
	1月		8. 推定 9. 仮説検定 問題・章末問題	「鍋いっぱいのスープの味をみるのには、さじ一杯のスープの味を見ればよい」という推定のもつ意味を理解させる。標本から母集団の特性値、特に母平均、母比率の推定の方法の理解と計算方法を指導する。 仮説検定の意味を理解させ、その手順をまとめる。また、具体例を交えて、両側検定と片側検定の違いについても理解させる。
	2月 3月		以下、問題演習及び共通テスト対策としてベクトル分野の学習を行う。	
学習の 留意点・ 評価など	・ 定期テストに加え、課題テスト、冬休み明けのテスト、小テストなどを評価に加味する。 ・ 学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。			
	＜表現＞ 位置ベクトルを用いて、図形上の点や図形自体を表現する手法を身につけさせる。また、ベクトルは次元が異なっても手法は大きく変わらない。そのことを利用し、平面ベクトルの事象から空間ベクトルの事象を表現していく過程を正しく理解させる。 ＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。 ＜科学的思考＞ 数学Ⅰ・Aより多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Bの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。また思考作業を通じて、考える力を養う。			

教科名		数 学 科		科 目 名	数 学 B
対象学年		高校 2 年		コース・選択等	コースⅢ（必修）グレード別
単位数		2 単位		教 科 書 (出版社)	NEXT数学B（数研出版）
使用教材		CONNECT数学Ⅱ+B+C（ベクトル）（数研出版）			
学習のねらい		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い	
	4 月	1 学期 中間	数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. 平面上のベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	
	5 月			ベクトルの意味を明らかにするとともに、その演算と計算法則を理解する。 ベクトルを成分で表し、成分でのベクトルの計算を習得する。 ベクトルの内積の定義、意味、計算法則を理解し、図形への応用を図ることができる。	
	6 月	1 学期 期末	6. ベクトルと図形 7. ベクトル方程式	直線や円のベクトル方程式を理解する。	
			NEXT数学B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和	数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 数列の規則性を推測できるようにし、基本的な用語の意味や、一般項の概念を理解する。	
	7 月	2 学期 中間	4. 等比数列 5. 等比数列の和 第2節 いろいろな数列	いろいろな数列の一般項・和を求め、記号 Σ の意味を理解し、数列の和を表現したり、求めることができる。階差数列や第 n 項での和から一般項が求められることができる。	
	9 月		6. 和の記号 Σ 7. 階差数列		
	10月	2 学期 期末	8. いろいろな数列の和 第3節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	漸化式の意味を理解し、漸化式で定義された数列の一般項を求めることができる。 数学的帰納法の考え方を理解し、自然数 n に対して成り立つ等式や不等式等の証明に用いることができる。	
	11月		第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散	確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。 確率変数と確率分布の意味を理解し、これに基づいて確率を求めることができる。 確率変数の平均、標準偏差の意味やその性質を理解し、求めることができる。	

学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
12月 1 月 2 月 3 月	学年末	3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布 第2節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	二項分布の意味を理解し、その平均や標準偏差を求めることができる。 正規分布を導入し、正規分布の使い方に習熟し、二項分布が正規分布によって近似できることを理解し、二項分布に従う確率変数の確率を求めることができる。 集団の持つ母平均、母平均の考えや、これらを推定する方法を理解する。 仮説検定の理解を深める。
学習の 留意点・ 評価など		・グレード別クラス編成とする。2レベル・3クラスに分けて授業を行う。理解の徹底を図り、受験に対応できるように多くの問題に取り組む。	
		<表現> 平面座標においての図形をベクトルで表現する手法を身につけ、数列において事象の離散的な変化の規則性を数学に表現する。 <協働> あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるようにする。また、ペアワークやグループワークを通じて、互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を持つ。 <科学的思考> 日常や社会の事象の問題解決に数列の考えを活用し、数学的帰納法を用いた証明方法を他の証明方法と比較しながら多面的に考察する。また、仮説検定などにより標本から母集団を統計的に推測することで、数学と社会生活をより深く結びつけて思考する力をつける。	

教科名		数 学 科		科 目 名	数 学 B
対象学年		高校 3 年		コース・選択等	コース I (必修)
単位数		2 単位		教 科 書 (出版社)	NEXT 数学B (数研出版)
使用教材		CONNECT数学Ⅱ+B (数研出版)			
学習の ねらい		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い	
	4 月	1 学期 中間	第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	5 月			数列の規則性を推測できるようにし、基本的な用語の意味や、一般項の概念を理解する。	
	6 月			いろいろな数列の一般項を求め、記号 Σ の意味を理解し、数列の和を表現したり、求めることができる。	
	7 月	1 学期 期末	第 2 節 いろいろな数列 6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	階差数列や第 n 項での和から一般項を求めることができる。	
	9 月		第 3 節 漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	漸化式の意味を理解し、漸化式で定義された数列の一般項を求めることができる。	
	10 月			数学的帰納法の考え方を理解し、自然数 n に対して成り立つ等式や不等式等の証明に用いることができる。	
	11 月	2 学期 中間	第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。	
	12 月		第 2 節 統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	確率変数と確率分布の意味を理解し、これに基づいて確率を求めることができる。	
	1 月			確率変数の平均、標準偏差の意味やその性質を理解し、求めることができる。	
		学年末 テスト		二項分布の意味を理解し、その平均や標準偏差を求めることができる。	
				正規分布を導入し、正規分布の使い方を習得する。また、二項分布が正規分布によって近似できることを理解し、二項分布に従う確率変数の確率を求めることができる。	
				集団の持つ母平均やその考え方、推定方法を理解する。仮説検定の理解を深める。	

学習の 留意点・ 評価など	<表現> 数列を理解し、決まりに従って一般項を式で表したり、和を記号を使って表現し、公式を用いて計算する。 <協働> あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるようにする。また、ペアワークやグループワークを通じて、互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を持つ。 <科学的思考> 日常や社会の事象の問題解決に数列の考えを活用し、数学的帰納法を用いた証明方法を他の証明方法と比較しながら多面的に考察する。また、仮説検定などにより標本から母集団を統計的に推測することで、数学と社会生活をより深く結びつけて思考する力をつける。
---------------------	---

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 Ⅲ
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅢ（必修）グレード別
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT数学Ⅲ（数研出版）
使用教材		CONNECT数学Ⅲ（数研出版） ニュースタンド数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C 受験編（数研出版） ベーシックスタイル数学演習Ⅲ・C〔複素数平面、式と曲線〕 受験編（数研出版）		
学習のねらい		三角関数・指数関数・対数関数・分数関数・無理関数・2次曲線などに対して、微分・積分を取り扱う。微分・積分の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、微分・積分有用性を認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月	1 学期 中間	数学Ⅲ 第3章 微分法 第2節 いろいろな関数の導関数 5. 曲線の方程式と導関数 第4章 導関数の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式 第5章 積分方とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法	導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、いろいろな関数の極値を調べることを習得する。 第2次導関数を用いてグラフの凹凸、変曲点を調べてグラフの概形がかけられるようにする。
	5 月			増減表を用いて、最大・最小問題や方程式・不等式に活用できることを理解する。
	6 月	1 学期 期末	3. いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4. 定積分とその性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	数学Ⅱで習ったことが多いので、不定積分と同様である。 偶関数と奇関数について理解させ、定積分の計算で応用できるようにする。 面積に加えて体積が定積分によって求められることを理解し、その計算ができるようにする。
	7 月 9 月 10 月	2 学期 中間	問題演習（数学ⅠAⅡBⅢC）	数学ⅢCまで本格的に学習する必要がある生徒は数学ⅠAⅡBⅢCの演習を複合的に取り組み、そうでない生徒は数学ⅠAⅡBⅢCの演習を重点的に取り組む。 同上
	11 月 12 月	2 学期 期末	同上	同上

学習の 留意点・ 評価など	・定期テストに加え、課題テスト、毎週早朝行われる確認テストなどを評価に加味する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。
	<表現> n 次関数・三角関数・指数関数・対数関数・分数関数・無理関数・2次曲線などに対して、微分・積分の基礎計算を定着させ、基礎問題が解けるようにする。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他人が見て分かるように記述力をつける。 <協働> 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。 <科学的思考> 数学Ⅰ・Ⅱに増して、より多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅲの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。また思考作業を通じて、考える力を養う。
備 考	2学期からは数学ⅢCまで本格的に学習する必要がある生徒とそうでない生徒でクラスを再編成し、必要な生徒には数学ⅠAⅡBⅢCの複合的な演習、そうでない生徒には数学ⅠAⅡBⅢCの演習を重点的に行う。

教科名		数 学 科	科 目 名	数 学 C
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅢ 必 修 (グレード別)
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	NEXT 数学C (数研出版)
使用教材		CONNECT数学C (数研出版) ニュースタダード数学演習Ⅰ・A + Ⅱ・B・C受験編 (数研出版)		
学習のねらい		複素数平面や2次曲線、ベクトルについて、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培う。また、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できる態度を育てる。 また、2学期以降は、数学Ⅰ・A + Ⅱ・B・Cで学習した内容を総復習し、知識を複合しながら活用する態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い
	4 月	1 学期 中間	数学C 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線と離心率	2次曲線は数学Ⅰ・Ⅱで扱った2次関数や円の一般化であり、平行移動や判別式などの今までに習った手法が使えることを学ぶ。
	5 月		第2節 媒介変数と極座標 1. 曲線の媒介変数表示 2. 極座標と極方程式	パラメータを用いて曲線を表す手法を理解し、2次曲線やより一般の曲線の媒介変数表示へとその考えを応用する。
	6 月	1 学期 期末	第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点と対応させることの意義を理解する。 極形式を用いて複素数の積・商の図形的意味を理解する。 複素数平面上で平面図形をとらえる方法を理解する。 幾何学的な特徴がどのように代数的な演算と結びつくかを考察し、複素数平面を総合的な理解につなげる。
	7 月	2 学期 中間	第2章 空間のベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形 問題演習 (数学Ⅰ・A + Ⅱ・B・C)	空間のベクトルは平面のベクトルの一般化であり、内積や位置ベクトル、ベクトル方程式など、平面のベクトルで習った手法が使えることを学ぶ。
	9 月			数学Ⅰ・A + Ⅱ・B・Cの内容について、大学入試問題の過去問を用いて、復習する。そして、記述の入試問題が正確な記述のもと解けるよう、演習を行なう。
	10月			
学 習 内 容 と 流 れ	10月 11月	2 学期 期末	同上	同上
	12月		同上	同上

学習の 留意点・ 評価など	・定期テストを主に評価する。 ・学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。
	＜表現＞ 複素数平面・2次曲線・媒介変数表示などにおける基礎事項を理解させ、基礎問題が解けるようにする。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他人が見て分かるように記述力をつける。 ＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。 ＜科学的思考＞ 数学Ⅰ・A、Ⅱ・Bに増して、より多くの抽象概念への理解や論理的思考を多く必要とする。数学Ⅲの範囲を学習する中で、答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。また思考作業を通じて、考える力を養う。
備 考	1学期は数学Ⅲの内容についての理解を深め、2学期以降は数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B・Ⅲの内容も含め、高校数学全体についてのまとめの演習を行う。自分の進路実現のために必要な基礎学力養成の時間とする。

教科名		数 学 科		科 目 名	数 学 C
対象学年		高校 3 年		コース・選択等	コース I（選択 A 4）
単位数		2 単位		教 科 書 (出版社)	NEXT 数学 C（数研出版）
使用教材					
学習の ねらい		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い	
	4 月	1 学期 期末	第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	平面上のベクトルの基本的な概念について理解する。 ベクトルの意味を明らかにするとともに、実数の計算法則と関連付けてベクトルの演算と計算法則を理解する。 ベクトルを成分で表し、成分でのベクトルの計算を習得する。	
	5 月		第 2 節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル 6. ベクトルと図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	ベクトルの内積の定義、意味、計算法則を理解し、図形への応用を図ることができる。 位置ベクトルについて理解し、平面図形の性質を見出したり、多面的に考察することができる。 与えられた条件を満たす点が描く図形について考察することができる。	
	6 月				
	7 月	2 学期 期末	第 2 章 空間ベクトル 1. 空間の点 2. 空間のベクトル 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 5. ベクトルの図形への応用 6. 座標空間における図形	空間におけるベクトルの定義やベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。 空間座標の概念およびその意味を理解して成分表示することができる。 平面上のベクトルの考えを拡張して、内積や位置ベクトルを理解し、空間図形の性質について多面的に考察することができる。	
	9 月				
	10 月				
	11 月 12 月				
	1 月	学年末	第 3 章 数学的な表現の工夫 1. データの表現方法の工夫 2. 行列による表現 3. 離散グラフによる表現 4. 離散グラフと行列の対応	データの種類に応じて適切な図、表統計グラフなどの表現方法を理解する。 行列を定義し、行列の演算を用いることで能率的に調査結果を処理することができる。 具体的な事象を離散グラフで表して考察し、その意義を理解する。 離散グラフについて隣接行列とその演算を用いて考察する活動を通して、表現の工夫によって能率的に処理したり、事象の様子を的確に伝えたりすることができるようにする。	

学習の
留意点・
評価など

<表現>

平面座標、空間座標においての図形をベクトルで表現する手法を身につけ、図表統計グラフ離散グラフ及び行列を用いて日常の事象などを数学的に表現し、考察する。

<協働>

あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるようにする。また、ペアワークやグループワークを通じて、互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を持つ。

<科学的思考>

日常や社会の事象の問題解決に数学的な考えを活用し、多面的に考察する。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善をしたりする。

教科名		数 学 科		科 目 名	私 大 数 学
対象学年		高校 3 年		コース・選択等	コースⅡ 選 択 （B3）
単位数		2 単位		教 科 書 （出版社）	なし
使用教材		ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C〔ベクトル〕			
学習の ねらい		数学Ⅰ・A・Ⅱの内容を総復習し、基礎知識を確認・定着させる。また、大学入試で出題された問題に数多く取り組み、できるだけ自分で解決できるように演習を重ねる。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元		ね ら い
	4 月	1 学期 期末	第 1 章 数と式		CHECKとSame Styleを用いて、基礎事項を確認する。その際に、自分の学力に応じて、今まで使ってきた参考書などを用いて、復習する。
	5 月		第 2 章 2 次関数		
			第 3 章 図形と計量		
	6 月		第 4 章 データの分析		
			第 5 章 場合の数と確率		
			第 6 章 図形の性質		
			第 8 章 式と証明		
第 9 章 複素数と方程式					
第10章 図形と方程式					
7 月			第11章 三角関数		
	第12章 指数関数と対数関数				
	第13章 微分法と積分法				
	9 月	2 学期 期末	以下、同様に繰り返す		Completeを用いて、応用問題に挑戦することで、実践的な数学力を育成する。
10 月					
11 月					
12 月					
私大入試に向けての演習					
学習の 留意点・ 評価など		・ 定期テストに加え、小テストなどを評価に加味する。 ・ 学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。			
		＜表現＞ 基礎計算を定着させ、基礎問題が解けるようにする。また、答えにたどり着くだけでなく、途中計算を他者が見て分かるように記述力をつける。			
		＜協働＞ 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする姿勢を促す。			
		＜科学的思考＞ 基礎事項を押さえた上で、応用問題に着手できるようにする。その際、問題で設定された事象を正確に読み取り、基礎事項を応用する思考作業を通じて、考える力を養う。答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。			

教科名		数 学 科		科 目 名	数 学 演 習
対象学年		高校 3 年		コース・選択等	コースⅡ 選 択 (B4)
単位数		3 単位		教 科 書 (出版社)	なし
使用教材		ニューステージ数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C（数研出版） 2027共通テスト直前対策問題集数学Ⅰ数学A（河合出版）			
学習のねらい		数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cの内容を総復習し、基礎知識を確認・定着させる。また、大学入試で出題された問題に数多く取り組み、できるだけ自分で解決できるように演習を重ねる。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	定期 テスト	単 元	ね ら い	
	4 月 5 月	1 学期 中間	オリエンテーション 1 ～ 3 「数と式」 4 ～ 5 「集合と命題」 6 ～ 8 「2次関数」 9 ～ 11 「図形と計量（三角比）」 12 ～ 14 「データの分析」 15 ～ 18 「場合の数と確率」 19 ～ 21 「図形の性質」	CHECKは各自で取り組み、基礎事項を確認する。 授業では、STEPとTRIALの中からの問題を取り扱う。 小テストを行い、実践力をつける。	
	6 月	1 学期 期末	22 ～ 24 「式と証明」、「複素数と方程式」 25 ～ 27 「図形と方程式」 28 ～ 29 「三角関数」 30 ～ 31 「指数関数と対数関数」 32 ～ 33 「導関数、関数」 34 ～ 36 「微分法、積分法」 37 ～ 40 「数列」	同上	
	7 月 9 月	2 学期 中間	41 ～ 43 「統計的な推測」 44 ～ 46 「ベクトル」 47 ～ 48 「複素数平面」 49 ～ 50 「2次曲線」 総合問題		
	10月 11月	2 学期 期末	実践問題演習	直前対策として実践力をつける	
	12月		共通テストに向けての演習	同上	

学習の 留意点・ 評価など	・ 定期テストに加え、小テストなどを評価に加味する。 ・ 学習意欲、態度および提出物を評価に加味する。
	<表現> 大学受験に対応できる記述力を身につけられるよう、演習内で指導していく。 <協働> 計算問題、文章問題、図形問題、あらゆる分野の問題を解くにあたり、他者と学習内容を共有できるように促す。またペアワークやグループワークを通じて、お互いに理解できていないところを共有したり、教え合ったりする。 <科学的思考> 基礎事項を押さえた上で、応用問題に着手できるようにする。その際、問題で設定された事象を正確に読み取り、基礎事項を応用する思考作業を通じて、考える力を養う。答えを求めるだけの姿勢から上記を含む数学的思考ができるように、授業内で考える時間を多く持つように努める。

教科名		理 科	科 目 名	理 科
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	——
単位数		3 単位	教科書 (出版社)	未来へひろがる サイエンス 1 (啓林館)
使用教材		理科便覧（浜島書店）、中学の理科 物理・化学（教育開発出版）、 中学の理科 生物・地学（教育開発出版）		
学習のねらい		・身近な植物・動物を観察し、話し合いを通じて相違点・共通点を見つける。 また観点に注目して分類できるようにする。 ・身の回りの気体、光、音、力の性質を学び、日常生活の物質や現象をより深く理解する。 ・火山・地震・地層について理解し、活きた地球上で生活していることを実感できるようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	【中 1 理科】 生命 いろいろな生物とその共通点 自然の中にあふれる生命 1 身のまわりの生物の観察 2 生物のなかま分けのしかた 1 章 植物の特徴と分類 1 花のつくり 2 子葉、葉、根のつくり 3 種子をつくらない植物 4 植物の分類	9 月	2 章 ゆれる大地 1 地震の発生とゆれの伝わり方 2 ゆれの大きさ 3 日本列島の地震 2 身のまわりのものから発生した気体の区別 3 章 火をふく大地 1 火山の噴火 2 マグマの性質と火山 3 マグマからできた岩石 4 章 語る大地 1 地層のでき方と広がり 2 地層の岩石 3 地層・化石と大地の歴史 4 大地の恵みと災害
	5 月	【中 2 理科】 生命 生物の体のつくりとはたらき 2 章 植物の体のつくりとはたらき 1 栄養分をつくる 2 植物の呼吸 3 水や栄養物を運ぶ 1 章 生物の体をつくるもの 1 生物の体の成り立ち 2 細胞のつくり 3 細胞のはたらき 3 章 動物の体のつくりとはたらき 1 栄養分をとり入れる 2 動物の呼吸 3 不要な物質のゆくえ	10 月	化学 身のまわりの物質 1 章 いろいろな物質とその性質 1 物質の区別 2 重さ・体積と物質の区別
			11 月	2 章 いろいろな期待とその性質 1 気体の区別 3 章 水溶液の性質 1 物質のとけ方 2 濃さの表し方 3 溶質のとり出し方
	6 月	4 章 動物の行動のしくみ 1 感じとるしくみ 2 刺激の信号を伝えたり反応したりするしくみ 3 運動のしくみ 【中 1 理科】 2 章 動物の特徴と分類 1 動物の体のつくりと生活 2 背骨のある動物 3 背骨のない動物 4 動物の分類	12 月	4 章 物質のすがたとその変化 1 物質のすがたとその変化 2 状態変化と温度 3 混合物の分け方
	7 月	地球 活きている地球 1 章 身近な大地 1 身近な大地の変化 2 地域の大地の観察	1 月	エネルギー 光・音・力による現象 1 章 光による現象 1 光の進み方 2 光が通りぬけるときのようなす レンズのはたらき
			2 月	2 章 音による現象 1 音の伝わり方 2 音の大小と高低 3 章 力による現象 1 力のはたらき 2 力の大きさのはかり方 3 力の表し方 4 1つの物体に2つの力がはたらくとき
学習の留意点・評価など		グループワークや実験の考察を通し、知識を深め、新たな気づきや発見をさせる。 実験の考察・小テスト・提出物・定期テスト等に基づき、評価を行う。		
備 考		実験・観察等を通し、理解を深める。		

教科名		理 科	科 目 名	理 科
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		4 単位	教科書 (出版社)	未来へひろがるサイエンス 2 (啓林館)
使用教材		最新 理科便覧 愛知県版 (浜島書店) 徹底演習テキスト 中 2 (受験研究社) 徹底演習テキスト 中 3 (受験研究社)		
学習のねらい		・生物の基本的なつくりを学び、単純から複雑への発生のしくみを学ぶ。 ・気象のしくみと天気の変化について理解し、日本の気象の特徴などを学ぶ。 ・天体の動きを理解し、宇宙のダイナミズムを知る。 ・電気についての性質、法則を理解する。 ・力と運動の関係を学び、力学の基礎知識を身につける。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	中 3 単元 1 生命の連続性 1 章 生物のふえ方と成長 1 生物のふえ方 2 細胞のふえ方 2 章 遺伝の規則性と遺伝子 1 親の特徴の伝わり方 2 遺伝のしくみ 3 遺伝子の本体	10 月	中 2 単元 4 電流とその利用 1 章 電流の性質 1 電流が流れる道すじ 2 回路に流れる電流 3 回路に加わる電圧 4 電圧と電流の関係 5 電流、電圧、電気抵抗の求め方 6 電流のはたらきを表す量
	5 月	3 章 生物の種類と多様性と進化 1 生物の共通性と多様性 2 進化の証拠 3 生物の移り変わり 中 3 単元 4 自然と人間 1 章 自然界のつながり 1 生物どうしのつながり 2 生態系における生物の数量的関係 3 生物の遺骸のゆくえ 4 生物の活動を通じた物質の循環 中 2 単元 2 地球の大気と天気の変化 1 章 地球をとり巻く大気の様子 1 大気の中ではたらく力 2 大気の様子を観測する	11 月	2 章 電流の正体 1 静電気 2 静電気と電流の関係 3 電流の正体 4 放射線の発見とその利用
	6 月	2 章 空気中の水の変化 1 霧のでき方 2 雲のでき方 3 空気中にふくまれる水蒸気の量 3 章 天気の変化と大気の動き 1 風がふくしくみ 2 大気の動きによる天気の変化 3 地球の規模での天気の変化	12 月	3 章 電流と磁界 1 磁界 2 モーターのしくみ 3 発電機のしくみ
	7 月	4 章 大気の動きと日本の四季 1 日本の季節による天気の特徴をもた らすもの 2 日本の四季の天気 3 天気の変化がもたらす恵みと災害	1 月	中 3 単元 4 運動とエネルギー 1 章 力の合成と分解 1 水中の物体にはたらく力 2 力の合成 3 力の分解 2 章 物体の運動 1 運動の表し方 2 水平面上での物体の運動 3 斜面上での物体の運動 4 物体間での力のおよぼし合い 3 章 仕事とエネルギー 1 仕事 2 エネルギー 3 位置エネルギーと運動エネルギー
	9 月	中 3 単元 2 宇宙を観る 1 章 宇宙の天体 1 太陽 2 太陽系 3 宇宙の広がり 2 章 太陽と恒星の動き 1 太陽の動き 2 星座の星の動き 3 章 月と金星の動きと見え方 1 月の動きと見え方 2 金星の動きと見え方	2 月	4 章 多様なエネルギーとその移り変わり 1 エネルギーの種類 2 エネルギーの変換と保存 5 章 エネルギー資源とその利用 1 生活を支えるエネルギー 2 エネルギー利用上の課題 3 エネルギーの有効利用 理科探究
学習の留意点・評価など		実験の結果を考察していく中で、知識を深め、新たな気づきや発見をさせる。実験の考察・小テスト・提出物・定期テスト等に基づき評価を行う。		
備 考		実験・観察等をし、理解を深める。		

教科名		理 科	科 目 名	理 科
対象学年		中学 3 年	コース・選択等	——
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)	未来へ広がるサイエンス 3 (啓林館) 化学基礎 (実教出版)
使用教材		理科便覧 (浜島書店) 徹底演習テキスト中 2・中 3 (受験研究社) セミナー化学基礎 + 化学 (第一学習社)		
学習のねらい		・身のまわりにある物質すべてが、小さな粒子 (原子) からできていて、原子の組み合わせによっていろいろな物質ができたり、化学変化が起きたりすることを理解する。 ・物質の基本的構成粒子を学び、その規則性を理解する。 化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解させるとともに、身の回りの事物・現象を 化学的に探究する方法を身につけさせる		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	中 2 の範囲 単元 1 化学変化と原子・分子 1 章 物質の成り立ち 3. 物質をつくっているもの 4. 化学反応式 2 章 いろいろな化学変化 1. 酸素と結びつく化学変化－酸化 2. 酸素を失う化学変化－還元 3. 硫黄と結びつく化学変化	10 月	理科探究 授業内で、探究を行う
			11 月	高校化学基礎 第 1 章 物質の構成 1 節 物質の探求 1. 物質の種類と性質 2. 物質と元素 3. 物質の三態と熱運動
	5 月	1 章 物質の成り立ち 1. 熱による分解 2. 電気による分解 3 章 化学変化と熱の出入り 1. 熱を発生する化学変化 2. 熱を吸収する化学変化 3 章 化学変化と物質の質量 1. 質量保存の法則 2. 反応する物質の質量の割合	12 月	2 節 物質の構成粒子 1. 原子の構造 2. イオンの生成 3. 周期表 第 2 章 物質と化学結合 1 節 イオン結合 1. イオン結合 2. イオン結晶 2 節 共有結合と分子間力 1. 共有結合と分子間力 2. 共有結合からなる物質
	6 月	中 3 の範囲 単元 4 化学変化とイオン 1 章 水溶液とイオン 1. 電流が流れる水溶液 2. 原子とイオン	1 月	第 3 章 物質の変化 第 1 節 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量と式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式
	7 月	2 章 化学変化と電池 1. 電池とイオン 2. いろいろな電池 3 章 酸・アルカリとイオン 1. 酸・アルカリ 2. 中和と塩	2 月	第 2 節 酸と塩基 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度と pH 3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定
	9 月	理科探究 授業内で、探究を行う		

教科名		理 科	科 目 名	化 学 基 礎
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	化学基礎academia（実教出版）
使用教材		セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）		
学習のねらい		化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解させるとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につけさせる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	第 3 章 物質の変化 第 1 節 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量と式量 2. 物質質量 3. 溶液の濃度	物質とは何かを学習する。 溶液の濃度の表し方には複数の種類があることを学習する。	中和滴定実験を実施する。
	5 月	4. 化学反応式と量的関係 5. 基本法則に関連した化学史	化学変化を起こす物質の量の間には、一定の量的関係があることを学習する。	
	6 月	第 2 節 酸と塩基 1. 酸性・塩基性 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応	化学反応には、酸と塩基の反応や酸化還元反応があることを扱い、化学反応に関する基本的事項の理解を深める。 身近な事例について観察や実験を行う。	
	7 月	4. 塩 5. 中和滴定と滴定曲線		
		第 3 節 酸化還元反応 1. 酸化と還元		
	9 月	2. 酸化剤・還元剤		
	10 月	3. 酸化還元反応の起こりやすさ	酸化還元反応の代表例である電池と電気分解について学ぶ。	

	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	11月	4. 身の回りの酸化還元反応	有機化合物の基礎を炭化水素を中心 に学ぶ。	酸化還元滴定実験を 実施する
	12月	有機化合物の特徴と分類 有機化合物の特徴と分類		
	1 月	飽和炭化水素 不飽和炭化水素		
	2 月	酸素を含む脂肪族化合物		アルデヒドの還元性 について実験を実施 する。
学習の 留意点・ 評価など	実験・映像などを利用して、学習内容についての興味や関心を引き起こさせながら行う。			
備 考	適宜、AL型授業を取り入れて、「協同的な深い学び」を実践していく。			

教科名		理 科	科 目 名	生 物 基 礎		
対象学年		高校1年	コース・選択等	必 修		
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	改訂生物基礎（東京書籍）		
使用教材		使用教材：改定 NEW GLOBAL 生物基礎（東京書籍）				
学習のねらい		学習のねらい：生物学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解させるとともに、身の回りの事物・現象特に生命に関わる事項について科学的に探究する方法を身につけさせる。				
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単元・学習内容	指導目標（学習のねらい）	配当時間	備 考 (実験や指導上の留意点)	
	1 学期 4 月	序章				
		生物基礎を学ぶにあたって探究活動の進め方	生物基礎で学習する内容の概要を把握させるとともに、探究活動とは何かについて理解させる。また、生物の学習において欠くことのできない顕微鏡の使い方をしっかり習得させる。	2		
		第1章 生物の特徴				
	5 月	1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性・共通性とその由来、生物に共通する細胞構造	生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解させる。生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	5		
		2. エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー、代謝と酵素		2		
	6 月	3. 光合成と呼吸 光合成、呼吸、光合成と呼吸によるエネルギーの流れ、ミトコンドリアや葉緑体の由来		4		
		第2章 遺伝子とのはたらき				
	7 月	1. 遺伝情報とDNA 遺伝情報を担う物質-DNA、DNAの構造	遺伝情報を担う物質であるDNAについて、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。次に転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。	3		
		2. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質、タンパク質の合成		4		
3. 遺伝情報の分配 細胞分裂と遺伝情報の分配、分化した細胞の遺伝情報、DNAの遺伝情報と遺伝子、ゲノム			5			

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単元・学習内容	指導目標（学習のねらい）	配当 時間	備 考 (実験や指導上の留意点)
	2 学期 9 月	第 3 章 生物の体内環境			
		1. 体内環境としての体液 体内環境と恒常性、体液と その循環、血液の凝固と線溶	動物の体内の細胞にとって、体 液は一種の環境（体内環境）で ある。この章では体内環境がい かにしてほぼ一定に保たれてい るのか、また体内ではどのよう なしくみがはたらき、どのよう に調節が行われているのか、循 環系、腎臓と肝臓、自律神経系 と内分泌系、免疫について学習 する。私たち自身のからだにか かわる内容についてできるだけ 身近な話題を取り上げながら理 解させる。	3	
	10 月	2. 腎臓と肝臓による調節 腎臓と肝臓の役割、腎臓の構 造とはたらき、肝臓の構造と はたらき		3	
		3. 神経とホルモンによる調節 自律神経系と内分泌系、神経 による調節-自律神経系、ホル モンによる調節-内分泌系、 自律神経系や内分泌系による 調節のしくみ		5	
	11 月	4. 免疫 からだを守るしくみ-免疫、 自然免疫①-物理的・化学的 防御、自然免疫②-食作用、 適応免疫、免疫と病気		6	
	3 学期 1 月	第 4 章 植生の多様性と分布			
		1. 植生とその成り立ち 植生、植生の構造	植生について、その構造や、遷 移とそのしくみについて学習す る。さらに、地球上にはさまざ まなバイオームが見られるこ と、どのようなバイオームが分 布するかは主に気温と降水量に よって決まることを、世界と日 本のバイオームを取り上げて学 習する。	3	
		2. 植生の遷移 植生の遷移、遷移の過程とそ のしくみ、遷移の進行と環境 の変化、二次的な遷移		3	
		3. 気候とバイオーム 気候とバイオーム、世界のバ イオームとその分布、日本の バイオームとその分布		3	
	2 月	第 5 章 生態系とその保全			
		1. 生態系とその成り立ち 生態系の成り立ち、生物どう しのつながり、さまざまな生 態系	生態系の成り立ち、生態系にお ける物質循環とエネルギーの流 れについて学習する。その上 で、生態系はそのバランスが保 たれていること、人類は生態系 のバランスに大きな影響を与え ていることなどを、身近な例か ら地球レベルの環境問題までを 取り上げながら学習し、自然環 境を保全することが大切である ことを理解させる。	2	
		2. 物質循環とエネルギーの流れ 炭素の循環とエネルギーの流れ、 窒素の循環		2	
		3. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス、人間活動 と生態系、生態系の保全		4	
学習の 留意点・ 評価など		実験・映像などを利用して、学習内容についての興味や関心を引き起こさせながら行う。			
備 考		適宜、AL型授業を取り入れて、「協同的な深い学び」を実践していく。			

教科名		理 科	科 目 名	地 学 基 礎	
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅡ（必修）	
単位数		2 単位	教 科 書 （出版社）	地学基礎（第一学習社）	
使用教材		地学図表（浜島書店） セミナー地学基礎（第一学習社）			
学習の ねらい		地学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解させるとともに、身の回りの事物・現象を探究する方法を身につけさせる。宇宙、気象、地震、火山、環境問題を扱っていく。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点	
	4 月	1 章 地球のすがた	1 節 地球の概観		
	5 月		2 節 プレーートの運動		
	6 月	2 章 地球の活動	1 節 地震		
	7 月		2 節 火山活動		
	9 月	3 章 大気と海洋	1 節 地球のエネルギー収支		
	10月		2 節 大気と海水の運動		
	11月	4 章 宇宙と太陽	1 節 宇宙と太陽の誕生		
	12月		2 節 太陽系と地球の誕生		
	1 月	5 章 生物の変遷と地球環境	1 節 地層と化石		
	2 月		2 節 地球と生物の変遷		
	3 月	6 章 地球の環境	1 節 地球環境の科学 2 節 日本の自然環境		
	学習の 留意点・ 評価など		大学入学共通テストに対応できるだけの必須となる知識の取得を目指している。 地学の事象に興味を持てるように、AL型授業にて「協同的な深い学び」を実践していく。		
備 考					

教科名		理 科	科 目 名	物 理 基 礎
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅢ（必修）
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	改訂版 物理基礎（数研出版）
使用教材		三訂版リードα物理基礎（数研出版）		
学習のねらい		・物理学の基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 ・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	第 1 編 運動とエネルギー 第 1 章 運動の表し方 1 速度 2 加速度	速さの概念を確認する。さらに、等速直線運動のグラフを理解する。 加速度の定義を理解し、等加速度運動における 3 つの式を理解する。	
	5 月	3 落体の運動 第 2 章 運動の法則 1 力とそのはたらき	自由落下、鉛直投射、水平投射、斜方投射を数式で理解する。	
	6 月 7 月	2 力のつりあい 3 運動の法則 4 摩擦を受ける運動 5 液体や気体から受ける力 第 3 章 仕事と力学的エネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	力がベクトル量であることを理解する。 接触力と非接触力を理解する。 ニュートンの運動の 3 法則を理解する。 仕事の定義を正確に把握する。 仕事とエネルギーの関係を理解する。 力学的エネルギー保存がどのような場合に成り立つかを理解し、保存力について理解する。	
	9 月	第 2 編 熱 第 1 章 熱とエネルギー 1 熱と熱量 2 熱と物質の状態 3 熱と仕事 4 不可逆変化と熱機関	ブラウン運動を通して熱運動を理解する。 熱と温度の違いを理解し、熱がエネルギーの一形態であることを学習する。 ボイル・シャルルの法則、熱力学の第一法則を学習する。	
	10 月	第 3 編 波 第 1 章 波の性質 1 波と媒質の運動 2 波の伝わり方	波動とは、媒質の変位の伝達であることを理解し、縦波と横波を学習する。 また、波動の一般的性質について学習する。（反射、屈折、回折、干渉）	ホイヘンスの原理を学習する。
	11 月 12 月	第 2 章 音 1 音の性質 2 発音体の振動と共振・共鳴	音波の一般的性質について学習する。 弦の振動、気柱の共鳴を通して定常波について理解する。 また、ドップラー効果について学習する。	可能であれば発展内容である波の式を学習する。

	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	1 月 2 月	第 4 編 電気 第 1 章 物質と電気抵抗 1 電気の性質 2 電流と電気抵抗 3 電気とエネルギー 第 2 章 交流と電磁波 1 交流 2 電磁波 発展 1 剛体にはたらく力のつりあい	帯電は、電子の過不足から生じることを学習する。 電圧、電流、抵抗の概念を復習し、オームの法則を通して電気回路を数学的に理解する。 なお、発展内容としてキルヒホッフの法則、電流計／電圧計のしくみ、非直線抵抗を学習する。 また、巻末の剛体力学も学習する。	交流、電磁波については概念的な理解に留める。
	3 月	第 5 編 物理学と社会 第 1 章 エネルギーとその利用 1 エネルギーの移り変わり 2 エネルギー資源と発電 第 2 章 物理学が拓く世界 1 摩擦をコントロールする 2 エネルギーを有効利用する 3 見えないものを見る		第 5 編は、図書館などを利用するなどして、自ら調べる過程を重視する。
学習の 留意点・ 評価など		受験を念頭に置くものの、暗記に頼らない学習を意識し、テクニックとしてではない本質的な理解力・思考力の育成を主眼とする。 従って、授業では公式の導出過程を考えることを重視する。 また、生徒同士の主体的な学び合い、教え合いを重視する。		
備 考		次年度の「物理」選択者の学習に備えて、発展内容を可能な限り学習する。		

教科名		理 科	科 目 名	化 学
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コースⅢ（必修）
単位数		4 単位	教科書 (出版社)	化学academia（実教出版）
使用教材		セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）		
学習の ねらい		1 年で学習した化学基礎の発展的内容を本校では扱う。 様々な化学現象をより多く学び、問題解決の方法としての化学的思考を実験・観察などを通して理解し、化学に対する興味・関心を高める。また、理系大学受験に必須な知識習得も目指す。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	4 章 有機化合物 3 節 酸素を含む有機化合物 4 節 芳香族化合物	脂肪族の復習 ベンゼン環を有する化合物の性質や 製法	化学基礎の復習も交 え進めていく
	5 月	1 章 物質の状態と平衡 1 節 状態変化 2 節 固体の構造	各種結合、結晶構造	結晶構造の模型を使 い理解を深める
	6 月	3 節 気体の性質 4 節 溶液	ボイル・シャルルの法則 気体の状態方程式 ドルトンの分圧、凝固点降下 浸透圧、コロイド、	コロイドの性質を確 かめる実験
	7 月	2 章 物質の変化と平衡 1 節 化学反応と熱・光エネルギー	ヘスの法則 結合エネルギー	
	9 月	2 節 化学反応と電気エネルギー 3 節 化学反応の速さとしくみ	電池各種、電気分解、ファラデーの 法則反応速度の表し方、反応速度へ の影響触媒と活性化エネルギー	
	10月	4 節 化学平衡	ル・シャトリエの原理 塩の加水分解、緩衝液、溶解度積	
	11月	3 章 無機物質 1 節 元素と周期表 2 節 非金属元素	周期表の性質 非金属元素の性質・反応	映像などを見せて色、 反応を確認
	12月	3 節 典型金属元素	典型元素の性質・反応	映像などを見せて色、 反応を確認
	1 月	4 節 遷移元素 5 章 高分子化合物 1 節 高分子化合物	遷移元素の性質・反応 高分子化合物（導入） 天然高分子化合物 （糖、アミノ酸、タンパク質、核酸）	日常生活といかに密 接に関わりがあるか を説明
	2 月	2 節 天然高分子化合物 3 節 合成高分子化合物	合成高分子化合物 （合成繊維、プラスチック樹脂、ゴム） 食品、医薬品、染料、洗剤	グラフの理解を深め る。

学習の 留意点・ 評価など	理系大学、薬学部進学などで必須となる知識の取得を目指している。 また、AL型授業にて「協同的な深い学び」を実践していく。
備 考	

教科名		理 科	科 目 名	生 物
対象学年		高校2年生	コース・選択等	コースⅠ（必須）
単位数		3単位	教科書 (出版社)	生物（東京書籍）
使用教材		・スクエア 最新図説生物neo（第一学習社） ・NEW GLOBAL 生物（東京書籍）		
学習のねらい		生物や生命現象に対する探求心を高め、実験・観察を通して興味と理解を深める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	2 編第1章 細胞と物質		
		1 節 細胞を構成する成分 2 節 生体膜のはたらき 3 節 細胞の構造	細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。	日常における情報伝達の例として、さまざまな薬剤や栄養素がリガンドの役割を果たすことを理解する。
	5 月	4 節 タンパク質の構造 5 節 酵素としてはたらくタンパク質 6 節 生命現象とタンパク質	タンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。	
	6 月	2 編第2章 代謝とエネルギー		
		1 節 代謝とエネルギー 2 節 呼吸 3 節 発酵	生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATPが合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATPが合成されることを理解する。	

学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	7 月	4 編第 1 章 動物の刺激の受容と反応		
		1 節 刺激の受容から反応への流れ 2 節 ニューロンの興奮 3 節 興奮の伝導 4 節 興奮の伝達	ニューロンの興奮は細胞膜で生じる電気的な変化であり、イオンチャネルやポンプのはたらきで生じることを理解する。ニューロンに生じた興奮が軸索を伝わり、シナプスを介して次のニューロンへと伝えられることを理解する。	
	9 月	5 節 刺激の受容と応答 6 節 中枢神経系での情報処理 7 節 効果器	視覚は、眼の網膜で受容された光刺激の情報が、神経によって脳に伝えられて生じることを理解する。受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ヒトの神経系が、末しょう神経系と中枢神経系から構成されていることを理解する。ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 効果器である筋肉の構造を理解する。筋肉が、神経系から伝達されてきた刺激を受け取って収縮するしくみを理解する。	
	10 月	4 編 2 章 動物の行動		
		1 節 動物の行動とは 2 節 刺激の受容と行動 3 節 学習のしくみ	動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。	
	11 月	3 編 1 章 遺伝情報とその発現		
		1 節 DNAの構造 2 節 DNAの複製 3 節 遺伝情報の流れ 4 節 RNAと転写 5 節 翻訳のしくみ 6 節 遺伝情報の変化	DNAについて、2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNAが正確に複製される詳しいしくみを理解する。 DNAの遺伝情報を写し取って、RNAが合成されるしくみを理解する。転写されたRNAから、タンパク質が合成されるしくみを理解する。	
	12 月	3 編 2 章 発生と遺伝子発現		
		1 節 原核生物の遺伝子発現の調節 2 節 真核生物の遺伝子発現の調節 3 節 選択的遺伝子発現と細胞分化	遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する。	
	1 月	3 編第 3 章 遺伝子を扱う技術		
		1 節 遺伝子を増幅する技術 2 節 塩基配列を解読する技術 3 節 遺伝子組換え技術の利用 4 節 遺伝子や細胞を扱う技術の課題	遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。	
	2 月	1 節 遺伝的変異 メンデルの遺伝の法則	遺伝子変異によっておこる影響を理解する。メンデルの遺伝の法則を通じて、形質の多様性が生まれる仕組みを理解する。	

学習の
留意点・
評価など

- ・ 週3コマの減単授業のため、管理栄養士や看護師を目指す生徒も多いことを考慮し、動物範囲に限定して学習する。
- ・ 学習内容と日常生活との関わりを意識づける。
- ・ 観察－仮説－実験－考察という研究のプロセスを意識させ、科学的思考力や表現力を養う。

教科名		理 科	科 目 名	物 理
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅢ（理科教科内選択）
単位数		4 単位	教 科 書 (出版社)	物理（数研出版）
使用教材		物理（数研出版） 改訂版 リードα 物理（数研出版） 進研【共通テスト】直前演習 物理（ランズ）		
学習のねらい		物理基礎でつちかった基礎知識、論理的思考力、数式作成力を生かして、物理の発展的内容を学習する。国公立二次試験、私大試験を念頭におき、一つひとつの事柄をじっくり考え、自ら論理を構築していく過程を身につける。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	第 1 編 力と運動 第 3 章 運動量の保存 1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数 第 4 章 円運動と万有引力 2 慣性力	物理基礎の内容を確認する。 運動方程式の別解釈が運動量と力積の関係／ 運動量保存則であることを学ぶ。	第一編 第 1 章、第 2 章は 物理基礎で学習済
	5 月	1 等速円運動 3 単振動 4 万有引力 第 3 編 波 第 1 章 波の伝わり方 1 正弦波 2 波の伝わり方 第 2 章 音の伝わりかた 1 音の伝わり方 2 音のドップラー効果 第 3 章 光 1 光の性質 2 レンズ 3 光の干渉と回折	等速円運動に先立って慣性力を理解しておく。 その後、円運動の基本概念である周期・角速度、さらにその正射影である単振動を学ぶ。 また万有引力を通して円運動が宇宙を貫く基本的な運動形態の一つであることを学ぶ。 波の基本的な理解から考えを進めることによってドップラー効果の公式を導く。	
	6 月	第 2 編 熱と気体 第 1 章 気体のエネルギーと状態変化 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	レンズの集光作用を正しく理解する。 干渉・回折という現象を理解し、公式を導く。	
	7 月	第 4 編 電気と磁気 第 1 章 電場 1 静電気力 2 電場 3 電位 4 物質と電場 5 コンデンサー	物理基礎の内容を確認しながら静電気力・電場・電位についての理解を深める。 コンデンサーの振る舞いについて理解する。	

	学期・月等	単元	ね ら い	留 意 点			
学 習 内 容 と 流 れ	9 月	第 2 章 電流と磁場 1 オームの法則 2 電流のつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	電位の概念をもとに、キルヒホッフの法則・直流回路の振る舞いを理解する。 物理基礎で紹介した諸現象を、ローレンツ力や誘導電場の概念をもとに、より定量的に理解する。 トムソンの実験、ミリカンの実験を通して電子についての理解を深める。 波動の粒子性、粒子の波動性を理解し、量子力学の基本原則であるハイゼンベルグの不確定性原理について触れる。 古典的な原子モデルの難点を解決したボーアの理論について学ぶ。 放射線とその性質、現象について理解し、その利用の有用性ないし危険性について述べる。	全範囲が終了次第、共通テスト二次試験対策を行う。			
	10月	第 3 章 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 交流の発生 3 自己誘導と相互誘導 4 交流回路 5 電磁波					
	11月	第 5 編 原子 第 1 章 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性					
		第 2 章 原子と原子核 1 原子の構造とエネルギー準位 2 原子核 3 放射線とその性質 4 核反応と核エネルギー 5 素粒子					
	学習の留意点・評価など	物理基礎と同様、受験を念頭に置くものの、本質的な理解力・思考力の育成を主眼とする。					
	備 考						

教科名		理 科	科 目 名	生 物
対象学年		高校3年生	コース・選択等	コースⅢ 教科内選択
単位数		4単位	教科書 (出版社)	生物（東京書籍）
使用教材		・スクエア 最新図説生物neo（第一学習社） ・NEW GLOBAL 生物（東京書籍）		
学習のねらい		生物や生命現象に対する探求心を高め、実験・観察を通して興味と理解を深める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	第2章 細胞と分子 1. タンパク質の構造と性質 ①細胞の生命活動の担い手ータンパク質 ②タンパク質の構造 ③タンパク質の立体構造と機能 2. 酵素のはたらき ①酵素の基本的なはたらき ②酵素の性質 ③酵素とともにはたらく分子 ④酵素反応の調節 3. 細胞の活動とタンパク質 ①生体膜 ②生体膜と物質の出入り ③細胞間結合 ④細胞骨格とそのはたらき ⑤免疫とタンパク質	・生体内で様々な機能・働きを持つタンパク質について理解する。 ・既習した酵素の内容をさらに深める。 ・細胞膜を物質の分子の大きさと透過性との関係を理解する。 ・受動輸送と能動輸送の違いを理解する。	原形質分離の観察
	5 月	第3章 代謝 1. 代謝とエネルギー代謝 ①代謝とATP ②生物とエネルギー 2. 呼吸と発酵 ①呼吸 ②呼吸のしくみ ③発酵 ④脂肪とタンパク質の分解 3. 光合成 ①光合成 ②光合成と葉緑体 ③光合成のしくみ ④細菌の炭酸同化 4. 窒素同化 ①植物の窒素同化 ②動物の窒素同化	・代謝とエネルギーの出入りについて理解する。 ・呼吸のそれぞれの反応過程におけるATP生産量について考察する。 ・発酵の種類やそれらの共通点・相違点について理解する。 ・光合成色素と吸収する光の関係を理解する。 ・光合成における反応を理解し、光合成の研究史や乾燥や高温に適応した植物の光合成について言及する。 ・細菌の炭酸同化について理解を深める。 ・生態系における窒素固定や窒素同化と脱窒の役割を理解する。	光合成色素の抽出光合成の研究史についても扱う。 C ₄ 、CAM植物についても扱う。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	6 月	第4章 遺伝情報の発現と発生 1. DNAの構造と複製 ①DNAの構造 ②DNAの複製 2. 遺伝情報の発現 ①遺伝情報とその発現 ②転写とスプライシング ③翻訳 ④原核細胞のタンパク質合成 ⑤遺伝情報の変化と形質への影響 3. 遺伝子の発現調節 ①遺伝子の発現と調節 ②原核生物の転写調節 ③真核生物の転写調節		
	7 月	4. バイオテクノロジー ①遺伝子組換え技術 ②生物への遺伝子導入 ③DNAの増幅と塩基配列の決定 ④遺伝子発現の解析 ⑤バイオテクノロジーと人間生活 5. 生殖と発生 ①染色体の構造 ②染色体と遺伝子 ③遺伝情報の分配 ④減数分裂の過程 ⑤減数分裂による遺伝子の組み合わせ ⑥受精による遺伝子の組み合わせ		
	9 月	6. 動物の配偶子形成と受精 ①動物の配偶子形成 ②受精 7. 初期発生の過程 ①カエルの発生 ②胚葉の分化 8. 細胞の分化と形態形成 ①誘導と形成体のはたらき ②誘導のしくみと細胞の分化 ③形態形成を調節する遺伝子 第5章 動物の反応と行動 1. ニューロンとその興奮 ①刺激の受容から行動まで ②ニューロンの構造 ③ニューロンの興奮 ④興奮の伝導 ⑤興奮の伝達	・器官形成における遺伝子の関与について理解する。 ・ニューロンの構造、性質、働きを理解する。	

	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ		3. 異種個体群間の関係 ①生物の異種個体群間における競争 ②被食者－捕食者相互関係 ③共生と寄生 4. 生物群集 ①生物群集 ②生態的地位と共存 5. 生態系における物質生産 ①生態系の成り立ち ②生態系における物質生産 ③さまざまな生態系における物質生産 ④生態系におけるエネルギーの利用 6. 生態系と生物多様性 ①生物多様性 ②生物多様性に影響を与える要因 ③個体群の絶滅を加速する要因 ④生物多様性の保全 第1章 生命の起源と進化 1. 生命の起源 ①有機物の生成と蓄積 ②有機物から生物へ ③生物の出現とその発展 ④細胞の発達-真核生物の出現 ⑤人類の出現と進化 3. 進化のしくみ ①突然変異 ②自然選択 ③遺伝的浮動 ④隔離と種分化 ⑤分子進化と中立説 4. 生物の分類と系統 ①生物の分類 ②系統と分類 ③系統分類の方法 ④生物の分類系統	・個体群の内部構造や個体群間の関係について理解を深める。 ・生態系における物質生産の関係を理解する。 ・生態系におけるエネルギー効率を理解する。 ・生物多様性の3つのとらえ方を理解する。 ・攪乱が生態系に与える影響を理解する。 ・生物多様性保全の意義や重要性を理解する。 ・突然変異など、様々な要因が進化に関係することを理解する。 ・生命の誕生や生物界の変遷について理解を深める。 ・二名法による種の表し方を理解する。 ・生物は、その共通性からいくつかの界やドメインに分けられることを理解する。	
	12月	演習		
学習の 留意点・ 評価など			・実験や映像などを利用して、学習内容についての興味や関心を引き起こさせながら実施する。 ・学習内容と日常生活との関わりを意識づける。 ・観察－仮説－実験－考察という研究のプロセスを意識させ、科学的思考力や表現力を養う。	
備 考				

教科名		理 科	科 目 名	A 4 化 学
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コース I （選択）
単位数		2 単位	教 科 書 （出版社）	化学（実教出版）
使用教材		セミナー化学+化学基礎（第一学習社）		
学習の ねらい		1 年で学習した化学基礎の内容を確認しながら、有機化合物・天然高分子・水溶液の分野を中心に学ぶ。将来管理栄養士の資格を取ることを前提とし、食品や医薬品など身近なものを取り上げ、化学に対する興味・関心を高める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	第 5 編 有機化合物 2 章 炭化水素 3 章 酸素を含む有機化合物	カルボン酸とエステルの違いについて 理解する	糖類の特性・タンパク質に関する実験を行う
	5 月	4 章 芳香族化合物 ①芳香族炭化水素 ②酸素を含む芳香族化合物	芳香族化合物の構造と反応について理解する	
	6 月	③窒素を含む芳香族化合物 有機化合物の分離 第 6 編 高分子化合物 ①高分子化合物の分類と特徴	高分子化合物の特徴について理解する 糖類の構造と特徴を理解する	
	7 月	②糖類 ③多糖類 ④アミノ酸 ⑤タンパク質 ⑥核酸	糖類の構造と特徴について理解する アミノ酸とタンパク質の特徴について理解する	
	9 月			
	10月	第 1 編 物質の状態と平衡 1 章 物質の状態と変化 ①状態変化	物質の状態変化について理解する	コロイドに関する実験を行う
	11月	3 章溶液の性質 ①溶解平衡	凝固点降下・沸点上昇について理解する	
	12月 1 月	②希薄溶液の性質 ③コロイド	コロイドの性質について理解する	
	学習の 留意点・ 評価など		同志社女子大学生活科学部食物栄養科学科に進学するためには必履修科目であるため（金城学院大学生活環境学部食環境栄養学科の場合は履修推奨）、管理栄養士の国家試験を受けることを視野に入れ、将来必要となる基礎的な知識を身につける。	
備 考				

教科名		理 科	科 目 名	B1 理科基礎演習
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅡ（選択）
単位数		2単位	教科書 (出版社)	
使用教材		セミナー生物基礎（第一学習社） セミナー化学＋化学基礎（第一学習社） 共通テスト実力完成直前演習生物基礎（Learn-S） 共通テスト実力完成直前演習化学基礎（Learn-S）		
学習の ねらい		主に共通テスト生物基礎および化学基礎に対応した演習を扱う。 様々な科学現象をより多く学び、問題解決の方法としての科学的思考を習得し、興味・関心を高める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4月	(生物基礎) 生物の特徴 (化学基礎) 化学と人間生活 物質の構成	セミナーおよび 入試問題を解くことで 大学入試への実力を養う	
	5月	(生物基礎) 遺伝子とそのはたらき (化学基礎) 物質と化学反応式		
	6月 7月	(生物基礎) 生物の体内環境 (化学基礎) 酸塩基の反応 酸化還元反応		
	9月	共通テスト演習	Learn-Sを用いて 実戦に近いレベルの問題に取り組む 共通テスト演習	
	10月	共通テスト演習		
	11月	共通テスト演習		
	12月	共通テスト演習		
学習の 留意点・ 評価など		国公立文系受験および看護大学等受験の為に生物基礎および化学基礎、特に共通テストの知識の取得を目指している。		
備 考		個人学習とグループ学習を組み合わせ知識の定着をはかる。 重要かつ頻出の問題を解き、生物基礎および化学基礎のより深い学びへとつなげる。		

教科名		理 科	科 目 名	生 物 演 習	
対象学年		高校 3 年生	コース・選択等	コースⅢ（C1）	
単位数		2 単位（前期 1、後期 1）	教 科 書 （出版社）	高等学校 生物（東京書籍）	
使用教材		・ 生物 単元別問題集（駿台文庫）大学入学 共通テスト ・ スクエア最新図説生物neo（第一学習社） ・ 大森徹の生物 実験・考察問題の解法（旺文社） ・ 生物・生物基礎のグラフデータの読み方が 1 冊でしっかりわかる本（かんき出版）			
学習の ねらい		1 年で学習した生物基礎と 3 年で学習する生物の内容に沿って問題演習を行い、大学入試に対応できる学力を身に付けさせる。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	大学入学共通テスト対策 及び 2 次試験対策		留 意 点	
	1 学期 4 月	教科書 第 2 章 代謝 P 74 ～ P 92 1 代謝とエネルギー代謝			
	5 月	2 同化 3 窒素同化			
	6 月	問題集 第 1 問 ～ 第 8 問 教科書 第 6 章 植物の発生 P 222 ～ P 245			
	7 月	問題集 第 9 問 ～ 第 15 問			
	2 学期 9 月	問題集 第 16 問 ～ 第 21 問			
	10 月	問題集 第 22 問 ～ 第 37 問			
	11 月	問題集 第 38 問 ～ 第 43 問			
	12 月	共通テスト過去問			
	学習の 留意点・ 評価など		実験・映像などを利用して、学習内容についての興味や関心を引き起こさせながら実施する。		
備 考					

教科名		理 科	科 目 名	物 理 演 習
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅢ（C1）
単位数		2単位（前期1、後期1）	教科書 （出版社）	物理（数研出版）
使用教材		短期攻略 大学入学共通テスト 物理（駿台文庫） 全国の大学入試問題（公開分）より抜粋		
学習の ねらい		力学・波動・電磁気・熱力学・原子の各分野の演習問題を定期的に解くことで、物理的思考力を確立し、大学入試にも十分対応できる学力をつける。 毎回のマーク模試対策も行う。		
学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月		「物理」の進行に合わせて適宜演習問題を解いていく。物理基礎範囲の演習も行う。 個々の受験形態にとらわれず様々な演習問題にあたっていくことで、どのような試験にも対応できる総合的な学力の育成をはかる。	毎回宿題を出し、その内容をグループで共有するなど、生徒同士の教え合いを重視する。
	11月		大学入学共通テスト対策を行う。	
学習の 留意点・ 評価など		反転授業の形式を主体としながら、教員からの解説も行うが、生徒同士の主体的な教え合い、学び合いを最重視し、集団全体としての学力向上・モチベーション維持をはかる。		
備 考				

教科名		理 科	科 目 名	化 学 演 習
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅢ
単位数		2単位	教科書 (出版社)	
使用教材		セミナー化学＋化学基礎（第一学習社） 化学頻出 スタンダード問題230選（駿台文庫） 共通テスト対策問題集マーク式実践問編 化学（駿台）		
学習の ねらい		主に化学基礎と化学の演習を行う。 様々な化学現象をより多く学び、問題解決の方法としての化学的思考を習得し、化学に対する興味・関心を高める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4月	物質の構成・酸塩基・酸化還元	化学基礎の復習	
	5月	粒子の結合・結晶 気体	入試問題を解くことで 大学入試への実力を養う	
	6月 7月	溶液・熱化学		
	9月	電池・電気分解 反応速度 有機（脂肪族）		
	10月	有機（芳香族） 平衡論・糖類・アミノ酸・ タンパク質・合成高分子		
	11月	共通テスト演習		
	12月	共通テスト演習		
学習の 留意点・ 評価など		理系大学、薬学部進学ぶなどで必須となる知識の取得を目指している。		
備 考		ジグソー法を用いて、自立した学習者の育成を実践していく。 重要かつ頻出の問題を解いていき、類題にも触れる。 グループで学び、自ら発言することで、協働的な深い学びへとつなげる。		

教科名		理 科	科 目 名	地 学 基 礎
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コース I （必修）
単位数		2 単位	教 科 書 （出版社）	地学基礎（第一学習社）
使用教材		地学図表（浜島書店） セミナー地学基礎（第一学習社）		
学習の ねらい		地学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解させるとともに、身の回りの事物・現象を探究する方法を身につけさせる。宇宙、気象、地震、火山、環境問題を扱っていく。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	1 章 地球のすがた	1 節 地球の概観	
	5 月		2 節 プレートの運動	
	6 月	2 章 地球の活動	1 節 地震	
	7 月		2 節 火山活動	
	9 月	3 章 大気と海洋	1 節 地球のエネルギー収支	
	10月		2 節 大気と海水の運動	
	11月	4 章 宇宙と太陽	1 節 宇宙と太陽の誕生	
			2 節 太陽系と地球の誕生	
	12月	5 章 生物の変遷と地球環境	1 節 地層と化石	
	2 節 地球と生物の変遷			
1 月	6 章 地球の環境	1 節 地球環境の科学		
		2 節 日本の自然環境		
学習の 留意点・ 評価など		大学入学共通テストに対応できるだけの必須となる知識の取得を目指している。 地学の事象に興味を持てるように、AI型授業にて「協同的な深い学び」を実践していく。		
備 考				

教科名		保健体育科	科 目 名	体 育
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	——
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい		(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。 (4) 生涯スポーツの志向に通じる指導をする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	体力テスト 集団行動 A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動	集団行動の主な行動様式を身に付けさせる。 (A) 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができるようにする。 (ア) 自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動	どの部位の体操であるか理解させる。 集団行動の約束やきまりを守って行動させる。
	1 学期	B 球技 ア バレーボール	(B) チームの課題や自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。(1) チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。 基本技術の習得と運動の構成要素を考えさせる。
	7 月	C 水泳(理論) E 武道 ア 空手	水難事故に遭遇した場合、「自らの生命を守る」泳ぎ方や対処法を学び理解できるようにする。 (E) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や型ができるようにする。 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や型ができるようにする。	危険を予測しながら、回避行動や方法を考えさせる。 自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方や型の仕方を工夫することができるようにする。
	9 月	体育祭準備 (マスゲーム)		金城学院体操(自校体操)の正しい習得。

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	2 学期	D 器械運動 ア マット運動	(D) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるようにする。 (ア) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。	基本技術の習得と運動の構成要素を考えさせる。
	3 学期 1 月	F 球技 ア ソフトボール	(F) チームの課題や自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	自己の能力に適した課題を持たせ、その解決に取り組ませる。
		縄跳び		グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方仕方を工夫することができるようになる。
学習の 留意点・ 評価など	実技授業実施上のきまり；担当クラスの実技実施会場は、1 年間で体育館第 1 競技場・第 2 競技場・運動場の 3 会場を順次使用する事。			
備 考				

教科名		保健体育科	科目名	体 育
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		3 単位	教科書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい		(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。 (4) 生涯スポーツの志向に通じる指導をする。		
学習内容 と流れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	体 操 集団行動 A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動	集団行動の主な行動様式を身に付けさせる。 (A) 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができるようにする。 (ア) 自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動	どの部位の体操であるか理解させる。 集団行動の約束やきまりを守って行動させる。
	5 月 1 学期	B 器械運動 ア 平均台運動	(B) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるようにする。 (ア) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。	互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。
	7 月	C 水泳（理論） E 武道（剣道）	水難事故に遭遇した場合、「自らの生命を守る」泳ぎ方や対処法を学び理解できるようにする。 (E) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。 伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、禁じ技を用いないなど安全に留意して練習や試合ができるようにする。	危険を予測しながら、回避行動や方法を考えさせる。 自己の能力に適した技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫することができるようにする。
	9 月	体育祭準備 (マスゲーム) D ダンス ア こまの動き		動きを習得し自己の能力に適した課題を目指して練習し、工夫し発表できるようにする。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	2 学期	F 球技 ア サッカー	(F) チームの課題や自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	基本技術の習得と運動の構成要素を考えさせる。
	3 学期 1 月	G 球技 ア バレーボール	(G) チームの課題や自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	基本技術の習得と運動の構成要素を考えさせる。
		縄跳び		
学習の 留意点・ 評価など		実技授業実施上のきまり；担当クラスの実技実施会場は、1 年間で体育館第 1 競技場・第 2 競技場・運動場の 3 会場を順次使用する事。		
備 考				

教科名	保健体育科		科目名	体 育
対象学年	中学 3 年		コース・選択等	——
単位数	3 単位		教科書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい	(1) 各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに運動技能を高めることができるようにし、生活を明るく健全にする態度を育てる。 (2) 各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気付き体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を育てる。 (3) 運動における競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。また、健康・安全に留意して運動をすることができる態度を育てる。 (4) 生涯スポーツの志向に通じる指導をする。			
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	体 操 集団行動 A 体づくり運動 ア 体ほぐしの運動	集団行動の主な行動様式を身に付けさせる。 (A) 自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができるようにする。 (ア) 自己の体に気付き、体の調子を整えたり、仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動	どの部位の体操であるか理解させる。 集団行動の約束やきまりを守って行動させる。
	5 月	B 球技 ア バスケットボール	(B) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を高め、技がよりよくできるようにする。 (ア) 互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。	互いに協力して練習ができるようにするとともに、器械・器具を点検し安全に留意して練習ができるようにする。
	7 月 ～ 9 月	体育祭準備 (マスゲーム) C ダンス ア 創作ダンス	(C) 互いのよさを認め合い、協力して練習したり発表したりすることができるようにする。 (ア) グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。	グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
学 習 内 容 と 流 れ	2 学期 10 月	D 球技 ア 卓球	(D) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	チームの課題や自己の能力に適した課題を持たせ、協働によって、その解決に取り組ませる。
		D 球技 ア テニス	(D) 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようにする。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようにする。	チームの課題や自己の能力に適した課題を持たせ、協働によって、その解決に取り組ませる。
		縄跳び		
学習の 留意点・ 評価など	実技授業実施上のきまり；担当クラスの実技実施会場は、1 年間で体育館第 1 競技場・第 2 競技場・運動場の 3 会場を順次使用する事。			
備 考				

教科名		保健体育科	科目名	保 健
対象学年		中学1年	コース・選択等	——
単位数			教科書 (出版社)	大 修 館
単元の 目 標		健康の成り立ちと病気の発生要因，生活習慣と健康について，課題を発見し，課題の解決に向けて学習に自主的に取り組み，理解できるようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	時限	単 元	ね ら い	
	1	①健康の成り立ち	●健康は，主体と環境を良好な状態に保つことにより成り立っていることを理解する。 ●病気は健康が阻害された状態の1つであり，主体と環境の要因が関わり合って発生することを理解する。 ●健康に関わる，主体と環境の諸要因について理解する。	
	1	②運動と健康	●運動には，身体の各器官の機能を刺激し，その発達を促すとともに，気分転換が図られるなど，精神的にもよい効果があることを理解する。 ●健康を保持増進するためには，年齢や生活環境等に応じて運動を続けることが必要であることを理解する。	
	1～2	③食事と健康	●食事には，健康な身体をつくるとともに，運動などによって消費されたエネルギーを補給する役割があることを理解する。 ●健康を保持増進するためには，毎日適切な時間に食事をする，年齢や運動量等に応じて栄養素のバランスや食事の量などに配慮することが必要であることを理解する。	
	1	④休養・睡眠と健康	●休養および睡眠は，心身の疲労を回復するために必要であること，健康を保持増進するためには，年齢や生活環境等に応じて休養および睡眠をとる必要があることを理解する。	

単元の目標		心身の発達と心の健康について、課題を発見し、課題の解決に向けて学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。		
学習内容と流れ	時限	単元	ねらい	
	1	①体の発育・発達	●身体発育・発達には、骨や筋肉、肺や心臓などの器官が急速に発育し、様々な機能が発達する時期があることを理解する。 ●身体発育・発達の時期やその程度には、人によって違いがあることを理解できるようにする。	
	1	②呼吸器・循環器の発育・発達	●呼吸器官・循環器官の発育・発達について理解する。 ●中学生の時期は適度な運動を行うことによって呼吸器官・循環器官がよりよく発達することを理解する。	
	1	③生殖機能の成熟（１）	●思春期には、下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器官の発育とともに生殖機能が発達することを理解する。	
	1	④生殖機能の成熟（２）	●思春期になると、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。 ●思春期は、生命を生み出すことのできる体へと成熟する時期であることを理解する。	
	1	⑤性への関心と性情報への対処	●身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択が必要となることを理解する。	
	1	⑥知的機能、情意機能の発達	●心は、知的機能、情意機能、社会性等の精神機能の総体として捉えられ、それらは生活経験や学習などの影響を受けながら、脳の発達とともに発達することを理解する。 ●知的機能については認知、記憶、言語、判断など、情意機能については感情や意思などがあり、それらは人や社会との様々な関わりなどの生活経験や学習などにより発達することを理解する。	
	1	⑦社会性の発達と自立	●社会性について、家族関係や友人関係などを取り上げ、それらへの依存の状態は、生活経験や学習などの影響を受けながら変化し、自立しようとする傾向が強くなることを理解する。 ●思春期になると、自己を客観的に見つめたり、他人の立場や考え方を理解できるようになったりすることを理解する。 ●物の考え方や興味・関心を広げ、次第に自己を認識し自分なりの価値観をもてるようになるなど自己の形成がなされることを理解する。	
	1	⑧自己形成	●思春期には自己認識が深まり、迷いながら自己形成していくことを理解する。 ●社会性と同様に自己形成は多様な経験に促されることに気づく。	

学習内容 と流れ	時限	単元	ねらい
	1	⑨欲求とその充足	●心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求に適切に対処することが必要であることを理解する。 ●欲求には、生理的な欲求と心理的、社会的な欲求があることを理解する。 ●精神的な安定を図るには、日常生活に充実感をもてたり、欲求の実現に向けて取り組んだり、欲求が満たされないときに自分や周囲の状況からよりよい方法を見付けたりすることなどがあることを理解する。
	1	⑩ストレスへの対処のしかた	●心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、ストレスに適切に対処することが必要であることを理解する。 ●ストレスとは、外界からの様々な刺激により心身に負担がかかった状態であることを意味し、ストレスの影響は原因そのものの大きさとそれを受け止める人の心や身体の状態によって異なること、個人にとって適度なストレスは、精神発達上必要なものであることを理解する。 ●ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、ストレスの原因についての受け止め方を見直すこと、友達や家族、教員、医師などの専門家などに話を聞いてもらったり、相談したりすること、コミュニケーションの方法を身に付けること、規則正しい生活することなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることを理解する。 ●リラクセーションの方法等を身に付けるなど、ストレスによる心身の負担を軽くするような対処の方法ができるようにする。
	1	⑪心と体の関わり	●精神と身体には、密接な関係があり、互いに様々な影響を与え合っていることを理解する。 ●心の状態が体にあらわれたり、体の状態が心にあらわれたりするのは、神経などのはたらきによることを理解する。
	1	⑫リラクセーションの方法	●体験しながらリラクセーションの方法を身につける。
学習の 留意点・ 評価など	配点は30点とする。		
備 考	保健の授業は、年間通して行うが、特に10月ごろから週1時間実施し、学年末試験を保健分野の内容の試験として実施。		

教科名		保健体育科	科目名	保 健
対象学年		中学2年	コース・選択等	——
単位数			教科書 (出版社)	大 修 館
単元の 目 標		生活習慣病などの予防、喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題を発見し、課題の解決に向けて学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	時限	単 元	ね ら い	
	1	①生活習慣病	●生活習慣病は日常の生活習慣が要因となって起こる病気であり、適切な対策を講ずることにより予防できることを理解する。 ●不適切な生活行動を若い年代から続けることによって、やせや肥満などを引き起こしたり、また、心臓や脳などの血管で動脈硬化が引き起こされたりすることや、歯肉に炎症等が起きたり歯を支える組織が損傷したりすることなど、様々な生活習慣病のリスクが高まることを理解する。	
	1	②生活習慣病の予防	●生活習慣病を予防するには、適度な運動を定期的に行うこと、毎日の食事における量や頻度、栄養素のバランスを整えること、喫煙や過度の飲酒をしないこと、口腔の衛生を保つことなどの生活習慣を身に付けることが有効であることを理解する。	
	1	③がんとその予防	●がんは、異常な細胞であるがん細胞が増殖する病気であり、その要因には不適切な生活習慣をはじめ様々なものがあることを理解する。 ●がんの予防には、生活習慣病の予防と同様に、適切な生活習慣を身に付けることなどが有効であることを理解する。	
	1	④生活習慣病・がんの早期発見とその回復	●生活習慣病やがんを早期発見するための方法を理解する。 ●生活習慣病やがんの治療法を理解する。	
	1	⑤喫煙と健康	●たばこの煙の中にはニコチン、タールおよび一酸化炭素などの有害物質が含まれていることを理解する。 ●喫煙により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなることを理解する。 ●未成年者の喫煙については、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいことを理解する。	
	1	⑥飲酒と健康	●酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経のはたらきを低下させ、思考力、自制力、運動機能を低下させたり、事故などを起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることを理解する。 ●常習的な飲酒により、肝臓病や脳の病気など様々な病気を起こしやすくなることを理解する。 ●未成年者の飲酒については、身体に大きな影響を及ぼし、エチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいことを理解する。	

	時限	単元	ねらい
	1	⑦薬物乱用と健康	●覚醒剤や大麻を取り上げ、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることを理解する。 ●薬物乱用は、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすことを理解する。
	1	⑧喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけと対処	●喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手し易さなどの社会環境によって助長されること、それらに適切に対処する必要があることを理解する。
単元の目標 傷害の防止について、課題を発見し、課題の解決に向けて学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。			
学習内容と流れ	時限	単元	ねらい
	1	①けがの原因と防止	●交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因、環境要因およびそれらの相互の関わりによって発生することを理解する。 ●人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解する。
	1	②交通事故の実態と原因	●交通事故などによる傷害を防止するためには、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策を行うことが必要であることを理解する。
	1	③交通事故によるけがの防止	●人的要因に対しては、心身の状態や周囲の状況を把握し、判断して、安全に行動すること、環境要因に対しては、環境を安全にするために、道路などの交通環境などの整備改善をすることがあることなどについて理解する。 ●交通事故を防止するためには、自転車や自動車の特性を知り、交通法規を守り、車両、道路、気象条件などの周囲の状況に応じ、安全に行動することが必要であることを理解する。
	1	④自然災害によるけがの防止	●自然災害による傷害は、例えば地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って発生する、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などの二次災害によっても生じること理解する。 ●自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、緊急地震速報を含む災害情報を正確に把握すること、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることを理解する。

	時限	単 元	ね ら い
学 習 内 容 と 流 れ	1	⑤応急手当の意義と基本	●傷害が発生した際に、その場に居合わせた人が行う応急手当としては、傷害を受けた人の反応の確認等状況の把握と同時に、周囲の人への連絡、傷害の状態に応じた手当が基本であり、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることを理解できるようにする。 ●心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）使用の心肺蘇生法を取り上げ、理解できるようにする。
	1～2	⑥心肺蘇生法の流れ 止血法、包帯法、固定法	●気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫、AED などの心肺蘇生法の手順を実習を通して理解する。 ●出血があるときの応急手当の基本や方法について理解する。 ●出血があるときの正しい応急手当の方法について、実習を通して理解する。
学習の 留意点・ 評価など	配点は30点とする。		
備 考	保健の授業は、年間通して行うが、特に10月ごろから週1時間実施し、学年末試験を保健分野の内容の試験として実施。		

教科名		保健体育科	科目名	保 健
対象学年		中学3年	コース・選択	—
単位数			教科書 (出版社)	大日本図書
単元の 目 標		感染症の予防と健康を守る社会の取り組みについて、課題を発見し、課題の解決に向けて学習に自主的に取り組み、理解できるようにする。		
学 習 内 容 と 流 れ	時限	単 元	ね ら い	
	1	①感染症の原因	●感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる病気であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることを理解する。 ●病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することを理解できるようにする。	
	1	②感染症の予防	●感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であることを理解する。 ●感染症にかかった場合は、病気から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解する。	
	1	③性感染症の予防	●性感染症の疾病概念や感染経路について理解する。 ●性感染症への感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解する。	
	1	④エイズの予防	●エイズの疾病概念や感染経路について理解する。 ●エイズへの感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解する。	
	1	⑤個人の健康を守る社会の取り組み	●健康の保持増進や病気の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取り組みとともに、社会の取り組みが有効であることを理解する。 ●社会の取り組みとしては、地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取り組みとして各機関が持つ機能を有効に利用する必要があることを理解する。 ●健康増進や疾病予防についての地域の保健活動について、住民の健康診断や健康相談などが行われていることを理解する。	
	1	⑥医薬品の有効利用	●医薬品には主作用と副作用があること、医薬品は正しく使用する必要があることを理解する。 ●医薬品を正しく利用するにはどのようにすればよいのかを考える。	

単元の目標		健康と環境について課題を発見し、その解決を目指した活動を通して身に着ける	
学習内容と流れ	時限	単 元	ね ら い
	1	①環境への適応能力	●周りの気温の変化に対して体はどのような調節を行っているのかを理解する。 ●自分たちの体は、環境の変化に対してどのような適応能力が備わっているのかを理解する。
	1	②快適な環境の条件	●快適で能率のよい生活に適した気温、湿度、気流や明るさの条件はどのようなものかを理解する。 ●学習や作業、スポーツ活動には、どのような条件があるのかを考える。
	1	③空気の汚れと換気	●二酸化炭素や一酸化炭素の健康への影響を理解する。 ●室内の空気をきれいに保つには、どのようにすればよいかを考える。
	1	④水の役割と飲料水の条件	●人間の体内や生活の中で、水が果たしている役割について理解する。 ●安全な飲料水にはどのような条件があるのかを考える。
	1	⑤生活にともなう廃棄物の処理	●自然環境や環境を守るために廃棄物はどのように処理されているかを理解する。 ●廃棄物を減らすために、家庭や地域でどのような取り組みが必要か考える。
	1	⑥環境問題への取り組み	●環境の汚染は、これまで人々の健康にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。 ●環境問題を解決するために、どのような取り組みができるかを考える。
学習の留意点・評価など		配点は 30 点とする。	
備 考		保健の授業は、年間通して行うが、特に 10 月ごろから週 1 時間実施し、 2 学期期末試験と学年末試験を保健分野の内容の試験として実施。	

教科名		保健体育科	科 目 名	体 育
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習のねらい	指導上の留意点
	1 学期	オリエンテーション		
	4 月 ～ 5 月	体づくり運動 集団行動	個々の体力と運動の実践を把握し、運動することの必要性和大切さについて理解を深めることができるようにする。	個々の体力について理解させる。
	4 月 ～ 7 月	フットサル	基本技術の習得ができるようにする。 ①ルールの説明と確認 ②ボールタッチ ③ドリブル ④パス ⑤シュート ⑥チーム練習（2 対 1 、 3 対 1 ） ⑦試合（ミニゲーム）	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。 集団の中での個人の役割を理解させる。 対人練習における安全管理について理解させる。
	2 学期 9 月	高校体育祭準備	高校に進学し初めてのマスゲームで協働や表現を学び、次の学年につなげられるようにする。	日本文化の伝統や継承についてを理解を深め、演技できるようにさせる。
	10 月 ～ 11 月	阿波踊り（マスゲーム） バスケットボール	日本の伝統や文化を理解し演技できるようにする。 ・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。 ①ハンドリング ②パス ③ドリブル ④シュートドリル（レイアップ、ゴール下） ⑤速攻（2 メン、3 メン） ⑥対人練習（1 対 1 ～ 3 対 3 の攻防） ⑦チーム練習 ⑧試合	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。 集団の中での個人の役割を理解させる。 対人練習における安全管理について理解させる。 ルールの把握をさせる。

	学期・月等	単 元	学習のねらい	指導上の留意点
学 習 内 容 と 流 れ	3 学期	バドミントン	基本技術の習得ができるようにする。	ペアの役割を理解させる。
	12月 ～ 1 月	◆ 「体づくり運動」 ※年間を通して適宜実施	①サーブ（フォア、バック） ②ハイクリア ③ドライブ ④ヘアピン ⑤ドロップ ⑥ロブ ⑦スマッシュ ⑧試合（ダブルス）	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。
学習の留意点・評価など		・ 体育実技の技能および、安全で協力的に行う態度 ・ 集団の中での役割を理解し、実践できる態度		
備 考				

教科名		保健体育科	科目名	保健
対象学年		高校1年	コース・選択等	必修
単位数		1単位	教科書 (出版社)	050-901現代高等保健体育 (大修館書店)
使用教材		050-901図説 現代高等保健		
学習のねらい		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。		
学習内容 と流れ	学期・月等	1 単元「現代社会と健康」	学習のねらい	指導上の留意点
	1 学期	1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康	・さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ・健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ・わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。 ・生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。 ・がんの種類や原因について説明できる。 ・がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。 ・健康と運動の関係について説明できる。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	
	2 学期	7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康的な食事のとり方について説明できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。	

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	1 単元「現代社会と健康」	学習のねらい	指導上の留意点
	3 学期	9. 喫煙と健康	・ 喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。	
		10. 飲酒と健康	・ 喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	
		11. 薬物乱用と健康	・ 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。	
		12. 精神疾患の特徴	・ 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	
		13. 精神疾患の予防	・ 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。	
		14. 精神疾患からの回復	・ 薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	
		15. 現代の感染症	・ 精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。	
		16. 感染症の予防	・ 現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	
		17. 性感染症・エイズとその予防	・ 精神疾患を予防する方法について説明できる。	
		18. 健康に関する意思決定・行動選択	・ 精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。	
		19. 健康に関する環境づくり	・ 精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	
			・ 精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	
			・ 感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。	
			・ 新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	
			・ 感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。	
			・ 感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	
			・ 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。	
			・ 性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	
			・ 意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。	
			・ 健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	
			・ 社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。	
			・ ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	

	学期・月等	2 単元 「安全な社会生活」	学習のねらい	指導上の留意点
学 習 内 容 と 流 れ		1. 事故の現状と発生要因	・ 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 ・ 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。	
		2. 安全な社会の形成	・ 交通事故防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 ・ 交通事故には補償など法的責任が生じることを理解する。	
		3. 交通における安全	・ 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 ・ すべての人たちの安全を確保するために必要な環境の整備について理解する。	
		4. 応急手当の意義とその基本	・ 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 ・ 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用方法について理解する。	
		5. 日常的な応急手当	・ 心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。 ・ 心肺蘇生法ができるようにする。	
		6. 心肺蘇生法	・ 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする。 ・ 熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする。	
	学習の留意点・評価など	各学期ごとの期末テストを実施 観点別「主体性」について、各学期リフレクションシートを提出をもって評価		
備 考				

教科名		保健体育科	科目名	体 育
対象学年		高校2年	コース・選択等	必修
単位数		2単位	教科書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習のねらい	指導上の留意点
	1学期 4月 ～ 7月	バレーボール（6人制）	・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。 ①サーブ（アンダー、サイド、フローター） ②パス（アンダー、オーバー） ③サーブカット ④スパイク ⑤チーム練習 ⑥試合	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる 集団の中での個人の役割を理解させる。
	2学期 9月	高校体育祭準備	最終学年を迎える前段階としての準備ができるように取り組むことができるようにする。	日本文化の伝統や継承についてを理解を深め、演技できるようにさせる。
	10月 ～ 11月	ソーラン節（マスゲーム） バスケットボール	日本の伝統や文化を理解し演技できるようにする。 ・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。 ①ハンドリング ②パス③ドリブル ④シュートドリル（レイアップ、ゴール下） ⑤速攻（2メン、3メン） ⑥対人練習（1対1～3対3の攻防） ⑦チーム練習 ⑧試合	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。 集団の中での個人の役割を理解させる。 対人練習における安全管理について理解させる。 ルールの把握をさせる。

	学期・月等	単 元	学習のねらい	指導上の留意点
学習内容と流れ	3 学期	フットサル	・ 基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。
	12月 ～ 3 月	◆「体づくり運動」 ※年間を通して適宜実施	①ルールの説明と確認 ②ボールタッチ ③ドリブル ④パス ⑤シュート ⑥チーム練習（2 対 1、3 対 1） ⑦試合（ゴールを使った試合）	集団の中での個人の役割を理解させる。 対人練習における安全管理について理解させる。
学習の留意点・評価など	・ 体育実技の技能および、安全で協力的に行う態度 ・ 集団の中での役割を理解し、実践できる態度			
備 考				

教科名		保健体育科	科 目 名	保 健
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	必 修
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	701現代高等保健体育 (大修館書店)
使用教材		701図説現代高等保健		
学習のねらい		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。 社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。		
学習内容 と流れ	学期・月等	3 単元「生涯を通じる健康」	ね ら い	留 意 点
	1 学期	1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶	・ ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・ 各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。 ・ 思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・ 思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。 ・ 性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・ 性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。 ・ 妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ・ 妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。 ・ 家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ・ 人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	
	2 学期	6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康	・ 心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ・ 結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。 ・ 加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ・ 高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	

学習内容 と 流れ	学期・ 月等	4 単元「健康を支える環境づくり」	ね ら い	留 意 点
	3 学期	7. 保健サービスとその活用	・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげることができる。	
		8. 医療サービスとその活用	・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。	
		9. 医療品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	
		10. さまざまな保健活動や社会的対策	・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。	
		11. 健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	
		4 単元「健康を支える環境づくり」	ね ら い	
	3 学期	1. 大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ・大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	
		2. 水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	
		3. 環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ・産業廃棄物の処理について説明できる。	
		4. ごみの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	
		5. 食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ・食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	
		6. 食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ・食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。	

学習の 留意点・ 評価など	各学期ごとの期末テストを実施 観点別「主体性」について、1・2学期はリフレクションシートの提出をもって評価 観点別「主体性」について、3学期はパワーポイント発表資料の提出をもって評価
備 考	

教科名		保健体育科	科目名	体 育
対象学年		高校3年	コース・選択等	必修
単位数		3単位	教科書 (出版社)	——
使用教材				
学習のねらい		運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学 習 の ね ら い	留 意 点
	1学期 4月 ～ 7月	バレーボール（6人制）	・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。 ①サーブ（アンダー、サイド、フローター） ②パス（アンダー、オーバー） ③サーブカット ④スパイク ⑤チーム練習 ⑥試合	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる 集団の中での個人の役割を理解させる。
	2学期 9月	高校体育祭準備	6年間の集大成として参加できるようにする。	中・高6年間のまとめとして準備させ、参加させる。
		創作ダンス（マスゲーム）	創意工夫をし、クラス毎の特徴が十分に出来るように演技する。	中・高6年間のまとめとして行うことの大切さを理解させ、作品を作らせる。
	10月 ～ 11月	テニス	・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。 ①サーブ ②ストローク（フォア、バック） ③ボレー④スマッシュ ⑤試合準備 ⑥試合（ダブルス）	安全に留意し実践させる。 ルールの把握をさせる。

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学 習 の ね ら い	留 意 点
	3 学期	バドミントン	・基本技術の習得ができるようにする。 ・基本技術を利用した応用技術の実践ができるようにする。	
	12月 ～ 1 月		①ルールの説明と確認 ②試合（ダブルス）	
	通年 (週1回)	卓球 (1 学期)	①ルールの説明と確認 ②試合（シングルス・ダブルス）	ペアの役割を理解させる。 ルールの把握をさせる。
		バドミントン (2、3 学期)	①サーブ（フォア、バック） ②ハイクリア ③ドライブ ④ヘアピン ⑤ドロップ ⑥ロブ ⑦スマッシュ ⑧試合（ダブルス）	ペアの役割を理解させる。 ルールの把握をさせる。
		◆「体づくり運動」 ※年間を通して適宜実施		
学習の 留意点・ 評価など	・体育実技の技能および、安全で協力的に行う態度 ・集団の中での役割を理解し、実践できる態度			
備 考				

教科名		芸 術 科	科 目 名	音 楽
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	——
単位数		1.5単位	教 科 書 (出版社)	中学音楽 1 (教育出版) 中学器楽 (教育出版)
使用教材		中学音楽 1 ……教育出版 中学器楽 ……教育出版 ザ・楽典 ……ヤマハ出版		
学習のねらい		表現：正しい呼吸法、発声で曲想を感じとり、明るく楽しく歌唱する。 楽器の基礎的な奏法で、美しい音色を工夫し演奏する。 鑑賞：文化、歴史等との関わりを理解し、感じ取る。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	学期・月等	単 元
	4 月	音 発声・腹式呼吸 校歌・譜表・ト音記号	11月	音 合唱練習 鑑賞「メサイア」
		器 楽器概説 ヴァイオリン構え・ピチカート		器 ヴァイオリン イ長調の音階
	5 月	音 音名・階名 「夏の思い出」	12月	音 クリスマスキャロル
		器 ヴァイオリン 弓の持ち方・開放弦		器 ヴァイオリン 音階
	6 月	音 音符・休符 鑑賞「魔王」	1 月	音 楽典 1 年のまとめ 合唱コンクール 準備 合唱練習
		器 ヴァイオリン 開放弦・全弓・半弓・リズムアンサンブル		器 ヴァイオリン二重奏 1 学期の復習 ・開放弦・運弓
	7 月	音 発想・速度記号	2 月	音 「マイ・バラード」 合唱コンクール
		器 ヴァイオリン 運弓・開放弦		器 ヴァイオリン二重奏
	9 月	音 強弱・反復記号 合唱練習	3 月	音 卒業式の歌 鑑賞「春」
		器 ヴァイオリン 1 学期の復習		器 ヴァイオリンまとめ
	10月	音 拍子 鑑賞「春」		
		器 ヴァイオリン 音階		

教科名		芸 術 科	科 目 名	音 楽
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	中学音楽 2・3 上 (教育出版) 中学器楽 (教育出版)
使用教材		中学音楽 2・3 上……教育出版 中学器楽……教育出版 ザ・楽典……ヤマハ出版		
学習のねらい		表現：言葉、歌詞の内容、曲想などを感じとり歌唱する。 速度、強弱、音色、リズム、旋律、和声などの関わり合い、形式などの働きを感じ取り表現する。 鑑賞：演奏形態、作曲形式や、諸民族音楽の特徴や多様性などを、感じ取る。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	学期・月等	単 元
	4 月	音 楽典 1 年の復習 「花の街」	11 月	音 音程 2・3 度 合唱練習
		器 ヴァイオリン 1 年の復習		器 ヴァイオリン ハ長調の音階 「エーデルワイス」
	5 月	音 音階 「浜辺の歌」	12 月	音 クリスマスキャロル 転回音程 6・7 度
		器 ヴァイオリン イ長調の音階 ニ長調の音階		器 ヴァイオリン 「エーデルワイス」 スラーをつけて弾く
	6 月	音 長音階・調号 「アメージンググレイス」	1 月	音 楽典 2 年のまとめ 合唱コンクール 準備 合唱練習
		器 ヴァイオリン 「きらきら星」(前半)		器 「エーデルワイス」 音色をつけて弾く
	7 月	音 長音階のまとめ	2 月	音 「この星に生まれて」 合唱コンクール
		器 ヴァイオリン 「きらきら星」(後半)		器 和楽器「篠笛」 ハ音記号 音階 1 学期の復習
	9 月	音 半音階 讃美歌重唱	3 月	音 卒業式の歌
		器 ヴァイオリン 「メヌエット」		器 ヴァイオリン 2 学期の復習
	10 月	音 音程 1・4・5・8 度 合唱練習		
		器 ヴァイオリン 「メヌエット」		

教科名		芸 術 科	科 目 名	音 楽
対象学年		中学 3 年	コース・選択等	——
単位数		1 単位	教科書 (出版社)	中学音楽 2・3 下 (教育出版)
使用教材		中学音楽 2・3 下……教育出版 ザ・楽典……ヤマハ出版		
学習の ねらい		表現：曲種に対応した発声で歌唱する。 各声部の役割や、全体の響きに気を付けて合唱する。 自由なイメージや曲想、発想のもとに創作する。 鑑賞：速度、強弱、声、リズム、旋律、和声、形式等の雰囲気や特徴を感じ取る。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	楽典 2 年の復習 「花」	11 月	「涙・そうそう」 鑑賞「アイダ」
	5 月	調号 「浜辺の歌」 鑑賞「アランフェス」	12 月	クリスマスキャロル
	6 月	短音階・調号 関係調 「帰れソレントへ」 鑑賞「羽衣」	1 月	合唱コンクール 準備
	7 月	三和音 鑑賞「青少年のための管弦楽入門」	2 月	合唱コンクール
	9 月	短音階 鑑賞「ボレロ」	3 月	卒業式の歌
	10 月	「荒城の月」 コードネーム		

教科名		芸 術 科		科 目 名		美 術	
対象学年		中学 1 年		コース・選択等		――	
単位数		1.5単位		教 科 書 (出版社)		美術 I（日文）	
使用教材		プリント教材					
学習の ねらい		感性や想像力を働かせて、自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりして豊かに発想し構想する能力を身に付け、形や色の構成などを工夫し、自分らしく心豊かな表現の構想をする。					
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元			学期・ 月等	単 元	
	4 月	絵画 気持ちを表す自画像			11月	〃	
	5 月	〃			12月	彫塑 動物をつくろう	
	6 月	デザイン シンボルマーク			1 月	〃	
	7 月	〃			2 月	〃	
	9 月	色彩 色の特徴			3 月	〃	
	10月	絵画 身近なものを描く					
学習の 留意点・ 評価など		制作過程や表現の工夫を重視し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」の観点から、作品および振り返りを通して総合的に評価する。					

教科名		芸 術 科	科 目 名	美 術
対象学年		中学 2 年	コース・選択等	——
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	美術Ⅱ・Ⅲ上（日文）
使用教材		プリント教材		
学習のねらい		感性や想像力を働かせて、自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりして豊かに発想し構想する能力を身に付け、形や色の構成などを工夫し、自分らしく心豊かな表現の構想をする。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学期・ 月等	単 元
	4 月	工芸 学校らしさを光と色で表す ステンドグラス	11月	〃
	5 月	〃	12月	絵画・デザイン 新入生に学校生活の文化や ルールを伝えるポスター
	6 月	〃	1 月	〃
	7 月	デザイン ことばをデザインする	2 月	〃
	9 月	〃	3 月	〃
	10月	〃		
学習の 留意点・ 評価など		制作過程や表現の工夫を重視し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」の観点から、作品および振り返りを通して総合的に評価する。		

教科名		芸 術 科	科 目 名	美 術
対象学年		中学 3 年	コース・選択等	——
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	美術Ⅱ・Ⅲ下（日文）
使用教材		プリント教材		
学習のねらい		感性や想像力を働かせて、自然や身近なものを観察しよさや美しさなどを感じ取ったり考えたりして豊かに発想し構想する能力を身に付け、形や色の構成などを工夫し、自分らしく心豊かな表現の構想をする。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学期・月等	単 元
	4 月	工芸 学習を楽しく！困ったを解決！ するガチャガチャ	11月	〃
	5 月	〃	12月	絵画 わたしを見つめて
	6 月	〃	1 月	〃
	7 月	デザイン 相手を考えたデジタルデザイン	2 月	〃
	9 月	〃	3 月	〃
	10月	〃		
学習の留意点・評価など		制作過程や表現の工夫を重視し、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学ぶ態度」の観点から、作品および振り返りを通して総合的に評価する。		

教科名		芸 術 科	科 目 名	音 楽 I
対象学年		高校1年	コース・選択等	必 修
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	高校生の音楽（教育芸術社）
使用教材		讃美歌21		
学習の ねらい		多くの讃美歌を知ることにより、日々の礼拝を充実したものにする。 日本歌曲を歌うことにより、日本における西洋音楽への理解を深める。 西洋の音楽史における各時代の様式、代表的な作曲家を学び、教養を広める。 中学で学習した楽典の知識をさらに深める。 讃美歌コンクールへの参加によって、合唱の楽しさを感じ、クラスの団結を深める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		ね ら い
	1 学期	讃美歌：（504、60、419、464、515、「ちいさなごに」他） 音楽史：キリスト教の成立時～ルネサンス時代 楽 典：音名、階名 讃美歌コンクール		月間讃美歌をしっかりと歌えるようにする 初期の西洋音楽の成り立ちを知る 楽譜を正しく読めるようにする 讃美歌を合唱し、クラスの団結を深める
	2 学期	讃美歌：（536、453、10、271、「うるわしのしらゆり」クリスマス讃美歌 他） 音楽史：バロック時代 ヴィヴァルディ バッハ ヘンデル 楽 典：音符、拍子 日本歌曲：「この道」		月間讃美歌をしっかりと歌えるようにする バロック時代の音楽を知り、メサイア演奏会への理解を深める 音符と拍子の関係を理解する 日本語の歌曲を正しく歌う
	3 学期	讃美歌：（461、51、288、 他） 音楽史：古典主義の時代 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン 楽 典：長音階 日本歌曲：「翼をください」		月間讃美歌をしっかりと歌えるようにする 古典主義の音楽の特徴を理解する 長調の音階について理解する フォークソングの古典に触れる
学習の 留意点・ 評価など		歌をよりうまく歌えるように努力しているか。 教材に興味を持って楽曲鑑賞ができているか。 音楽史について理解ができているか。 楽典を正しく理解できているか 讃美歌コンクールや実技テストに真剣に取り組んでいるか。		

教科名	芸術科	科目名	音楽Ⅰ
対象学年	高校2年	コース・選択等	必修
単位数	1単位	教科書 (出版社)	高校生の音楽Ⅰ（教育芸術社）
使用教材	讃美歌21		
学習のねらい	多くの讃美歌を知ることにより、日々の礼拝を充実したものにする。 ドイツ語の歌曲を歌い、西洋の歌曲への理解を深める。 ロマン主義時代の代表的な作曲家の生い立ちと作品を学ぶ。 讃美歌コンクール参加により、合唱の楽しさを知り、クラスの団結を深める。 1年生で学習した音楽理論の学びを進める。		
学習内容 と流れ	学期・ 月等	単元	ねらい
	1学期	讃美歌：(504、60、419、464、515、「ちいさなごに」他) 楽典：短音階 音楽史：ロマン主義の時代初期 シューベルト、リスト、ショパン 讃美歌コンクール	讃美歌をしっかりと歌えるようにする 短音階のしくみを理解する 古典派の代表的な作曲家2名について理解する ロマン主義の音楽とそれ以前の音楽の違いを知る 讃美歌コンクール参加により、合唱の楽しさを知り、クラスの団結を深める。
	2学期	讃美歌：(536、453、10、271、「うるわしのしらゆり」、クリスマス讃美歌 他) 楽典：関係調 音楽史：ロマン主義の時代盛期 シューマン、ブラームス 歌唱：Heidenröslein	讃美歌をしっかりと歌えるようにする 関係調について理解する 盛期ロマン派の作品を多く鑑賞する ドイツ歌曲を原語で歌う
	3学期	讃美歌：(461、51、288、 他) 楽典：音程 音楽史：ロマン主義の時代後期 イタリア・フランス・ドイツのオペラ 合唱曲：An die Freude (Beethoven)	讃美歌をしっかりと歌えるようにする 複雑な音程を理解する 後期ロマン派の特徴を知る 極めて有名なオペラを鑑賞する ベートーヴェン第9の合唱部分を歌う
学習の留意点・評価など		歌をよりうまく歌えるように努力しているか。 教材に興味を持って楽曲鑑賞ができているか。 音楽史、音楽理論について理解ができているか。 讃美歌コンクールや実技テストに真剣に取り組んでいるか。	

教科名		芸 術 科	科 目 名	美 術 I
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	コース I （2 選 2）
単位数		2 単位	教 科 書 （出版社）	美術 I （日文）
使用教材		スクラッチボード、ニードル、水彩絵具、和紙等		
学習の ねらい		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	平面構成 （立体的に画面を構成する）	・ 立体的感覚で発想できること。 色彩を有効に生かすことを考える。	立体感が表現 できたか。
	5 月	〃		
	6 月	〃		
	7 月	スクラッチボードに描く （人物・静物など）	・ ニードルによって制作する ・ 黒地に白い線や面で表現するのだが その効果を考えて制作する。	素材の特性が 生かされたか。
	9 月	〃		
	10月	クリスマスカード	・ クリスマスカードにふさわしい 内容のものを制作する。	クリスマスを 表現できたか。
	11月	〃		
	12月	模写	・ 対象の表現方法や材料・技法の 生かし方などに創意や工夫をする。	元の絵を正確に 表現できたか。
	1 月	〃		
	2 月	はり絵	・ 主題を明確にし、表現方法を 工夫した内容のものを制作する	素材の特性を生かし 細かく表現できたか
	3 月	〃		
学習の 留意点・ 評価など		・ 図法や色彩について理解し、立体感のある平面構成に応用することができたか。 ・ 材料や用具の特性を生かしし表現できたか ・ 主題を明確にして表現方法を工夫して表現することができたか。		

教科名		芸 術 科	科 目 名	音 楽 II
対象学年		高校3年	コース・選択等	コース I 選択A 2
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	高校生の音楽 II (教育芸術社)
使用教材		讃美歌21		
学習の ねらい		1・2年生で学んだ楽典等、音楽の基礎になる知識を確認する。 独唱曲を用いて、歌唱力の向上をはかる。 合唱を通してハーモニー感を養い、他人と共鳴しあう楽しさを味わう。 創作の楽しさを味わう より広い分野の楽曲の鑑賞により、音楽的視野を広げる。 日本の伝統芸能に対する理解を深める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	1 学期	独唱 「Sehensucht nach Fruhlunge」 「Vaga Luna」 音楽史：国民楽派 オペラ鑑賞 「道化師」「ラ・ボエム」 楽典：音程	ドイツ語、イタリア語の芸術歌曲にふれる 近現代音楽を知る ベリズモオペラの代表作を鑑賞する 音程について理解する	
	2 学期	合唱 「Amazing grace」「つぶてソング」 オペレッタ鑑賞 「こうもり」「メリー・ウイドウ」 グループ創作 楽典：コードネーム	合唱の楽しさを知る コードネームを理解する 身近な物を使って音楽を創造する楽しさを味わう オペレッタの代表作を鑑賞する	
	3 学期	DVD 「日本の伝統芸能」鑑賞 雅楽、能、文楽、歌舞伎 調べ学習とプレゼンテーション	日本の伝統芸能について理解する	
学習の 留意点・ 評価など		歌をよりうまく歌えるように努力しているか。 教材に興味を持って楽曲鑑賞ができているか。 楽典について理解できているか。 クラスメートと協力し合って、創作や調べ学習を行っているか。 授業内容や実技テストに真剣に取り組んでいるか。		

教科名		技 術	科 目 名	
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	新 技術・家庭 技術分野 (教育図書)
使用教材		授業プリント、ClassiNOTE、スキルアシスト		
学習の ねらい		・生物育成に関する技術では、身近なものをテーマに取り上げ、基礎知識を身につける。また、現代の日本の食文化について考察する。 ・身近な素材では、木材と金属とプラスチックに着目し、見識を深める。また、製図の基礎を学び、ものづくりへとつなげる。 ・エネルギー変換に関する技術では、さまざまな発電方式を知り、生活を支える電気製品について考える。 ・また、身近な環境問題に目を向け、対応策について検証する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期	iPad運用の基本的操作 B 編 生物育成の技術	・植物栽培の基礎知識を身に着ける。 ・綿花の栽培を実践する。 ・動物の飼育に関する知識を蓄える。	・iPadに関しては、ICT支援員と連携する。 ・植物栽培では、体験を通して知識を増やす。
	2 学期	A 編 材料と加工の技術 C 編 エネルギー変換の技術	・身近に利用されている材料について学ぶ。 ・製図について学ぶ。 ・機構と仕組みを考える。 ・さまざまな発電を知る。 ・電気の変換について学ぶ。 ・電気製品の仕組みを知る。	・身近な製品をテーマにし、「見える学習」を心がける。 ・現在研究中の発電方法についてもiPadを利用して検索し、同クラス生徒に説明する資料を作成する。
	3 学期	生活と環境	・身近な問題に目を向ける。 ・問題解決への取り組み方を学ぶ。	・環境問題や社会問題に目を向け、身近なものと理解して、自分にできる取り組みを考える。
学習の 留意点・ 評価など		・授業の進行は、プリントのみではなくClassiNOTEを活用し、見やすい資料提供を心がける。同時に生徒が考える意見を集約・共有し、多角的な視点を育むことができるように計画する。ClassiNOTEの提出も、評価に加える。		
備 考		単語や技能を覚えさせるだけではなく、疑問を抱かせ、調べて解決することができるような内容を実施する。また、自分の言葉で表現する機会を増やす。		

教科名		情 報	科 目 名	
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	新 技術・家庭 技術分野 (教育図書)
使用教材		授業プリント、ClassiNOTE、Windowsパソコン Webコンテンツ (Scratchなど)		
学習の ねらい		・他教科で利用するClassiNOTEに関する基本的操作の習得。 ・情報化社会を生きる上で心がけるべきことを学ぶ。 ・Windowsパソコンの利用と活用。 ①Wordの利用と習得 ②PowerPointの利用と習得 ・Webコンテンツを利用した情報の活用 ①プログラミングソフトScratchを利用したプログラミングの基礎習得 ②双方向性のあるコンテンツの仕組み		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期	D編 情報の技術 ・メディアリテラシー ・ローマ字表とキーボード ・Wordの利用と活用	・「情報」の扱い方を考える。 ・Windowsパソコンの利用方法を習得する。 ・キーボード入力スキル向上を念頭に実施す。	・情報の収集から発信までの留意点を考える。 ・ローマ字入力の練習を繰り返し、タッチタイピングを目指す。
	2 学期	・ネットリテラシー ・情報処理の基礎 ・PowerPointの利用と活用	・情報化社会に生きる一人として、ネットリテラシーについて意識を高めながら情報端末を利用する。 ・プレゼンテーションの基礎を学び、資料を作成する。	・情報を発信する場合の注意事項についても、授業で確認する。 ・PowerPointでは、機能を利用して動画の作成を行う。
	3 学期	・プログラムの基礎 ・Scratchの利用 ・双方向性のあるコンテンツ ・3Dプリンター	・Scratchではプログラミングについて体験する。 ・双方向性のあるコンテンツは、仕組みを理解し、実際に利用することを中心とする。 ・Tinkercadを利用して3Dデータを作図する。	・Scratchでは、自分のペースで学びを深めていくことができるように工夫する。 ・画面内で立体的な作図を体験し、3年生のDignityにつなげる。
学習の 留意点・ 評価など		・小学生の時の体験に大きな差がある。使い慣れている生徒が飽きることなく、同時にパソコンに苦手意識を持っている生徒も楽しく参加できる授業を計画する。 ・他者と比べるのではなく、各自のレベルアップを実感できるものを考える。		
備 考		授業支援アプリのClassiやClassiNOTEの利用を率先して行い、他教科での利用がスムーズに進むようにレクチャーを行う。		

教科名	技術・家庭科		科目名	
対象学年	中学2年		コース・選択等	
単位数	2単位		教科書 (出版社)	技術・家庭 家庭分野 (教育図書)
使用教材	家庭科ワークノート 衣生活住生活と自立 (地域教材社) 家庭科ワークノート 食生活と自立 (地域教材社) 2026生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)			
学習のねらい	・自分の衣服の手入れや管理ができる。そのための繊維や衣服についての基礎知識を習得する。 ・基本的な被服製作の方法、手順を学びながら、具体的に製作ができる。 ・生活の中で食事が果たす役割と、栄養素の種類や働きを知り、中学生に必要な栄養を考えた食生活ができる。 ・食品群別摂取量のめやすを考えた1日の献立作成ができ、調理の基礎も実習を通して体験する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	<生活を豊かにする工夫> 1. 製作実習の基礎 2. つくってみよう (実習1)「イージーパンツ」 ①裁断・縫いしろの始末 ②ポケット まつり縫い ③また下 ④すそ ⑤また上 ⑥ウエスト ⑦ゴム通し	10月	<健康と食生活> 1. 食事の役割 2. 健康によい食習慣 <何をどれだけ食べたらいいか> 1. 栄養素の種類とはたらき 2. 中学生に必要な栄養素の特徴 3. 食品に含まれる栄養素 4. 1日に必要な食品の種類や概量 5. 1日の献立作成
	5月		11月	
	6月		12月	<調理と食文化> 1. 年中行事と行事食 ○わが家の行事食を調べよう
	7月	(実習2)「三角巾の刺繍」 ①刺繍	1月	2. 食品の選択と購入
	9月	<わたしたちの衣生活> 1. 自立した衣生活のために 2. 衣服の着用 3. 衣服の入手 4. 衣服の手入れ 5. 衣服の処分	2月	3. 食品の適切な保存
			10～	4. 調理の基礎
			3月	5. 作ってみよう
			(随時)	○ホームプロジェクト ・朝食作り ・昼食作り ○調理実習・実験 (2回)
	学習の留意点・評価など			
備考				

教科名	技術・家庭科		科目名	
対象学年	中学3年		コース・選択等	
単位数	1単位		教科書 (出版社)	技術・家庭 家庭分野 (教育図書)
使用教材	家庭科ワークノート 衣生活住生活と自立 (地域教材社) デジタル平面計画 (教育図書) 家庭科ワークノート 身近な消費生活と環境 (地域教材社) 2025生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)			
学習のねらい	・ 幼児の生活と幼児の心身の発達の基礎知識を習得し、Dignityで行う夏休みの幼稚園体験、発達段階にふさわしいおもちゃ開発につなげていく。 ・ 自分の生活空間をよりよくするための知識を身につけ、工夫して快適な生活ができる力を養う。 ・ 食事の文化的な意義を知り、より豊かで気持ちの良い食事をするための食卓作法を身につける。 ・ 多様な販売方法を理解し、トラブルに巻き込まれず環境にも配慮した選択、購入ができる消費者になるための力を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	＜幼児の生活と家族＞	10月	＜私たちの住生活②＞
		1. 幼児の体の発達		4. 家庭内事故から家族を守ろう
	5月	2. 幼児の心の発達		5. 災害に備えた安全な住まい方
		3. 幼児の生活習慣の習得方法		6. 快適な住空間 (実習)
		4. 幼児の生活の特徴	11月	(実習) デジタル平面計画
	6月	5. 幼児の遊びと発達のかかわり		＜私たちの消費生活＞
		6. 幼児の発達を支える大人の役割		1. 買い物をふり返ってみよう
		7. 幼児とふれ合う	12月	2. 買い物の法律的な意味
		＜私たちの住生活①＞		3. いろいろな販売方法や支払方法
	7月	1. 住まいのはたらき		4. 消費者トラブルを防ごう
		2. 家族が暮らしやすい住まい方	1月	5. 消費者を支える仕組み
		3. 健康を守る室内環境の整え方		6. 買い物の社会的な意味
		＜食卓作法＞ (修学旅行事前学習)		7. 消費者の権利と責任
	9月	②日本料理のマナー	2月	8. 消費者が社会に与える影響
		③西洋料理のマナー		9. 環境に及ぼす影響を考えて行動しよう
		④中華料理のマナー		10. 消費者として、いま、私たちにできること
			3月	
学習の留意点・評価など				
備考				

教科名		家庭科	科目名	家庭基礎
対象学年		高校1年生	コース・選択等	必修
単位数		2単位	教科書 (出版社)	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 (教育図書)
使用教材		ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 マスターノート (教育図書) 生活学Navi 資料+成分表2024 (実教出版)		
学習のねらい		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		
学習内容 と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	Introduction 生涯の生活設計1 ①自分の将来をイメージしよう！ A編 第1章 青年期の自立と家族・家庭 ①自立への一歩を踏み出そう ③将来の自分と家庭を想像しよう	- 各ライフステージの特徴と課題を理解する。これから起こる人生のライフイベントを想定し、目標をたて、そのための意思決定について考える。 「おとな」とは何かを考える。また、青年期とはどのような時期なのかを知り、青年期に必要な自立について考える。 - 現在の家族を取り巻く状況（少人数化・多様化、結婚以外の生き方、家族関係の変化）について理解する。	◇大学の先生による出前授業
	5月	C編 第1章 消費経済と経済計画 ④社会経済につながる家計とは？	家計について理解し、家計の収入・支出項目や給与明細の読み方を知り、家計収支のバランスについて考える。	
	6月	C編 第2章 持続可能なライフスタイルと環境 ②持続可能な消費行動とは B編 第2章 衣生活と健康 ④今後の衣生活を考えよう ◇被服実習	- フェアトレードなどのエシカル消費のしくみについて理解する。 - 衣生活に関わる省エネルギーやリサイクルなど環境に配慮した行動や、テクノロジーを活用した新しい取り組みについて考える。 - エコバッグ製作を通して、エシカルファッションについて実践的に考える。	
				◇被服実習（エコバッグ製作）

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	7 月	◇和服について	・日本の伝統的な衣服である和服の特徴を理解する。	
	2 学期	◇浴衣の着付け	・女物ひとえ長着の着方、たたみ方を習得する。	◇浴衣の着付け
	9 月	B 編 第 2 章 衣生活と健康 ②衣服はどうやってつくられている？	・衣服の成り立ちを知るとともに、性能とのかかわりを考える。	
	10 月	B 編 第 1 章 食生活と健康 調理実習を始める前に ◇調理実習	・調理の基本的な技術を身につけ、安全や衛生面に配慮した調理ができるようになる。 ・調理実習を通して、基礎的な調理の知識・技術を身につけ、より豊かな食生活を創造することができる。	◇調理実習（2 回を予定）
	11 月	②私たちは何を食べている？	・食品に含まれる栄養素について理解し、食品の栄養的特徴や調理上の性質について科学的に理解する。	
	12 月	A 編 第 2 章 子どもの生活と保育 ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもの生活にどうかかわる？	・乳幼児期における子どもの発達・発育について理解する。 ・子どもと遊び、児童文化、児童文化財について理解する。 ・親の役割について考え、理解する。 ・子どもの生活習慣、食事・衣服・健康・安全の重要性を理解する。	
	3 学期	◇絵本POP製作	・自分自身が小さいころに好きだった絵本を取り上げ、絵本のPOP製作する。絵本の役割を理解するだけでなく、表現する力を養う。	◇絵本POP製作（2 時間）
	1 月	A 編 第 3 章 高齢期の生活と福祉 ①高齢期ってどういう時期？ ②高齢化する日本を生きる A 編 第 4 章 共生社会と福祉 ①共生ってなんだろう？	・高齢期の心身の変化について知り、高齢期に特徴的な疾病について理解する。また、高齢期における生きがいや社会参加について考える。 ・日本と世界の高齢化の推移と将来予測について理解する。 ・高齢者介護、社会的孤立などの課題について考える。 ・共生社会の意味とリスクマネジメントの必要性を理解する。 ・社会保障の機能と社会保障制度、公的年金制度について理解する。	
	2 月	Summary 生涯の生活設計 2 ①Well-being を実現しよう！	・家庭基礎の学習を生かし、将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活を設計することの意義を理解する。	

学習の 留意点・ 評価など	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることができたか。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養うことができたか。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことができたか。
備 考	

教科名		家庭科	科目名	保育基礎
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠ（2選－2）
単位数		2単位	教科書 (出版社)	保育基礎 教育図書 生活学NAVI 2023 実教出版
使用教材				
学習のねらい		1. 乳幼児の発達と特徴、乳幼児の生活と保育、児童福祉などに関する知識と技術を習得させ、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。 2. 身近な材料を使って、簡単な子どもの玩具等を作ることを学び、手作りの大切さについて考えさせる。 3. 年々、保育事情が複雑になる中で、生命を尊び、育ちゆく子どもにとってよりよい環境を作っていく責任があることを理解させ、実践できる力を育みたい。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期	第1章 子どもの保育		
	4月	1 保育の意義	・乳幼児期は人間の発達の基礎を培う大切な時期であり、この時期の発達の特徴を学び、かかわり方の重要性を理解する。	
	5月	2 保育の環境	・保育環境を整えるとはどういうことか学ぶ。「育つ力」を十分に引き出す環境について考える。	
		3 保育の方法 ★簡単な折り紙の習得 ★フェルトのバッグ型知育玩具の製作	・年齢に応じた保育の方法を知る。 ・子どもの育ちに役立つ手作りおもちゃにはどのようなものがよいかを考え、計画に従って、創造的に製作できるようにする。	行事や季節ごとの折り紙を習得 安全で発展性のある玩具製作・提出
	6月	第2章 子どもの発達		
		1 子どもの発達の特徴	・胎児期から乳幼児期までの成長には環境が大きく関わることを理解する。	
		2 乳幼児の発育と発達	・子どもの病気や事故の特徴を学び、適切な対処法を学ぶ。また、子どもへの安全教育の重要性を認識する。	
	7月	(幼稚園体験準備)	・保育とは何か、子どもの健やかな育ちを支える保育の方法を理解し、集団保育の場に参加する準備と知識の習得を行う。	諸注意確認（園でのルール、安全への配慮、服装や接し方）
	2学期	★幼稚園体験学習	・実際に保育体験をし、幼児とふれあうことにより、子どもへの理解を深める。	体験レポート提出

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	9 月	第 3 章 子どもの生活 1 子どもの健康と生活	・子どもの健康と生活には、大人の役割は大きい。適切な働きかけや生活習慣の習得のための家族や養育者の養護について理解する。	
	11月	2 子どもの食事	・食習慣を形成する上でも重要である、乳幼児期の食事について理解する ・偏食や食習慣の乱れをなくすにはどうしたらよいかを考える。	残さず食べられる 幼児食の工夫
	12月	3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全 ★幼児食の調理実習		クリスマスカード 制作 家庭にある身近な 食材で簡単、安全 な幼児食作り
	3 学期	第 4 章 子どもの福祉		
	1 月	1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度	・西欧と我が国の児童観の変遷について理解する。今日の児童観に至った歴史的経緯を理解する。 ・年々増加する子育て不安や虐待などの問題を把握し、家庭や社会で何ができるかを理解する。	これからの子どもの 福祉について話し合う
	2 月	第 5 章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動 ★実技発表会	・子どもの遊びの現状を知り、「表現」について理解し、表現活動を援助する方法を考える。 ・子どもの保育や教育に関して学んだことをふまえて、1 人 3 分の技能を発表する。	
		学習の留意点・評価など	・乳幼児期は人間形成の基礎を培う大切な時期であり、この時期における大人の働きかけや環境の整備がいかに重要であるかを理解できたか。 ・幼児とのふれあいや、身近な材料による玩具の製作を通して子どもたちの健全な成長に関心を持ち、それに関わることの楽しさ、喜びを感じることができたか。 ・近年増加している子育てに関する問題について真剣に考え、自分には何が出来るか、どんな支援や対策があるかを理解できたか。 ・共同作業を通じて、気配りをしながら自分の役割と責任を果たすことの大切さを学ぶことができたか。	
	備 考	夏休み「高校生の私立幼稚園体験学習」に参加予定		

教科名		家 庭 科	科 目 名	フードデザイン
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠ（2選2）
単位数		2単位	教科書 （出版社）	フードデザイン（実教出版）
使用教材		フードデザイン学習ノート（実教出版）		
学習の ねらい		・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	1学期	第4章 調理の基本	・何のために調理するのかを理解し、おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせる。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解する。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具の特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける。	①調理実験：味覚テスト、うま味テスト ①調理実習：和食（おにぎり、みそ汁）
	4月	1節 調理とおいしさ		
		2節 調理操作		
		3節 調味操作		
	5月・ 6月	第2章 栄養素のはたらきと食事計画		
		1節 栄養素のはたらき		
		1 食物の摂取と栄養	・人間が食品の摂取により、栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握する。 ・各種栄養素の特徴と体内でののはたらき、代謝について理解する。	※2章1節～7節と3章1節については関連付けながら同時に進めていく。 ★実技テスト：うさぎりんご・木の葉切り ②調理実習：洋食
		2 炭水化物		
		3 脂質		
	4 たんぱく質			
7月	第3章 食品の特徴・表示・安全	・穀類、砂糖、大豆、豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等について、それぞれの特徴を把握し、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	③調理実習：中華	
	1節 食品と特徴と性質			
2学期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画			
9月	1節 栄養素のはたらき			

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ		5 ミネラル	・各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。	
		6 ビタミン		
		7 その他の食品成分	・水とその他の物質について、役割やはたらきを理解する。	
		第3章 食品の特徴・表示・安全		
		1節 食品と特徴と性質（続き）	・穀類、砂糖、大豆、豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等について、それぞれの特徴を把握し、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	
	10月	第5章 料理様式とテーブルコーディネート		
		1節 料理様式と献立	・日本料理、西洋料理、中国料理のそれぞれの様式に応じた献立とサービス・マナーについて理解する。	
		★日本料理の献立の特徴と食卓作法	・長い歴史を経て発達してきた、日本料理の特徴を学び、日本料理の献立の特徴や食卓作法を実践的に学ぶ。	★特別授業（テーブルマナー学習会）
	11月	★かんてん・ゼラチンの調理特性を発展させた実習	・実験・実習を通して、小麦粉の調理特性を理解する。	★特別授業（金城学院大学との連携授業） ⑤調理実習：洋食
	12月	2節 テーブルコーディネート ○和風のテーブルコーディネート ○洋風のテーブルコーディネート	・和風・洋風・中国風のテーブルコーディネートの特徴を理解する。	★実技テスト：だし巻き卵 ⑥調理実習：和食 ○和風：箸置きと箸袋の製作 ○洋風：クリスマスを演出 ⑦調理実習：洋食・クリスマス製菓
	3学期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画		
	1月	2節 ライフステージと栄養	・各ライフステージの栄養上の注意点を把握する。	
		3節 食事摂取基準と食事計画	・食事摂取基準について理解し、食事計画が立てられるようにする。	⑧調理実習：中華
	2月	第6章 フードデザイン実習	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立作成ができる。	◇家庭内実習：お弁当をつくろう
		★紅茶の授業	・紅茶の茶葉の特徴を理解する。 ・アフタヌーンティーの特徴を学び、紅茶の入れ方、香り方、効能などを知る。	⑨調理実習：軽食・製菓・紅茶（スコーン、アフタヌーンティー）

学習の 留意点・ 評価など	・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する力を養うことができたか。
備 考	・校外学習として、日本料理のテーブルマナー学習会を予定している。 ・金城学院大学生活環境学部の先生による連携授業を行う予定である。

教科名		家庭科	科目名	消費生活
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（A2）
単位数		2単位	教科書 （出版社）	高等学校用消費生活（文部科学省）
使用教材		令和8年度 消費生活（愛知県高等学校家庭科研究会） 「君とみらいとライフプラン」（公益財団法人 生命保険文化センター）		
学習のねらい		単に個人の欲求を求めて商品やサービスを購入するのではなく、自らの消費行動が地球・環境・社会・経済・倫理に影響をあたえていることを意識し、消費者市民として思いやりと責任を持った持続可能な消費をし、行動できる能力と態度を養う。 意志決定のプロセスに従ってよく考え、判断し、消費できる自立した消費者になる。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期			
	4月	第6章 環境と消費者	・私たちの便利な生活そのものが地球環境に大きな負担をかけていることを理解し、持続可能な社会への取り組みについて模索する。	
	5月	◇エコクッキング	・自分たちで考えたエコクッキングを実施する。	◇エコクッキング
	6月	◇バッグ製作	・エシカル消費を意識したオリジナルなバッグを製作する。	◇バッグ製作
		◇小テスト		◇小テスト実施
		第3章 消費生活の安全と自由		
		1. 消費生活の安全の確保	・消費者受けている危害の現状を具体的に知り、安全な消費生活に必要な知識、態度を身につける。	
		2. 消費生活の自由の確保	・消費生活におけるさまざまなトラブルの可能性を知り、トラブルを回避する方法を知る。	
		3. 信頼できる情報の確保	・不当表示・広告の例を挙げながら、その問題点を分析し、消費者として必要な情報を正確に入手するための方法を模索する。	
	7月	◇調理実習（加工食品の表示と食べ比べ）	・加工食品の食品表示を適切に読み取り、手作り品との違いを知る。	◇調理実習
	2学期	◇バッグとその広告表示の相互評価	・適切な値段設定をして、不当表示にならないように消費者の目を引く広告作りをする。 ・一消費者として、それぞれが作ったバッグと広告表示を見て、評価する。	◇POP製作
	9月	第1章 社会を支える消費者		
	10月	3. 社会の変化と消費生活の変化	・消費生活、消費者問題の歴史を学び、消費者を取り巻く社会の変化を理解する。	
	11月	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任	・消費者の権利と責任を自覚する。	

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	12月	第5章 消費者契約と法 1. 生活の中の契約 2. 契約と責任 3. 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 4. 消費者取引と関連法	・売買契約の意味を理解する。 ・多様化する販売方法を知る。 ・多様化する販売方法、さまざまな悪質商法とその対策を知る。 ・消費者取引に関連する法律の知識を習得し、様々な消費者トラブルにも対応できる力を身につける。	
	3学期 1月	5. 電子商取引と消費生活 6. 多様化する支払い方法と資金調達 第1章 社会を支える消費者 1. 消費生活の役割 2. 生涯の計画と管理 ◇ライフサイクルゲーム ◇「君とみらいとライフプラン」	・急速に普及した電子商取引について考える。 ・多様化する支払方法に対応できる知識を身につけ、資金調達の方法も知る。 ・経済活動における家計・企業・政府の関係を知り、消費者が経済社会で果たす役割を認識し、消費者市民社会の一員であることを自覚する。 ・家庭経済の基礎知識を身につけるとともに、将来のための経済計画について考える。 ・様々なライフイベントに関わる家計の収支をゲームを通して体験しながら、経済計画を考える。	◇生活設計
学習の留意点・評価など		・商品購入をする時、消費者市民社会の一員として、社会や環境のことを意識できるようになったか。 ・意志決定のプロセスに従ってよく考え、判断し、消費する習慣が身についたか。		
備 考				

教科名		家庭科	科目名	FP入門講座
対象学年		高校3年	コース・選択等	コース I (選択A5)
単位数		1 単位	教科書 (出版社)	なし
使用教材		教室内に投影するスライド 配布プリント・コメントシート (必要に応じて追加教材をClassi内にアップロードします)		
学習のねらい		ファイナンシャル・プランナーが業務として扱い、ファイナンシャル・プランニング技能士資格取得に必要な6つの学習分野について、資格試験過去問題を用いながら資格取得を目指して受験対策をメインに講義する。パーソナル・ファイナンスに関する学びを、生涯を通じた自らの生活設計に役立てることができるとともに、3級ファイナンシャル・プランニング技能士資格取得を目指す。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期 4 月	00FP事始め 経済の仕組みとFPの必要性 FP資格試験の体系 FP資格取得のための学び	ファイナンシャル・プランニングの必要性和資格の体系、学習内容を把握し、資格試験受験・合格に向けて必要な学びについて理解する	
	5 月	01パーソナルファイナンス 生活設計・キャッシュフロー表 5つの社会保険制度 教育資金(奨学金・学資保険) 住宅資金(住宅ローン)	年金・健康保険など社会保険の仕組みを理解し、生活に必要な資金の調達と返済などについて理解する。 生活のリスクに備える保険について理解し、活用できるようにする。	
	6 月	02リスクと保険 生命保険・損害保険 医療保険・個人年金保険 保険と税金		
	7 月	03金融資産運用 金融の基礎・債券と利回り 株式投資・投資信託 外国為替と外貨建て商品 金融資産運用と税金	生涯にわたる資産形成に必要な金融に関する知識、金融商品の活用方法を理解する。 税金の仕組みを理解し、ふるさと納税などの諸制度をうまく活用できるようにする。	
	2 学期 9 月	04タックスプランニング 10種類の所得と所得税 退職所得・事業所得・損益通算 ふるさと納税活用法		
	10月	05不動産運用設計 不動産の価格・不動産の取引 不動産登記 建ぺい率・容積率 不動産と税金	不動産運用に関する法律・諸制度について理解する。不動産の取得・所有・譲渡などに関わる税金制度について理解する。 贈与と相続、法定相続分、相続税と申告・納税について理解する。	
	11月	06相続・事業承継設計 贈与と贈与税 法定相続分 相続税・申告と納税		

学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
3 学期 12 月 1 月	07資格試験受験対策 学科過去問題と出題傾向 実技過去問題と出題傾向 5 月過去問題による受験対策 9 月過去問題による受験対策 1 月実施問題の解説	2023年 1 月にファイナンシャル・プランニ ング技能士試験を受験し、合格することを目指 して、過去問題を解いて力をつける。	
学習の 留意点・ 評価など	教材はスライドプリントですので、特にプリントはファイルし、復習できるようにしてください。 電卓を使った計算を行いますので、電卓を持参してください。 この科目は成績評価の対象とはなっていません。		
備 考			

教科名		外国語科	科 目 名		英 語
対象学年		中学 1 年	コース・選択等		――
単位数		6 単位	教 科 書 (出版社)		Infinity 1（三省堂） New Crown English Series 1 （三省堂）
使用教材		Infinity 1（三省堂） Infinity 1 文法問題集（三省堂） Gnaw、学研オンライン英会話			
学習の ねらい		小学生時に「聞く」、「話す」で慣れ親しんだ英語を、文法的側面から復習しながら、さらに「読む」力や「書く」力を身につけていく。本当に言いたいことが伝えられるように、ツールとして英語を学習する。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元
	1 学期 中間	Infinity Lesson 1 ・ Gnaw		2 学期 期末	Infinity Lesson 6, 7 ・ Gnaw ・ 学研オンライン英会話
	1 学期 期末	Infinity Lesson 2, 3 ・ Gnaw ・ 学研オンライン英会話		3 学期 学年末	Infinity Lesson 8, 9 ・ Gnaw ・ 学研オンライン英会話
	2 学期 中間	Infinity Lesson 4, 5 ・ Gnaw			
学習の 留意点・ 評価など		1. 教科書の内容を確実に吸収し、それらを「使える」力を養う。 2. 自宅学習では、各自のペースに合わせてワークブックや、オンライン教材も使用し、学習内容の定着を図る。 3. 授業内でも、学習した事を反復し、内容の定着を図る。			

教科名		外国語科	科 目 名		英 語
対象学年		中学 2 年	コース・選択等		――
単位数		6 単位	教 科 書 (出版社)		PROGRESS IN ENGLISH 21 Book 1, 2 (エデック) New Crown English Series II (三省堂)
使用教材		PROGRESS IN ENGLISH 21 Book 1, 2 WORKBOOK (エデック) Time Zones 2 (Cengage) Gakken スキル別トレーニング、オンライン英会話			
学習の ねらい		これまでに学んだ英語の語彙・文法を繰り返し復習しながら、「聞く」力や「読む」力を身につけるとともに、思考力やコミュニケーション能力の上達を目指し、「話す」力や「書く」力の定着を図る。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元
	1 学期 中間	PROGRESS Book 1 Lesson 16～17 Time Zones 2 (EE)		2 学期 期末	PROGRESS Book 2 Lesson 2～5 Time Zones 2 (EE)
	1 学期 期末	PROGRESS Book 1 Lesson 18～19 Time Zones 2 (EE)		学年末	PROGRESS Book 2 Lesson 6～10 Time Zones 2 (EE)
	2 学期 中間	PROGRESS Book 1 Lesson 20 PROGRESS Book 2 Lesson 1 Time Zones 2 (EE)			
学習の 留意点・ 評価など		1. 教科書の内容を確実に吸収し、それらを「使える」力を養う。 2. 自宅学習では、ワークブックやデジタル教材も使用し、学習内容の定着を図る。 3. 授業内で話す力、書く力を中心としたテストを行い、評価に加える。			

教科名		外国語科	科 目 名		英 語
対象学年		中学 3 年	コース・選択等		――
単位数		6 単位	教 科 書 (出版社)		PROGRESS IN ENGLISH 21 BOOK 2 (エデック) Watching NEWS (浜島書店) New Crown English Series 3 (三省堂)
使用教材		高校リード問題集 英文法ファーストステップ (教育開発) TIME ZONES 3 (Cengage) スキル別トレーニング (Gakken オンライン英会話)			
学習の ねらい		これまでに学んだ英語の語彙、文法の知識を繰り返し復習しながら、「聞く」力や「読む」力を身につけるとともに、コミュニケーションの場面を想定し、「話す」力や「聞く」力の定着を図る。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		学期・ 月等	単 元
	1 学期 中間	PROGRESS Lesson 11, 12 リード問題集 第 1 章、第 2 章、 第 3 章 TIME ZONES 3 (EE)		2 学期 期末	Watching NEWS リード問題集 第11章、第12章、 第20章 スキル別トレーニング TIME ZONES 3 (EE)
	1 学期 期末	PROGRESS Lesson 12, 13 リード問題集 第 4 章、第 5 章、 第 7 章 スキル別トレーニング TIME ZONES 3 (EE)		3 学期 学年末	Watching NEWS リード問題集 第13章、第15章、 第17章、第18章、 スキル別トレーニング TIME ZONES 3 (EE)
	2 学期 中間	PROGRESS Lesson 14, 15 リード問題集 第 6 章、第 8 章、第 9 章 スキル別トレーニング TIME ZONES 3 (EE)			
学習の 留意点・ 評価など		1. 教科書の内容を確実に吸収し、それらを「使える」力を養う。 2. 自宅学習では、各自のペースに合わせてオンライン教材も使用し、学習内容の定着を図る。 3. 授業内で話す力、書く力を中心としたテストを行い、評価に加える。			

教科名		外国語科	科 目 名	英語コミュニケーション I
対象学年		高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	Revised ELEMENT English Communication I (啓林館)
使用教材		Revised ELEMENT English Communication I Workbook Standard ELST (アプリ) 英単語ターゲット1900 (旺文社)、タンゴスタ (ターゲット練習用アプリ) (旺文社)		
学習の ねらい		外国語としての英語の 4 技能を向上させ、必要な語彙力のアップを目指す。 総合的なコミュニケーション能力の育成にむけた学習を行う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	1 学期	Lesson 1	Turning Over a New Leaf (文型、受動態、不定詞) 自分のことについて情報を伝え合う	
		Lesson 2	Love beyond Species (現在完了形、分詞) ペットに関する話題を通して意見交換を行う	
		Lesson 3	Contributing to Our Planet (関係代名詞、使役動詞) 身近な環境問題について解決策を話し合う	
		Lesson 4	Message for World Peace (過去完了形、知覚動詞) 平和維持活動に関する自分たちの意見交換を行う	
	2 学期	Lesson 5	Fashion and Sustainability (関係代名詞、関係副詞、比較) 衣服やファストファッションに関する意見を交換を行う	
		Lesson 6	Reaching Out to Others (関係詞、that節) 相手の話に対して興味があることを伝え合う	
		Lseeon 7	The Wonders of Language (関係副詞) オノマトペの歴史について伝え合う	
		Lesson 8	Passing Down Cultural Treasures (分詞構文 動名詞) 文化遺産に関する意見交換を行う	
	3 学期	Lseeon 9	Technology and Discoveries (形式主語) セレンディピティに基づく発明について研究する	
		Lseeon 10	Standing Up for Human Rights (仮定法、過去完了進行形) 人権や福祉について考え相手に伝える	
学習の 留意点・ 評価など		定期試験は、すべて学年統一問題とする。 学力確認テスト (9 月)、及び冬休み明けテスト (1 月) の範囲は、英単語・課題 (Elementワークブ ック)・応用 (実力問題) とする。 学力確認テストは英語コミュニケーション I 内、冬休み明けテストは論理表現 I 内の評価にそれぞ れ入れる。 出発テスト時の英単語テスト、学力確認テストは、英語コミュニケーション I の評価とする。 ELST、タンゴスタを用いて主体的に学習に取り組む態度を評価する。		
備 考				

教科名	外国語科	科 目 名	論理・表現 I
対象学年	高校 1 年	コース・選択等	必 修
単位数	2 単位	教 科 書 (出版社)	Revised Vision Quest English Logic and Expression I Standard (啓林館)
使用教材	Revised Vision Quest 論理・表現 I Standard WORKBOOK (啓林館) Vision Quest 総合英語4th Edition (啓林館)		
学習の ねらい	「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	単元名・ねらい
	1 学期	Lesson 1 (文の種類)	Let's have fun together! 会話の中で応答したり、理由を述べる文を学ぶ
		Lesson 2 (文型)	Do you have any ideas for the class recreation? 賛成・反対、意見を述べる文を学ぶ
		Lesson 3 (時制)	What did you do last weekend? 計画を立てたり、予定を述べる文を学ぶ
		Lesson 4 (完了形)	Have you ever played the guitar before? 自分の経験を述べ、人の経験を尋ねる文を学ぶ
		Lesson 5 (助動詞)	I'm interested in becoming a tour guide. 許可を求める、依頼する文を学ぶ
	2 学期	Lesson 6 (受動態)	I went to the new café yesterday. 喜び・驚きを表す文を学ぶ
		Lesson 7 (不定詞)	Thank you for your support during my stay. 感謝・謝罪・弁解する文を学ぶ
		Lesson 8 (動名詞)	What do you do to stay healthy? 提案・誘い・申し出をする文を学ぶ
		Lesson 9 (分詞)	Have you seen any interesting videos recently? 判断の根拠を述べる文を学ぶ
	3 学期	Lesson10 (関係詞)	It's a city where you can enjoy many kinds of food. 経緯を説明し、言い換えの仕方を学ぶ
		Lesson11 (比較)	I believe that poverty is the biggest problem in the world. 比較・分析する文を学ぶ
		Lesson12 (仮定法)	Climate change has been causing serious problems. 助言を求めたり、願望を表す文を学ぶ
学習の 留意点・ 評価など	定期試験は、すべて学年統一問題とする。 ELSTで英作文の課題を出す。(年間 5 回)		
備 考	出発テスト、学力確認テスト（9 月）は、英語コミュニケーション I の評価とする。冬休み明けテスト（1 月）の範囲は、英単語と実力問題とし、論理・表現 I の評価とする。		

教科名	外国語科	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ
対象学年	高校2年	コース・選択等	コースⅠ・必修
単位数	4単位	教科書 (出版社)	Landmark English CommunicationⅡ(啓林館)
使用教材	Vision Quest New English Grammar 24(啓林館) ELST(アプリ) 英単語ターゲット1900(旺文社)、タンゴスタ(ターゲット練習用アプリ)(旺文社)		
学習のねらい	外国語としての英語の4技能を向上させ、必要な語彙力のアップを目指す。 総合的なコミュニケーション能力の育成にむけた学習を行う。		
学習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	1 学期	Lesson 1	異文化理解と日本文化について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 文型と動詞
		Lesson 2	動物と環境について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 時制と完了形
		Lesson 3	職業と日本文化について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 助動詞
		Lesson 4	環境と職業観について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 受動態
	2 学期	Lesson 5	言語と歴史について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 不定詞
		Lesson 6	芸術と生き方について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 動名詞
		Lesson 7	平和と家族愛について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 分詞
		Lesson 8	歴史と環境について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 関係詞
	3 学期	Lesson 9	環境と生き方について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 比較
		Lesson 10	科学と共生について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 仮定法
学習の 留意点・ 評価など	学力確認テスト(9月)の範囲は、英単語・Reading 1・応用(実力問題)とする。 1月テストの範囲は、英単語・Reading 2・応用(実力問題)とする。 ELST、タンゴスタを用いて主体的に学習に取り組む態度を評価する。 Vision Questを使って文法の強化をはかる。		
備 考	学力確認テスト(9月)、1月テストの範囲にターゲットを含む。		

教科名	外国語科	科 目 名	英語コミュニケーションⅡ
対象学年	高校2年	コース・選択等	コースⅡ・Ⅲ 必修
単位数	コースⅡ 4単位 コースⅢ 3単位	教科書 (出版社)	ELEMENT English Communication Ⅱ (啓林館)
使用教材	ELEMENT English Communication Ⅱ Workbook Advanced ELST (アプリ) (数研) 英単語ターゲット (旺文社) 英熟語ターゲット (旺文社) タンゴスタ (ターゲット練習用アプリ) (旺文社)		
学習のねらい	外国語としての英語の4技能を向上させ、必要な語彙力のアップを目指す。 総合的なコミュニケーション能力の育成にむけた学習を行う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い
	1 学期	Lesson 1	「世界の文化」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 世界のコミュニケーションスタイルを学ぶことで、より円滑で豊かな国際コミュニケーション力を養う。 身に着けたコミュニケーション力を踏まえて、自国の文化や海外の文化について話したり書いたりすることができるようにする。
		Lesson 3	「固定観念」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 性差を表す色の変遷を記した文章を読み、今自分が信じていることも実は固定観念ではないかという気づきを得る。 固定観念と向き合い、話し合うことでより生きやすい社会について考える。
	2 学期	Lesson 5	「私たちの心のはたらき」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 私たちの日々の意思決定が、様々な要因で不合理に行われていることを知り、人間の意思決定の面白さについて学ぶ。
		Lesson 7	「医療技術の進歩」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 再生医療をめぐるどのような議論があるか、iPS細胞とは何か、どのように作られるか、それによって医療がどう変わるかを理解する。 医療技術の進歩に伴ってどんな変化が社会におとずれているかを知り、より幸せな社会を築くために大切なことは何かを考える。
	3 学期	Lesson 8	「小さな一歩、大きな影響」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 ガラスの歴史とガラスを用いた技術の進化に関する英文を読み、大きな視点から物事をとらえる面白さを知る。
学習の留意点・評価など	定期試験は、すべてコースⅡ・Ⅲ統一問題とする。 学力確認テスト(9月)の範囲は、英単語・英語表現・応用(実力問題)とする。 ELSTを用いて主体的に学習に取り組む態度を評価する。 ターゲットを使い単語・熟語力の強化を図る。		
備 考			

教科名	外国語科	科 目 名	論理表現Ⅱ
対象学年	高校2年	コース・選択等	Course I Compulsory
単位数	2単位	教科書 (出版社)	Applause English Logic and Expression II (Kairyudo)
使用教材	Q: Skills for Success 2- Listening & Speaking (Oxford), Applause English Logic and Expression II (Kairyudo), Teacher-generated worksheets.		
学習の ねらい	論理表現Ⅱ focuses on the four skills of English with the emphasis on speaking, writing and listening.		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	First Term	Q) Unit 2a, 2b A) Lessons 1-5 Opinion Essay: School Uniforms	Learn vocabulary and expressions relating to colors, nature and architecture. Listen to and understand dialogues on how color can be used in nature and architecture. Review and master grammar related to present, past and future tenses, auxiliary verbs, perfect tense and passive voice.
	Second Term	Q) Units 1a, 3b A) Lessons 6 – 10 Opinion Essay: Countryside v. City	Learn vocabulary and expressions relating to trends and social skills. Listen to and understand dialogues on changing trends and the importance of manners. Review and master grammar related to comparisons, gerunds, infinitives and participles.
	Third Term	Q) Unit 4a A) Lessons 11-14 Opinion Essay: Car v. Public Transport English Power Point Presentation	Learn vocabulary and expressions relating to technology and relationships. Listen to and understand dialogues on how technology affects our relationships. Review and master grammar related to relative clauses, subjunctive mood and other special constructions to express exceptional circumstances, purpose and reasoning.
学習の 留意点・ 評価など	Midterm Exams (Terms 1 and 2), Final Exams (Terms 1, 2 and 3). Speaking and writing tasks will be given throughout the year, which will be graded. Students are expected to participate in all class activities.		
備 考			

教科名	外国語科	科 目 名	論理・表現Ⅱ
対象学年	高校2年	コース・選択等	コースⅡⅢ・必修
単位数	2単位	教科書 (出版社)	Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Hope (啓林館)
使用教材	Vision Quest New English Grammar 24 (啓林館) ELST (サインウェーブ) ALL EARS STANDARD (美誠社) Bright Stage (桐原書店)		
学習の ねらい	一年時に習得した「話すこと (やり取り)」「話すこと (発表)」「書くこと」を中心とした統合的な 発信能力と、情報や考えを論理的に伝達する能力を更に発展させる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	内 容
	1 学期	【Grammar】 文の種類・文型・時制・完了形 助動詞・受動態 【ALL EARS STANDARD】 Lesson 1 ～ 8	【Grammar】 既習事項の確認と応用問題に取り組む 【ALL EARS STANDARD】 描写のアナウンスを通して要点をまとめる
	2 学期	【Grammar】 不定詞・動名詞・分詞・関係詞 【ALL EARS STANDARD】 Lesson 9 ～ 13	【Grammar】 既習事項の確認と応用問題に取り組む 【ALL EARS STANDARD】 対話、アナウンスを聞いて話の要点をまとめる
	3 学期	【Grammar】 比較・仮定法・否定・無生物主語・ 名詞構文・語法 【ALL EARS STANDARD】 Lesson 14 ～ 20	【Grammar】 既習事項の確認と応用問題に取り組む 【ALL EARS STANDARD】 少し長めの英文を聞き要点をまとめる
学習の 留意点・ 評価など	ELSTを利用する。 Bright Stageを用いた小テストを行う。 定期試験にリスニングも含めて評価する。		
備 考			

教科名	外国語科	科 目 名	英語コミュニケーションⅢ
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅠ・必修
単位数	４単位	教科書 (出版社)	Landmark English CommunicationⅢ（啓林館）
使用教材	Vision Quest New English Grammar Workbook 24 ELST（アプリ） 必携英単語LEAP（数研）		
学習の ねらい	外国語としての英語の４技能を向上させ、必要な語彙力のアップを目指す。 総合的なコミュニケーション能力の育成にむけた学習を行う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	１学期	Lesson 1	地域社会と地方創生について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 文型と動詞
		Lesson 2	人権と医療について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 時制と完了形
		Lesson 3	環境と科学技術について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 助動詞
		Lesson 4	心理と科学について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 受動態
	２学期	Lesson 5	社会問題と言語について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 不定詞
		Lesson 6	現代社会と生き方について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 動名詞
		Lesson 7	動物と科学について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 分詞
		Lesson 8	人生と生き方について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 関係詞
	３学期	Lesson 9	言語と文化について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 比較
		Lesson 10	環境と科学について書かれた英文を読み、内容を理解する。 Vision Quest 仮定法
学習の 留意点・ 評価など	学力確認テスト（９月）の範囲は、英単語・Reading 1・2）・応用（実力問題）とする。 ELSTを用いて主体的に学習に取り組む態度を評価する。 Vision Questを使って文法の強化をはかる。		
備 考	学力確認テスト（９月）の範囲は、LEAP 1416～1630を含む。		

教科名	外国語科	科 目 名	英語コミュニケーションⅢ
対象学年	高校３年	コース・選択等	コースⅡ・Ⅲ 必修
単位数	コースⅡ ４単位 コースⅢ ３単位	教科書 (出版社)	ELEMENT English Communication Ⅲ（啓林館）
使用教材	ELEMENT English CommunicationⅢ Workbook Advanced ELST（アプリ） 必携英単語LEAP（数研） 必携英語表現集（数研）		
学習の ねらい	外国語としての英語の４技能を向上させ、必要な語彙力のアップを目指す。 総合的なコミュニケーション能力の育成にむけた学習を行う。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	1 学期	Lesson 1	「エネルギー」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 各交通手段のエネルギー消費量や利便性を比較した説明文を読み、内容を理解する。
		Lesson 4	「人類と科学技術」をテーマに、様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 インターネットと記憶に関して異なる観点から書かれた２つの英文を読み比べ、共通する部分や異なる部分を整理して理解する能力を養う。
	2 学期	Lesson 6	「教育」をテーマに様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 どのようにすればより多くの利益を得られるかというスタンフォード大学で実際に行われた５ドルと２時間を元手にした授業の様子を読み取る。
		Lesson 10	「人のつながり」をテーマに様々な言語活動を通して資質・能力を養う。 マークがどのような生徒であり、クラスでどのような存在であったかを読み取り、その戦死が「私」やクラスメートたちにどのような影響を与えたのかを読み取る。
学習の 留意点・ 評価など	定期試験は、すべてコースⅡ・Ⅲ統一問題とする。 ELSTを用いて主体的に学習に取り組む態度を評価する。 Leap、必携英語表現集を使って単語・文法の強化を図る。		
備 考	夏休み明けに模試を行う。		

教科名	外国語科	科 目 名	論理表現Ⅲ
対象学年	高校3年	コース・選択等	Course I Compulsory
単位数	2単位	教科書 (出版社)	Applause English Logic and Expression III (Kairyudo)
使用教材	Q: Skills for Success 2- Listening & Speaking (Oxford), Applause English Logic and Expression III (Kairyudo), Teacher-generated worksheets.		
学習の ねらい	論理表現Ⅲ focuses on the four skills of English with emphasis on speaking, writing and listening.		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	First Term	A) Lesson 1-3 Q) Unit 5: Twins in the Family / Family History Research and Writing: CD vs.. Streaming Music	Review and master grammar related to the future tenses, expressions related to hopes and wishes, likes, dislikes, expressing one's opinion, and passive tense. Learn vocabulary and expressions relating to family and sustainability. Listen to and understand dialogues on different types of families and sustainable living.
	Second Term	A) Lessons 4-6 Q) Unit 6,7: Adults and Games / High Rise Living Research and Writing: Books vs. E-readers	Review and master grammar related to requests, favors, appreciation, regret, concern, complaint, and apology Learn vocabulary and expressions relating to technology, pollution and environmental issues. Listen to and understand dialogues on ocean pollution and the importance of natural resources.
	Third Term	A) Lesson 7-8 Q) Unit 8	Review and master grammar related to order (順 番) direction, magnitude (倍数) present continuous tense, and relative clauses. Learn vocabulary and expressions relating to hygiene, water supply, water pollution and desertification.
学習の 留意点・ 評価など	Midterm Exams (Terms 1and 2), Final Exams (Terms 1, 2 and 3) English essay writing tasks will be given throughout the year, which will be graded. Students are expected to participate in all class activities.		
備 考			

教科名		外国語科	科 目 名	論理表現Ⅲ
対象学年		高校３年生	コース・選択等	コースⅡⅢ（必修）
単位数		２単位	教 科 書 （出版社）	Vision Quest English Logic and Expression Ⅲ （啓林館）
使用教材		Clover 英文法・語法ランダム演習（数研出版） Listening Essentials 3（啓隆社） Clues to Reading（数研） Bright Stage（桐原書店）		
学習の ねらい		英語の構文を十分に理解し、文法的決まりや語彙の理解を深めていくと共に、４技能の向上にも役立てる。習った構文を用いて、自分自身のことや身のまわりのことを表現できるようになる。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	内 容	備 考
	４月 ～ ５月	Lesson 1	Friendship and improvement	I can write about the solution to the problems.
		Lesson 2	Which is better, a paper or an electric dictionary ？	I can make a presentation about everyday life.
		Lesson 3	Can you change your personality?	I can write about what influences a person's personality.
		Lesson 4	How do we make decisions?	I can write a report about how decisions are made.
	６月 ～ ７月	Lesson 5	Online doctor consultations	I can write a paragraph about the benefits of online doctors.
		Lesson 6	Healthy lifestyle	I can write a message about how decisions are made and how I make decisions.
		Lesson 7	What do you do after school?	I can write opinions about the issues surrounding myself.
		Lesson 8	Direct and indirect ways pf communication	I can write a report about my thoughts on Japanese culture.
	９月 ～ １０月	Lesson 9	Should we use social media?	I can write a report about social media.
		Lesson 10	Are you a good user of social media?	I can write comments on difficult situations.
		Lesson 11	Lifetime emplyment or career changes?	I can write about social issues.
		Lesson 12	Diversity in the workplace	I can make a report about social diversity.

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	内 容	備 考
	11月 ～ 12月	Lesson 13	The rise of the cashless society	I can make a speech evaluating the existing payment systems.
		Lesson 14	The gap is widening.	I can make a speech about possible solutions to social inequality.
		Lesson 15	What can we do to solve global warming?	I can make a presentation about the causes and solutions of global issues.
		Lesson 16	Saving the earth from plastic waste	I can make a speech about what we can and should do to achieve SDGs.
		Lesson 17	Innovations in machine transformation	I can have a debate in class about whether machine translations can replace human translators.
学習の 留意点・ 評価など		宿題への取り組みや授業態度等、すべて評価に考慮される。 ELSTを通してライティングの練習を行う		
備 考				

教科名	外国語科	科 目 名	CULTURE
対象学年	高校 3 年	コース・選択等	コース I (A 2)
単位数	2 単位	教 科 書 (出版社)	World Adventures (Kinseido)
使用教材	World Adventures (Kinseido), worksheets		
学習の ねらい	This course aims to cultivate internationally-minded individuals who can communicate effectively in English about a variety of cultural topics. In today's global society, it is essential to not only understand one's own culture, but also possess knowledge of diverse cultures around the world, and be able to act with consideration of cultural differences. This course deepens international understanding by learning about various cultures in English. Students will also learn about Japanese culture in English and acquire the skills to spread traditional culture to the world.		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い
	Term 1	Asian Culture	Learn about various parts of culture, focusing on the Asian countries of India, Thailand and Korea. Build an understanding of vocabulary related to the topics of religion, tourism and world heritage sites. Listen to and understand monologues that introduce information on Asian culture. Use written and spoken English to show understanding and share opinions.
	Term 2	Japanese and Australian Culture	Learn about various parts of Japanese and Australian culture. Build an understanding of vocabulary related to the topics of housing, clothing, cuisine and art. Use written and spoken English to explain Japanese culture to non-Japanese people.
	Term 3	European Culture	Learn about various parts of culture, focusing on the European countries of France and Denmark. Build an understanding of vocabulary related to the topics of cuisine and celebrations. Listen to and understand monologues that introduce information on European culture. Use written and spoken English to show understanding and share opinions.
学習の 留意点・ 評価など	The aim is to not only develop cultural knowledge, but also cultivate global citizens who can communicate effectively in English. Information will be input through English learning materials, followed by emphasis on output activities. In addition to three written tests, speaking and writing tasks will also be evaluated. Students are expected to participate in all class activities.		
備 考			

教科名		外国語科	科 目 名	フランス語
対象学年		高校3年	コース・選択等	選 択
単位数		2単位	教科書 (出版社)	駿河台出版社
使用教材		タルト・タタン		
学習の ねらい		フランス語の入門クラス。発音と会話表現を中心に学ぶ。またフランスの文化と歴史も随時学ぶ。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元		ねらい・内容
	4月	アルファベと綴り字の読み方／ 第1課 自己紹介と動詞être		フランス語の発音はとても特徴的なので、楽しみながら何度も発音して身につける。
	5月	第2課 名詞・不定冠詞・形容詞		
	6月	第3課 -er動詞・疑問文 第4課 動詞avoir・否定文		
	7月	第5課 動詞allerとfaire・近接未来		
	9月	第6課 疑問形容詞・所有形容詞・動詞pouvoir 第7課 疑問詞・定冠詞の縮約		
	10月	第8課 動詞vouloir・prendre・部分冠詞 第9課 動詞venir・ir動詞・代名詞		
	11月	第10課 複合過去・中性代名詞 第11課 半過去・動詞savoir・connaître		
	12月	第12課 非人称構文・代名動詞		
	1月	第13課 比較級・最上級		
学習の 留意点・ 評価など		視聴覚資料などを用いて授業を行う。定期テストの成績と提出物や授業態度なども評価に加える。		
備 考				

教科名		外国語科	科 目 名	韓国・朝鮮語	
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（A3）	
単位数		2単位	教科書 (出版社)	ひかりとシフのどきどき韓国語	
使用教材		ひかりとシフのどきどき韓国語			
学習の ねらい		ハングルの正確な発音と基礎的な文法知識を習得する。また、簡単な日常会話を覚え、韓国文化への理解を深める。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点	
	1 学期	ハングルの基本音節表	文字と正確な発音を覚える。	大きな声で発音練習をし、文字を覚える。	
	4 月	韓国語の特徴、基本母音 挨拶の表現	日本語との違い、または類似点について学習する。		
	5 月	基本子音（1） 基本子音（2） 自己紹介	文字と発音を練習し、単語を覚える。		
	6 月	基本子音（3）、濃音 お礼の表現			
	7 月	二重母音 パッチム（1） お店で使うの表現（1）			
	2 学期				
	9 月	パッチム（2） お店で使うの表現（2）	発音の規則について学ぶ。 (連音法則、硬音化、激音化、黙音化、鼻音化)		
	10月	パッチム（3） 時の表現			
	11月	発音の復習、発音規則			
	12月	助詞、返事の表現			
	3 学期				
	1 月	発音規則、代名詞			
	2 月	語尾の活用、疑問の表現			
学習の 留意点・ 評価など		生徒が自ら進んで学習するように、視聴覚資料などを用いて授業を行う。 定期テストの成績と提出物や授業態度等も評価に加える。			
備 考					

教科名		外国語科	科 目 名	中 国 語
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	選 択
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	好文出版
使用教材		ダイアログ23+		
学習の ねらい		中国語の正確な発音と基礎的な文法知識を習得する。また、簡単な日常会話を覚え、中国文化への理解を深める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ねらい・内容	
	4 月	中国語の特徴 基本母音と子音	日本語との違い、または類似点に比較し、発音を覚える。	
	5 月	挨拶の表現 1		
	6 月	基本の語順を学ぶ		
	7 月	反復疑問文を学ぶ		
	9 月	数字、年齢、時刻の言い方		
	10月	主述述語文、疑問詞に関する		
	11月	様態補語に関する		
	12月	動量補語、前置詞に関する		
	1 月	助動詞のいろいろ		
学習の 留意点・ 評価など		視聴覚資料などを用いて授業を行う。定期テストの成績と提出物や授業態度なども評価に加える。		
備 考				

教科名		外国語科	科 目 名	英語演習A	
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅡ、Ⅲ（選択B2，C2）	
単位数		3単位	教科書 (出版社)		
使用教材		SPRINT 4（文英堂）（以下SP） 共通テスト英語40分プレノート（数研出版）（以下共テプレ） Cutting Edge Blue（EMILE）（以下CE）			
学習の ねらい		国公立大学入試二次試験や難関私立大学で実際に出題された長文問題や共通テスト対策問題に取り組み、難関大学入試を突破できる確かな英語力をつける。読解だけでなく聴く力、表現する力も同時に高められるよう、教材に多面的にアプローチし、総合的な英語力の向上に努める。			
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い		留意点
	4月 ～ 5月	SP Unit 1,3～6 CE Chapter 1～3	読解、文法、表現、リスニングなどの問題に取り組み、総合的な英語力をつける。		
	6月 ～ 7月	SP Unit 7～10 CE Chapter 5～7 共テプレ1～2	読解、文法、表現、リスニングなどの問題に取り組み、総合的な英語力をつける。共通テスト対策の問題集に取り組み、速読力を養成する。		
	9月 ～ 10月	SP Unit 11～13 CE Chapter 8～10 共テプレ3～4	読解、文法、表現、リスニングなどの問題に取り組み、総合的な英語力をつける。共通テスト対策の問題集に取り組み、速読力を養成する。		
	11月 ～ 12月	CB Unit 14, 15 CE Chapter 13～18 共テプレ5～10	読解、文法、表現、リスニングなどの問題に取り組み、総合的な英語力をつける。共通テスト対策の問題集に取り組み、速読力を養成する。		
学習の 留意点・ 評価など		定期テストで成績を決定する。 大学入試を意識したListeningとReadingの実践力を育む。			
備 考					

教科名		外国語科	科 目 名	英語演習 C
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コースⅡ（選択B4）
単位数		3 単位	教 科 書 (出版社)	Move Up Standard（文英堂） 共通テストドリル 英語リスニング 10minutes（Z-KAI）
使用教材		Move Up Standard（文英堂）. 共通テストリスニング 実戦30min.×8（エミル出版） パワーマックス共通テスト英語リスニング×8（Z-KAI）		
学習の ねらい		様々なテーマの英文に触れ、受験に必要なリスニング力、リーディング力をつける。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月 ～ 5 月	共通テストドリル 英語リスニング 10minutes 第 1 回～第 7 回	共通テスト対応力をつける	
		Move Up Basic Step 1～Step 4	文構造に着目させ長文読解力をつける	
	6 月 ～ 7 月	共通テストドリル 英語リスニング 10minutes 第 8 回～第14回	共通テスト対応力をつける	
		Move Up Basic Step 5～Step 9	文構造に着目させ長文読解力をつける	
	9 月 ～ 10月	共通テストドリル 英語リスニング 10minutes 第15回～21回	共通テスト対応力をつける	
		Move Up Standard Step 10～Step 14	文構造に着目させ長文読解力をつける	
	11月 ～ 12月	共通テストドリル 英語リスニング 10minutes 第22回～第25回	共通テスト対応力をつける	
		Move Up Standard Step 15+ Review 1～5	文構造に着目させ長文読解力をつける	
	学習の 留意点・ 評価など		大学入試を意識したListeningとReadingの実践力を育む。 英語を英語のまま理解することを意識したトレーニングを行う。 シャドーイング練習を多くすることにより、リスニング力増強につなげる。	
備 考				

教科名		外国語科	科 目 名	英語資格講座
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	選 択
単位数		2 単位	教 科 書 (出版社)	コア表現トレーニング（旺文社）/ Interactive 4skills（旺文社）
使用教材		コア表現トレーニング（旺文社） / Interactive 4skills（旺文社）		
学習の ねらい		4 技能をバランス良く身につけ、英語の総合的な運用能力をアップさせる。学んだ内容のアウトプットの場として検定や資格の受験を勧める。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	教科書名	単 元 名	内 容
	1 学期	Interactive 4skills	UNIT 1 ～ 4	4 技能演習
		コア表現トレーニング	UNIT 1 ～ 2	イラスト描写問題や自分のことを述べる 問題の解き方を学ぶ
	2 学期	Interactive 4skills	UNIT 5 ～ 8	4 技能演習
		コア表現トレーニング	UNIT 3 ～ 4	質問・応答問題や客観的な意見を述べる 問題の解き方を学ぶ
	3 学期	Interactive 4skills	UNIT 9 ～10	4 技能演習
		コア表現トレーニング	UNIT 5	情報の読み取り問題の解き方を学ぶ
学習の 留意点・ 評価など		成績評価は行わない。 金城学院大学の教授より年間 2 回のスポット授業（講義）が行われる。（7 月・12 月）		
備 考				

教科名		情報科	科目名	情報 I
対象学年		高校 2 年	コース・選択等	全コース
単位数		2 単位	教科書 (出版社)	高等学校 情報 I (数研出版)
使用教材		①教科書 ②高等学校 情報 I サポートノート (数研出版) ③基礎からはじめる情報リテラシー Office2019対応 (実教出版) ④Python入門 プログラミングの基礎から応用まで (東京書籍)		
学習のねらい		情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させるとともに、情報モラルを踏まえて適切に判断し表現することができる考え方を習得させ、情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。ICTを問題解決に利用できる知識、技術を習得する。		
1 学期 学習 内容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	4 月	オリエンテーション・生成AI実習 第 1 編 第 1 章 情報とメディア A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決	・実際に生成AIを利用することで、利用方法について考える。 ・「情報」とは何かを理解させる。 ・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けさせる。	・クロスチェックの重要性を理解させる。 ・情報の表現形式の変換により、失われたりつけ加わったりする情報を、写真から文章などの変換事例を挙げて考えさせる。 ・問題解決のプロセスを理解させる。
		第 4 編 第 2 章 データベース A データベース B さまざまな情報システム	・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。	・情報システムが使われている身近なサービスについて、どんな情報がどのように処理されているか理解させる。
		<u>実習 (Excel)</u>	Excelの基本操作技術を習得し、活用する能力を身に付けさせる。	③の教材を使用する。
	5 月	第 3 章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集と整理 C データの分析 1 D データの分析 2	・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。 ・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。	・データ分析の方法を習得させるとともに、得られた結果からどのようなことがわかるか考えさせる。
		第 2 編 コミュニケーションと情報デザイン 第 3 章 情報デザイン A 情報を表現する方法	・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させる。	・伝えたい情報をわかりやすく表現するために必要な知識と技術を習得させる。
		<u>実習 (Excel)</u>	統計グラフの作成と発表	自ら設定したテーマで統計グラフの作成を行い、発表を行う。

	学期・月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	6 月	第1編 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用	・人工知能など、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。	・インターネット依存症に関連し、自身の1日のインターネットの利用時間を見直す活動を取り入れる。 ・望ましい情報社会の在り方について考えたり、情報社会をよりよくする方法について提案したりする活動を取り入れる。
		第2章 情報社会における法とセキュリティ A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策の技術 F 情報セキュリティ対策への意識	・情報社会で生きるために、法規や個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報セキュリティの重要性とセキュリティ対策の方法を理解させる。	・知的財産権にかかわる具体的な事例を通して理解させる。 ・情報セキュリティに関しては、パソコンだけでなく、スマートフォン等に関しても注意を喚起する。 ・二段階認証、ファイアウォールなどのセキュリティ対策の具体例を学ばせる。
		Excel実技テスト		
	7 月	実習（プログラミング）	プログラミングの記述の仕方を習得し、活用する能力を身に付けさせる。	④の教材を使用する。
2 学期 学 習 内 容 と 流 れ	9 月	第3編 コンピュータとプログラミング 第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法1 D プログラミングの方法2 E プログラミングの方法3	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。	・簡単なプログラムの作成を通してアルゴリズムの基本を理解させる。 ・アルゴリズムとプログラムの作成を通して、効率的なアルゴリズムの重要性について考えさせる。
	10月	第3章 モデル化とシミュレーション A モデル化 B シミュレーション C 乱数を使うシミュレーション	・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させる。	・モンテカルロ法や待ち行列などシミュレーションの実習を行う。
	11月	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第1章 情報のデジタル表現 A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像のデジタル表現 F データの圧縮	・情報のデジタル化の基礎的な知識と、アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。 ・ビットの概念や2進法の表現、また、それぞれのデジタル化の原理と表現方法を理解させる。	・デジタル化によるメリットやデメリットを対比させながら説明する。 ・デジタル化により、情報を劣化させずに処理が容易にできることを理解させる。 ・2進法、10進法の関係を正しく理解させる。

3 学 期 学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
		<u>実習（プログラミング）</u>	プログラミングの記述の仕方を習得し、活用する能力を身に付けさせる。	④の教材を使用する。
		<u>プログラミング実技テスト</u>		
	12月	第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ C コンピュータでの数値の内部表現	・コンピュータで扱う数値の特徴について理解させる。	・コンピュータで扱う数値の特徴について、そのしくみを理解させる。
		<u>実習（プログラミング）</u>	プログラミングの記述の仕方を習得し、活用する能力を身に付けさせる。	④の教材を使用する。
	1月	第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 A 通信とその進展 B 情報の発信とメディアの性質	・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。	・身近なコミュニケーション手段を取り上げ、情報通信技術の進展がコミュニケーション手段を変化させてきたことを理解させる。 ・メディアやコミュニケーション手段を目的や状況に応じてどのように選択するかを考える活動を取り入れる。
		第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B 論理回路	・コンピュータや外部装置やソフトウェアの基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・コンピュータで扱う情報の特徴とコンピュータの能力との関係について理解させる。	・CPU、記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎などについて、できるだけ実物を扱いながら、そのしくみを理解させる。
	2月	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ A コンピュータネットワーク B パケット通信 C 通信の信頼性 D IPアドレスとドメイン名 E WWWのしくみとURL F 情報の暗号化	・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。 ・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。 ・目的に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択や情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。	・ハブやルータなどの機器やLAN接続の形態などについて理解させる。 ・パケット通信の原理とメリット、通信の信頼性を確保する方法について理解させる。 ・電子メールやウェブサイトなどインターネットの基本的なしくみを理解させる。
		第2編 コミュニケーションと情報デザイン 第3章 情報デザイン B ユニバーサルデザイン C プレゼンテーション	・伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせる。 ・コミュニケーション手段の1つとしてプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解し、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。	・バリアフリーやユニバーサルデザインの重要性を認識させる。 ・プレゼンテーションの実習では、生徒どうしで相互評価させ、改善させる場面も取り入れる。

学期・ 月等	単 元	ね ら い	留 意 点
	<u>実習（プログラミング）</u>	プログラミングの記述の仕方を習得し、活用する能力を身に付けさせる。 I コースはscratchでゲーム作成を行う。	④の教材を使用する。 プリント
学習の 留意点・ 評価など	コンピュータの操作の習得を目的とするのではなく、現代社会で役立つ情報活用能力の育成と情報社会を正しく生き抜く力を育成する。 評価については、定期テスト「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点に分け出題する。実技テストは20点満点とし、「思考・判断・表現」で評価する。「主体性」は提出物20点満点と授業態度で評価する。		
備 考			

教科名		情 報 科		科 目 名		情 報		
対象学年		高校2年		コース・選択等		コースⅠ 選択（2選－2）		
単位数		2単位		教科書 （出版社）		図解まるわかり データベースのしくみ（翔泳社）		
使用教材		教科書・プリント						
学習の ねらい		今日、情報化が進む中で多くのデータを扱ったり管理したりすることで、企業の売り上げにつなげるということが増えている。その膨大なデータを整理して活用するためのシステムにデータベースがある。本授業では、データベースを操作するための言語であるSQLを習得し、データベースにデータを挿入したり検索したりできるようにする。そして、データベースを用いてデータの分析を行う。						
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等		単 元		ね ら い		留意点	
	1 学期	4 月	オリエンテーション					
			Lesson1-1 データベースの基礎を知る		データベースとは何かを理解し、有用性を確認する。			
		5 月	データベース実習支援ツールsAccess		POSレジのしくみをExcelを用いて理解する。データベース実習支援ツールsAccessを活用して、データの分析ができるようになる。		sAccessを使ったデータの分析の小テストを実施する。	
		6 月	Lesson1-3 実習用データベースを作成する		データベースの基本操作を習得する。			
		Lesson1-4 表を作成してデータを登録する		データベースにデータを登録する方法を習得する。				
	7 月	Lesson2-1 無条件でデータを検索する		条件を指定せずにデータを検索する方法を習得する。				
	2 学期		Lesson2-2 条件に該当するデータを検索する		「等しい／等しくない」「大きい／小さい」「以上／以下」という条件を指定して検索する方法を習得する。			
		9 月	Lesson2-3 複数の条件を指定してデータを検索する		AND、OR、NOTという論理演算子を使って、複数の条件を指定したり、条件の否定を検索する方法を習得する。			
			Lesson2-4 あいまいな条件でデータを検索する		ワイルドカードを使って、あいまいな条件で検索する方法を習得する。			
		Lesson3-1 データを大きい順や小さい順で表示する		検索結果を値の大きい順や小さい順で整列して取得する方法を習得する。				
10月		Lesson3-2 平均値や最大値を求める		データの平均値や最大値を求めるための関数を習得する。				
		Lesson3-3 社員表と部署表を結合する		表と表を結合してデータを取得する方法を習得する。				

学期・月等		単元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	11月	Lesson3-4 データをグループ化する	データを検索した後で、データをグループ分けする方法を習得する。	教科書で扱ったSQLの操作に関する小テストを実施する。
		Lesson4-1 ビューを使う	SELECT命令を使ったSQL文に名前を付けてデータベースに保存したビューを使いこなせるようになる。	
		Lesson4-2 サブクエリを使う	SQL文の先頭ではない場所でSELECT命令を使う方法を習得する。	
		Lesson5-1 データの登録	INSERT命令を使ってデータを登録できるようにする。	
3 学期	12月	Lesson5-2 データの更新	UPDATE命令を使ってデータを更新できるようにする。	
	1 月	Lesson5-3 データの削除とトランザクション処理	DELETE命令を使ってデータを削除できるようにする。	
	2 月	SQLの活用 1. クロス集計 2. デシル分析 3. バスケット分析 4. 時系列分析	SQLの活用として、ビジネスデータ解析でよく使われる手法を体験する。	
学習の留意点・評価など		<定期テスト> 100点満点、記述式、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点に分けて出題する。 <小テスト> 20点満点、実技テスト（コンピュータを使ったテスト）、「知識・技能」に加算する。 <主体性> 定期テストや小テスト、提出物（30点満点）、授業態度で評価する。		
備 考				

教科名	情報科		科目名	情報Ⅱ
対象学年	高校3年		コース・選択等	コースⅠ 選択（A2）
単位数	2単位		教科書 （出版社）	情報Ⅱ（東京書籍）
使用教材	教科書 情報Ⅱ学習ノート（東京書籍）			
学習のねらい	Society5.0の社会を生き抜くうえでの必要な資質・能力を身に付ける。具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用するための知識と技能を身に付ける。適切かつ効果的、創造的に活用する力を養い、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を養う。			
学習内容 と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期	4月	オリエンテーション 実習 生成AIを使ってみよう	・実際に生成AIを利用することで、利用方法について考える。
			理論編 3章 データサイエンス 07 社会にあふれるデータ 08 データベースの管理と制作	・多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し、目的に応じた適切なデータの収集や整理、整形について理解し技能を身に付けるとともに、目的に応じて、適切なデータを収集し、整理し、整形する。
		5月	実習編 3章 データサイエンス 13 データを地図上に可視化する 14 ガチャは何回引けば当たるのか	・データの収集方法を確認するだけでなく、情報の表現方法を体験する。 ・シミュレータを作成してシミュレーションすることができるようになる。
		6月	理論編 3章 データサイエンス 09 データの収集と整理 10 データの分析と分類 11 モデルの評価と検証	・データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法について理解し技能を身に付けるとともに、将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために適切なモデル化や処理、解釈・表現を行う。 ・データ処理の結果を基にモデルを評価することの意義とその方法について理解し技能を身に付けるとともに、モデルやデータ処理の結果を評価し、モデル化や処理、解釈・表現の方法を改善する。
		7月	実習編 3章 データサイエンス 16 キーボードの配列を研究しよう 17 星座ランキングを分析しよう	・クラスタリングを経験し、考察することができる。

学期・月等		単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	2 学期	9 月 理論編 1 章 情報社会 01 情報社会の進展と情報技術 02 コミュニケーションの多様化 03 人間の知的活動への影響	・ 情報技術の発達の歴史を踏まえ、情報社会の進展について理解するとともに、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察する。 ・ 情報技術の発達によるコミュニケーションの多様化について理解するとともに、そのような社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察する。 ・ 情報技術の発達によるコミュニケーションの多様化について理解するとともに、人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察する。	
		実習編 1 章 情報社会 01 うわさの研究	・ うわさやデマについて考え、騙されないための力を身に付ける。	
		10 月 理論編 2 章 コンテンツ 04 メディアの特性と利用 05 コンテンツの制作 06 コンテンツの発信	・ 多様なコミュニケーションの特徴とメディアの特性との関係について理解するとともに、目的や状況に応じて、コミュニケーションの形態を考え、文字、音声、静止画、動画などを選択し、組み合わせを考える。 ・ 文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作する技能を身に付けるとともに、情報デザインに配慮してコンテンツを制作し、評価し改善する。 ・ コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解するとともに、その際の効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し改善する。	
		実習編 2 章 コンテンツ 05 プログラムで絵を描こう 06 3Dの新製品の開発をしよう 11 月 07 キャラクターを動かそう 08 楽しく体を動かそう	・ 実装したお絵かきソフトや3DCGソフトウェアの使い方を習得し、活用する能力を身に付ける。 ・ 3DCGにアニメーションをつける方法を習得し、活用する能力を身に付ける。 ・ マイコンボードでプログラミングを行い、オリジナルコンテンツを制作する。	
学 習 内 容 と 流 れ	3 学期	12 月 理論編 4 章 情報システム 13 情報システム 14 情報セキュリティ技術	・ 情報システムにおける、情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術について理解するとともに、それらによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察する。	

学習内容 と流れ	学期・月等		単 元	ね ら い	留意点
	1 月		実習編 4 章 情報システム 22 テキストマイニングしてみよう	・ テキストマイニングを経験し、分析することができる。	
			理論編 4 章 情報システム 15 情報システムの設計 16 情報システムのプログラム	・ 情報システムの設計を表記する方法、設計、実装、テスト、運用等のソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解するとともに、情報システムをいくつかの機能単位に分割して制作し統合するなど、開発の効率や運用の利便性などに配慮して設計する。 ・ 情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付けるとともに、これを制作し、その過程を評価し改善する。	
			実習編 4 章 情報システム 23 掲示板システムを作ろう	・ 掲示板システムを作成し、情報システムについての理解を深める。	
学習の留意点・評価など			作品制作	・ ここまでに習得したことを使って、自由に作品を制作する。	
	<定期テスト> 100点満点、記述式、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点に分けて出題する。 <平常点> 30点満点（最終的に30点満点になるように調整）、提出物で評価する。				
備 考					

教科名		情 報 科	科 目 名	Webデザイン資格講座
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（選択A5）
単位数		2単位	教科書 （出版社）	画像情報教育振興協会
使用教材		入門Webデザイン（Webデザイナー検定ベーシック対応）		
学習のねらい		現在、Webから発信される情報は私たちにはなくてはならないものになっている。本授業では、Webページ制作に必要なデザイン、HTMLやCSSの基礎知識を体系的に学ぶことで、情報発信者に必要な技術と知識を身につける。また、本授業は、Webデザイナー検定（ベーシック）（CG-ARTS協会）に対応しており、合格をめざす（受験は任意）。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
	4月10日	オリエンテーション	本授業のねらいを理解する	40分短縮
	4月17日	Webデザインへのアプローチ	Webサービスの成り立ちと種類を知る	
	4月24日	Webデザインへのアプローチ	Webサイトの制作フローの全体を外観する	
	5月1日	コンセプトと情報設計	コンセプトと情報設計について知識を深める	
	5月8日	デザインと表現手法	文字、色の種類と効果について知る	
	5月15日	デザインと表現手法	画像、インフォグラフィックスについて知る	
	5月29日	デザインと表現手法	ナビゲーションの種類と効果について知る	
	6月5日	デザインと表現手法	レイアウト、インタラクションについて知る	
	6月12日	Webページを実現する技術	HTMLの基礎を理解する	
	6月19日	Webページを実現する技術	CSSの基礎を理解する	
	7月10日	Webページを実現する技術	Webページの制作を行う	
	9月4日	復習	今まで学んだことの復習を行う	
	9月11日	Webページを実現する技術	Webページの制作を行う（つづき）	
	9月25日	Webページの動的表現	JavaScriptの基礎を理解する	
	10月2日	Webサイトの公開と運用	テスト、公開、評価、運用の流れを理解する	40分短縮
	10月16日	情報セキュリティ	情報セキュリティの基礎を理解する	
	11月6日	知的財産権	知的財産権に関する基本的な考え方と、著作権について理解する	
	11月13日	Webデザイナー検定・過去問	過去問に取り組む	
	11月20日	自由課題	今まで学んだ知識を活用しながら、Webページの制作を行う。1/22に制作したWebページの評価と振り返りを行う。	
12月4日	自由課題			
12月18日	自由課題			
1月8日	自由課題			
1月15日	自由課題			

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
	1月22日	発表		
学習の留意点・評価など	授業出席基準を満たせば単位認定をする。 課題、発表、学習態度を総合して評価する。			
備 考	CG-ARTS Webデザイナー検定 後期試験日程：11/29（受験は任意）			

教科名		情 報 科	科 目 名	情報基礎講座
対象学年		高校 3 年	コース・選択等	コース I （A 5 選択）
単位数		2 単位	教 科 書 （出版社）	日本情報処理検定協会
使用教材		情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集 3・4 級編 情報処理技能検定試験（表計算）模擬問題集 2・準 2 級編		
学習の ねらい		情報処理技能検定試験 2 級・準 2 級を目指す。（受験は任意） 企業の職場で求められている職務遂行上の課題や問題を、自身が有する知識や技能を発揮して解決 することができる能力の育成する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	
	4 月 5 月	オリエンテーション	社会で求めれれている能力を理解する。	
		・文章入力スピード認定模試問題 ・情報処理技能検定試験 3・4 級模擬問題	ICT活用する上で、基本であるタイピング速度を 向上させる。 練習問題に取り組むことで、合格点を取るための スキルを身につける。	
	6 月 7 月	・文章デザイン検定模試問題 ・情報処理技能検定試験 2・準 2 級模擬問題	ビジネス文書の作成を行わせることで、レイアウトや体裁の整え方を学習させる。 また、練習問題に取り組ませることで、合格点を 取得するためのスキルを身につけさせる。	
	9 月	情報処理機能検定 受験対策		
	10月	情報処理機能検定試験（1 回目）		
	11月	情報処理機能検定 受験対策		
	12月	情報処理機能検定試験（2 回目）		
	1 月	プレゼンテーション作成検定模試問題	模試問題に取り組ませることで、実践的な資料作成スキルを身につけさせる。	
学習の 留意点・ 評価など		模擬問題、提出作品から観点別評価（A B C）で評価する。		
備 考		情報処理技能検定試験 2 級・準 2 級を目指す。（受験は任意） 金城学院大学の講師による講演会（2 回）		

教科名		情 報 科		科 目 名		情 報 I	
対象学年		高校 3 年		コース・選択等		コースⅡ・Ⅲ 選択（B2・C2）	
単位数		1 単位		教 科 書 （出版社）		2027実戦攻略「情報Ⅰ」大学入学共通 テスト問題集（実教出版）	
使用教材		教科書 高等学校 情報Ⅰ（数研出版） 高等学校 情報Ⅰ サポートノート（数研出版）					
学習の ねらい		問題演習を通して、大学入学共通テストや私大入試に対応する力を身に付ける。					
学 習 内 容 と 流 れ	学期・月等		単 元		ね ら い		留意点
	1 学期	4 月	オリエンテーション 第 3 章 コンピュータとプログラ ミング ・論理回路 ・モデル化とシミュレー ション		2 年次の情報Ⅰで扱うことのできな かった論理回路について理解する。		必要に応じてコ ンピュータ室で 実習を行う
		5 月	・フローチャート ・プログラミング		2 年次の情報Ⅰで学習した内容を復習 し、入試問題にも対応できる力を身に 付ける。		
		6 月	・ソート		2 年次の情報Ⅰに扱うことのできな かったソートを重点的に扱い、理解を 深める。		
	2 学期	7 月	・プログラミング（発展）		さいころの確率やランダムウォークな どの発展的な内容を扱い、1 学期に学 習した内容の総まとめを行う。		
		9 月	第 4 章 情報通信ネットワーク とデータの活用 ・ネットワーク ・メールの送受信の仕組み		ネットワークの仕組みなどの理解を深 める。		
		10 月	・データの分析		データの分析の問題に重点的に取り組 み、入試問題にも対応できる力を身に 付ける。		
		11 月	第 2 章 コミュニケーションと 情報デザイン ・デジタル化		デジタル化の理解を深める。		
	3 学期	12 月	実戦演習		大学入学共通テストに向けた実戦演習 を行い、入試本番に備える。		
	学習の 留意点・ 評価など		1・2 組合同で評価する。主に定期テストで評価する。 定期テストは、100 点満点、記述式、「知識・技能」「思考・判断・表現」の 2 観点に分けて出題する。 毎週、基本事項の確認のための課題を与え、評価に加える。				
備 考							

教科名	Dignity	科目名	Dignity
対象学年	中学1年	コース・選択等	——
単位数	2単位	教科書 (出版社)	
使用教材	言葉のワークブック2（つくば言語技術研究所） 探究スタートアップ（JTB）		
学習のねらい	①社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ②自分の気持ちや考え方を認識し、分析することで自分のモノの見方・考え方を発見する。 ③パラグラフライティングの基本を習得する。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい・留意点
	1学期	SEEラーニング リフレクションの手法 言語スキル	・社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ・自分の気持ちや考え方を認識し、分析することで自分のモノの見方・考え方を発見する。 ・パラグラフライティングの基本を身につける。
	2学期	SEEラーニング リフレクションの手法 言語スキル 研究スキル	・社会情動的倫理的学びを通して、自身の感情を客観的にとらえる。 ・パラグラフライティングの練習を重ねる。 ・探究活動の基礎を習得する。
	3学期	SEEラーニング リフレクションの手法 言語スキル 研究スキル	・自身や他者を理解し、探究活動を通して非認知能力を育成する。 ・1年間の学びを振り返るとともに、自分の主張を論理的にまとめて発表する。
学習の留意点・評価など	非認知能力の育成とともに、自らの内にある疑問や意見を他者と共有し、探究活動を行う。 また、その結果を作品やプレゼンテーションなどで共有や発表を行う。		
評価の観点			

教科名	Dignity	科目名	Dignity
対象学年	中学2年	コース・選択等	——
単位数	1単位	教科書 (出版社)	
使用教材	言葉のワークブック2 (つくば言語技術研究所) 課題研究メソッドZERO (啓林館) 探究スタートアップ (JTB)		
学習のねらい	①社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ②自分の気持ちや考え方を認識し、分析することで自分のモノの見方・考え方を発見する。 ③他者と協力しながら、問題の解決方法を考察する。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い
	1 学 期	SEEラーニング リフレクションの手法 研究スキル 問題解決型学習	・社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ・自分の気持ちや考え方を認識し、分析することで自分のモノの見方・考え方を発見する。 ・探究活動の基礎を習得する。 ・与えられた問いに対して、どのようなアプローチが必要なのかを分析する。
	2 学 期	SEEラーニング 問題解決型学習	・社会情動的倫理的学びを通して、自身の感情を客観的にとらえる。 ・与えられた問いに対して、他者と協力して必要な情報を集め、分析し、考察する。
	3 学 期	SEEラーニング 問題解決型学習 プレゼンテーション	・自身や他者を理解し、探究活動を通して非認知能力を育成する。 ・問いに対する主張をまとめ、作品作りやプレゼンテーションによって共有や発表を行う。
学習の留意点・評価など	非認知能力の育成とともに、自らの内にある疑問や意見を他者と共有し、他者と協力して探究活動を行う。また、その結果を作品やプレゼンテーションなどで共有や発表を行う。		
評価の観点			

教科名	Dignity	科目名	Dignity
対象学年	中学3年	コース・選択等	——
単位数	1単位	教科書 (出版社)	
使用教材	言葉のワークブック2 (つくば言語技術研究所) 課題研究メソッド (啓林館) 探究スタートアップ (JTB)		
学習のねらい	①社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ②自分の気持ちや考え方を認識し、分析することで自分のモノの見方・考え方を発見する。 ③他者と協力しながら、プロジェクトをやり遂げる。		
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	ね ら い
	1 学 期	SEEラーニング 研究スキル プロジェクト型学習	・社会情動的倫理的学びを通して、自身や他者を理解する。 ・探究活動の基礎を習得する。 ・与えられたプロジェクトに対して、様々な視点から問いを考え、どのようなアプローチが必要なのかを分析する。
	2 学 期	SEEラーニング プロジェクト型学習	・社会情動的倫理的学びを通して、自身の感情を客観的にとらえる。 ・自ら考えた問いに対して、他者と協力して必要な情報を集め、分析し、考察する。
	3 学 期	SEEラーニング プロジェクト型学習 プレゼンテーション	・自身や他者を理解し、探究活動を通して非認知能力を育成する。 ・問いに対する主張をまとめ、作品作りやプレゼンテーションによって共有や発表を行う。
学習の留意点・評価など	非認知能力の育成とともに、自らの内にある疑問や意見を他者と共有し、他者と協力して探究活動を行う。また、その結果を作品やプレゼンテーションなどで共有や発表を行う。		
評価の観点			

教科名		Dignity 「生き方を探る」～社会に参画し主体的に生きるために～				
対象学年		高校1年	コース・選択等			
単位数		1 単位	教科書 (出版社)			
使用教材		ワークシート各種				
学習のねらい		「well-beingな世界をつくる」を探究テーマとして、カードゲームをつくり、そのカードゲームが誰かの学びや、困りごとの解決に役立つことを目指します。そして、その結果、日々の生活の中に笑顔が生まれ、Well-beingな人が増えていく世界を創り出します。				
特に習得されるべきスキル		・ 自己理解の力／自分が何に興味を持っているかに気づく力 ・ 困難な状況でも自分を責めすぎず、気持ちを整えながら前に進む力 ・ 他者の思いや立場を理解し、対話や協力によって関係を築く力 ・ 他者や社会に対する思いやりの心を持ち、感謝を表現できる力 ・ 自分が社会や自然の一部であることを理解し、多様なつながりを意識する力 ・ 物事を多面的に捉え、論理的に考え、自分の考えを他者に伝える力				
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学習内容	科学的思考	表現	協働
	4 月	オリエンテーション	一年間の授業の予定、Dignityの目的、ルールを理解する。 パラグラフライティング：わたしをつくるアトリエでやってみたいこと		○	
		対話のスキル	対話力・自己理解力を高めるNon Violent Communicationの手法を経験する。 年間を通してNVCを随時行う。		○	○
		リフレクション	探究スタートアップ1：違いから発見する	○	○	○
	5 月	探究の仕事 リフレクション	探究は、どのような活動（仕事）から構成されているかを知る。その上で、中3のDignityの活動を振り返る。	○	○	○
		リフレクション	探究スタートアップ2：共感から発見する	○	○	○
	6 月	わたしをDigる 自分との対話 他者との対話	「beの肩書」の手法を使って、自分を深掘りする。 他者との対話を通して自分を深掘りして、自分を表現するオリジナル名刺を作成する。名刺交換会を行い、他者と対話する。		○	○
	7 月	プロジェクト： カードゲーム	先輩がつくったカードゲームをやってみる。 クリティークを練習する。親切で具体的で役に立つフィードバックとは何かを考える。		○	○
		リフレクション	1学期の活動を振り返る。		○	
	8 月	情報収集	関心のある社会課題を見つけて記録する	○	○	

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	科学的 思考	表現	協働
	9 月	リフレクション	探究スタートアップ3：モヤモヤから発見する		○	○
		プロジェクト： カードゲーム 情報収集	・夏休みに集めた情報を共有する。 ・市販のカードゲームをやってみる。 →それぞれのゲームの特徴をつかむ。 プレイヤーの言動や表情を観察する。	○	○	○
	10月	プロジェクト： カードゲーム プロトタイプ1	・アイデア出し ・プロトタイプ1をつくる→試す→クリティーク	○	○	○
	11月	プロトタイプ2	・企画書をつくる ・プロトタイプ1を改良する→試す→クリティーク	○	○	○
	12月					
		リフレクション	探究スタートアップ4：強みから発見する	○	○	○
	1 月	カードゲーム完成	・プロトタイプ2を改良する→試す→クリティーク ・ゲーム大会に向けて、カードゲームを紹介する 文章を書く。（個人→チーム）	○	○	○
	2 月	発表会準備	ゲーム大会の準備をする。		○	○
		研究発表	1年2年合同Dignity研究発表会		○	○
リフレクション		1年間の活動を振り返り、自己評価をする。		○		
学習の 留意点・ 評価など		自分・他者の声を聴き、自己理解・他者理解を深める。評価は観点別で行い、評価の素材には、提出されたワークシートを用いる。				

教科名		Dignity 「生き方を探る」～社会に参画し主体的に生きるために～				
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠ		
単位数		2単位	教科書 (出版社)			
使用教材		ワークシート各種				
学習のねらい		「わたし」「他者」これらを取り巻く「システム」に気づき理解する。わたしと他者に気づき、安心安全の学びの場をつくるために、Non Violent Communicationのトレーニングを継続して行う。メインプロジェクトとして企業に提示していただくリアルな社会課題を探究する。探究を通して、社会課題を構成する諸要素とその相互依存性を理解する。社会で使うことができる生きた力を養う。				
特に習得されるべきスキル		・ 自己理解の力／自分が何に興味を持っているかに気づく力 ・ 困難な状況でも自分を責めすぎず、気持ちを整えながら前に進む力 ・ 他者の思いや立場を理解し、対話や協力によって関係を築く力 ・ 他者や社会に対する思いやりの心を持ち、感謝を表現できる力 ・ 自分が社会や自然の一部であることを理解し、多様なつながりを意識する力 ・ 物事を多面的に捉え、論理的に考え、自分の考えを他者に伝える力				
学習内容と流れ	学期・月等	単 元	学習内容	科学的思考	表現	協働
	4月	オリエンテーション	一年間の授業の予定、Dignityの目的、ルールを理解する。 探究に必要な仕事を確認する。			
		気づきの感度を上げる	ワークショップ：Feel度Walkを行う。榮光館を探索し、普段見過ごしているものに気づき、知図を作成する。	○	○	○
	5月	わたしを深堀る	ワークショップ：beの肩書を行う。Doの肩書（何をしている人か）ではなく、beの肩書(何が好きで、何をしたい人か)を言語化し、名刺を作成する。		○	○
	6月 7月	わたしを深堀る	わたしを深ぼり、わたしを表すウイルスを描く。		○	○
		システム思考とデザイン	システム思考の視点から、人や出来事がつながり合っていることを学び、自分と社会の関わりや相互依存の関係性について理解を深める。 システム・デザイナーの方による講演とワークショップを行う。 講演：デザインの力を実施する	○	○	○
	8月	リサーチ	学部・学科に関する情報を収集する。	○		
	9月 10月	プロジェクト：企業の課題	企業から提示された多様なテーマにグループで取り組み、協働しながら思考・調査・表現活動を行う中で、自分の興味や関心を深め、学びを社会とつなげる力を育てる。	○	○	○
11月	中間発表	研究の中間発表をして、質疑応答する。		○	○	

学期・月等	単 元	学習内容	科学的思考	表現	協働
1 月	プロジェクト：企業の課題	中間発表で得た意見や気づきをもとに、チームで対話をし、研究をブラッシュアップする。	○	○	○
2 月	研究成果のまとめ	1 年間の研究成果の発表に向けて準備をする。	○	○	○
	研究発表	コース I 合同研究発表会 1 年 2 年合同Dignity研究発表会		○	○
	リフレクション	1 年間の活動をループリックを使って自己評価をする。	○		
学習の留意点・評価など	多様な価値観を尊重し、安心して対話・表現できる場づくりを意識する。自己理解と他者理解を深めるプロセスを丁寧に支援する。評価は観点別で行い、評価の素材には、提出されたワークシートを用いる。				

教科名		Dignity 「生き方を探る」～社会に参画し主体的に生きるために～				
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅡ・Ⅲ		
単位数		1単位	教科書 (出版社)	――		
使用教材		ワークシート各種				
学習の ねらい		1年生で習得したスキルを活用して研究を行う。研究を通して、研究法を学ぶとともに、問いを見いだす力や論理力・分析力・批判的思考力を養う。				
特に習得 されるべ きスキル		・自分の好きをみつけることができる。 ・well-beingな社会をつくるためのリサーチクエスト（具体的な問い）を立てることができる。 ・協働的な学びの価値に気づき、積極的に対話や質疑応答をすることができる。 ・リフレクションの価値に気づき、体験した探究活動を振り返り言語化することができる。 ・適切なデータを収集して分析し、事実に基づく理由を添えてリサーチクエストに答えることができる。				
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	科学的 思考	表現	協働
	1学期 4月	オリエンテーション	・興味のある分野から自分の興味のあるキーワードを見つけて「わたしの好き」を知る。	○	○	○
	5月	基礎リサーチ	・それぞれの「わたしの好き」を共有する。			
	6月		<グループ研究に向けて> ・実験／調査のリテラシーを学ぶ ・データの分析／考察の練習 ・アンケート作成演習	○	○	○
	7月		・グループ研究テーマ決め ・先行研究調査	○	○	○
	8月	夏休み	・先行研究調査	○	○	
	2学期 9月	リサーチ	・グループ編成 ・研究分野決め ・研究計画作成	○	○	○
	10月		・研究計画作成 ・合同中間発表	○	○	○
	11月		・調査、分析、考察	○	○	○
	12月					
	3学期 1月		・発表のための準備	○	○	○
	2月	小論文	・合同研究発表会	○	○	
	3月		・1年の振り返り		○	

**学習の
留意点・
評価など**

- ・教科学習で習得した知識を活かして研究に取り組むように導く。
- ・感覚的な考察ではなく、データに基づくエビデンスを常に求めさせる。
- ・評価は観点別で行い、評価の素材には、提出されたワークシートを用いる。

教科名		Dignity 「生き方を探る」～社会に参画し主体的に生きるために～				
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ		
単位数		1単位	教科書 (出版社)			
使用教材		ワークシート各種				
学習の ねらい		1年生と2年生で習得した研究スキルを活用し、個々に研究に取り組む。研究を通して、問いを見 いだす力や論理力・分析力・批判的思考力を養う。				
特に習得 されるべ きスキル		・明確な問いを設定し、その問いに答える力 ・適切な情報を収集し、批判的に分析する力 ・自分の意見に理由や根拠を添えながら、わかりやすく筋道を立てて論を展開する力				
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	科学的 思考	表現	協働
	4月	オリエンテーション	1年間の授業の予定を説明する。 経験から自分の興味関心を深掘りする。		○	○
		わたしを深掘る 大学の学科調べ	大学のパンフレットを参考に、自分の興味関心と 学科を繋げる。	○	○	
	5月	大学の学科調べ 中間発表	各学科の特徴を調べ、まとめて発表する。		○	
	6・7 月	スライド作成 志望理由書	進学を希望する学科やゼミではどのような活動が 行われているのかをさらに調べ、大学でやりたい ことを明確にする。そのまとめとして、スライド を作成する。 7月までの活動を参考に、希望する学部学科の志 望理由書を書く。	○	○	
	9月	最終発表 面接に向けた準備	スライドを完成させ、発表の準備をする。最終発 表を行う。 これまでの活動をまとめ、面接に向けた準備をす る。		○	
学習の 留意点・ 評価など		教科学習で習得した知識を活かしながら取り組むように導く。 評価は観点別で行い、評価の素材には、提出されたワークシート等を用いる。 10月以降は 高大接続型推薦予定者は、大学での授業に参加する。 上記以外の生徒は、受験対策用の希望講座別授業を受ける。 ただし、曜日変更で高大接続連携授業がない日は、各HRで面接準備や進路指導を行う。				

教科名		Dignity 「生き方を探る」～社会に参画し主体的に生きるために～				
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅡ・コースⅢ		
単位数		1単位	教科書 (出版社)			
使用教材		ワークシート各種				
学習の ねらい		1年生と2年生で習得した研究スキルを活用し、個々に研究に取り組む。また自分自身の内面に対 して、これまで習得した技術を用いて自己分析を行い、将来にいかしていく。				
特に習得 されるべ きスキル		・問いを設定する力 ・わかりやすく理由や根拠を添えながら、自身が行った研究をまとめる力 ・協働的な学びの価値に気づき、積極的に対話や質疑応答をすることができる。 ・リフレクションの価値に気づき、体験した探究活動を振り返り言語化することができる。 ・批判的に資料を読み、判断して、研究のまとめに反映させる力 ・自分自身を客観的に見つめ、自分の内面を具体的に言語化する力				
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	学習内容	科学的 思考	表現	協働
	4月	オリエンテーション	1年間の授業の予定を説明する。研究のまとめの 書式や下書き、提出期限等を確認する。		○	○
	5月	研究のまとめ	昨年度グループで行った研究を個人でまとめ上げ る。	○	○	
	6月	自己分析 自己実現に向けた計画	自分自身の内面的なことに対して、分析を行い、 自分に対する理解を深めていく。 希望する学部学科の志望理由書を書き、大学で何 を学びたいのか、その理由は何かを明確にする。 これによって主体的な進路選択につなげる。 志望理由書を書き上げ、進路実現にいかしていく。	○	○	
	7月		自己実現に向けて、短期・長期的な計画を立てる。		○	
	9月	進路を考える	夏休み中に達成できたことを振り返り、これからの 進路指導を行う。		○	
学習の 留意点・ 評価など		教科学習で習得した知識を活かして、研究に取り組むように導く。テーマの設定に際しては、希望 する学部や学科との関連性を考慮して決めるよう示唆する。評価は観点別で行い、評価の素材には、 提出された研究のまとめとワークシートを用いる。 10月以降高大接続型推薦予定者は、大学での授業に参加する。 上記以外の生徒は、受験対策用の希望講座別授業を受ける。 ただし、曜日変更で高大接続連携授業がない日は、各HRで面接準備や進路指導を行う。				

教科名		Study Skills	
対象学年	高校1年	コース・選択等	——
単位数	1単位	教科書 (出版社)	——
参考書・ 使用教材	THE FIRST STEP データサイエンス (大修館書店)		
学習の ねらい	①授業に主体的に参画する態度や協働の学びに貢献する態度を身に付け、すべての教科の土台となる学習方法を確立できる。 ②情報を統計的に分析し、エビデンスに基づいて考察・判断することができる。 ③自身の考え(主張)を言語化し、他者に論理立てて伝えることができる。 ④社会で必須となるデジタルスキルを身に付け、将来のキャリアに活かす備えとする。		
学習 内容 と 流れ	学期・ 月等	単 元	内 容 ・ ね ら い
	4月	オリエンテーション	・ Study Skillsプログラムの概要を把握する。 ・ 情報リテラシー演習、生成AI実践
	6月	データサイエンス1 データの種類・構造	・ 量的データと質的データの違いを理解し、分析目的に応じて適切なデータ形式を選択・整理する技能を習得する。 ・ データの欠損や外れ値が分析結果に与える影響を考察し、客観的な視点でデータを整える習慣を身につける。
		データサイエンス2 データの可視化・要約	・ 代表値(平均値・中央値等)や散布度の意味を理解し、データの分布特性を多角的に捉えて要約する力を養う。 ・ ヒストグラムや箱ひげ図などのグラフを適切に使い分け、データの背後にある傾向を視覚的に説明・共有できるようにする。
		データサイエンス3 相関係数・相関分析	・ 2変数間の相関関係を数値(相関係数)と図(散布図)で捉え、事象間の関連性の強さを論理的に説明できる。 ・ 相関関係と因果関係を混同せず、第3の変数の存在などを疑いながら、データの関連性を慎重に解釈する批判的思考力を養う。
	7月	データサイエンス4 回帰分析・近似曲線	・ 散布図に近似曲線を描くことでデータの傾向をモデル化し、未知の値に対する予測や現状の構造理解に役立てる手法を習得する。 ・ 数式(回帰式)を用いて予測を行う際、その精度(決定係数)や限界を意識し、根拠に基づいた意思決定を行う態度を身につける。
		データサイエンス5 量的データの検定(t検定)	・ 仮説検定の考え方(有意差の判断基準)を理解し、2つのグループ間の平均値の差が「意味のある差」かどうかを統計的に判断する。 ・ 単なる直感や経験に頼らず、p値などの指標を用いて、主張の妥当性を数学的に裏付けるプロセスを経験する。
		データサイエンス6 質的データの分析 (カイ二乗検定)	・ クロス集計表から項目間の独立性を検定する手法を学び、アンケート結果などのカテゴリーデータの関連性を客観的に評価する。 ・ 身近な社会現象や学校生活における事象を質的データの観点から数理的に分析し、納得感のある結論を導き出す力を養う。

学期・ 月等	単 元	内 容 ・ ね ら い
9 月 ～ 1 月	探究のために 1 質問紙法	・ 質問紙法のワークによって、アンケート調査の適切な方法を学ぶ。 ・ 自分達でアンケート調査を作ってみる。
	探究のために 2 テキストマイニング	・ フリーソフト「KH Coder」を使ってみることによって、質的データを見える化し、その結果をもとに客観的に考察する態度を育てる。
	探究のために 3 実験リテラシー	・ パラメータの理解、対照実験の取り方を実践的に学ぶ。
	探究のために 4 3Dプリンター	・ 自身のアイデアを3Dモデリングソフトを用いて三次元データとして表現し、物理的な実体へと変換するプロセスを習得する。
	2 月 まとめ	・ 1 年間のプログラムを経て、今自分が興味・関心をもっている分野について自分で 情報を収集しながら深掘りし、2 年生Dignityでの探究活動への備えとする。
学習の 留意点・ 評価など	・ 単位の認定について 授業の活動に主体的に参加して探究していること。ワークシートを提出していること。	